

科学研究費助成事業 基盤研究(B) 課題番号:24401018

研究課題「ヤオ族の儀礼知識と儀礼文献の保存・活用・継承」

臺
花
關

盤王聖帝盤古聖
儒釋道教伏江土地神位
上壇兵馬福祿兵將之神位
昊天金闕玉皇大帝
下壇梅山法王兵將
天司命竈王府君之神位
氏祖宗一脉宗親之神位

南
海
紫
竹
千
秋
在

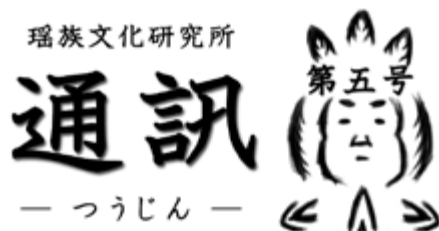


瑶族文化研究所

第五号

通訊

—つうじん—



目 次

5号刊行にあたって	3	廣田 律子
I. 蔡文高先生を偲んで	4	
蔡文高先生の経歴	5	泉水 英計
蔡文高先生哀悼詩	7	
II. 活動報告	9	
1. ヤオ族文化研究所 所員一覧	10	
2. ヤオ族文化研究所活動	10	
3. ヤオ族文化研究所獲得資金	13	
III. 研究報告	14	
盤王愿儀礼程序（2011年還家愿儀礼程序）	15	廣田 律子
招五穀兵について	52	
—中国湖南省瑶族（过山瑶）の還家愿儀礼から—		浅野 春二
儀礼実践から見たミエン儀礼神画の使用	64	譚 静

蔡文高先生追悼

5号刊行にあたって

神奈川大学経営学部教授 ヤオ族文化研究所所長
廣田 律子

通 訊 5 号をお届けします。

2014年3月10日日本研究所に最初からご参加くださり支え続けてくださった蔡文高先生が鬼籍に入られました。蔡先生の存在は大きく研究所にとっての損失は計り知れず、はや1年経とうとしておりますが、悲しみが癒えることはなく蔡先生を失った空虚感を埋めることができません。

2013年8月にヤオ族の祭司（趙金付氏、馮榮軍氏、盤榮富氏）が来日し、補足調査を実施した際、暑い中にもかかわらず蔡先生は毎日参加され、研究対象となさっているヤオ族の火葬を撮影したビデオを見つつ討論したり、穀霊について言葉を補って通訳して下さったりしましたが、これが最後の本研究所の活動となってしまいました。

泉水先生が蔡先生の経歴を作成して下さいました。本研究所での蔡先生の活動の写真、さらに蔡先生のご友人がお送り下さいました哀悼の詩を掲載し偲ぶ頁としました。

皆の心や記憶の中だけの存在ではなく蔡先生の強い意志が今も本研究所を支え続けて下さっているといつも感じております。

研究報告としては浅野先生が穀霊についてご論攷“招五穀兵について—中国湖南省瑤族（過山瑤）の還家愿儀礼から—”をご寄稿下さいました。

また譚静氏が博士論文“過山系ヤオ族（ミエン）儀礼神画に関する総合的研究—儀礼神画と儀礼文献と儀礼実践からの立体化の試み—”を神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科に提出しましたので、“儀礼実践から見た過山系ヤオ族（ミエン）儀礼神画の使用”にまとめてくれました。

2014年8月に藍山県に赴き、言語に関する調査および度戒儀礼・還家愿儀礼の補足調査を実施しましたが、その際、還家愿儀礼の「盤王愿」部分の执行程序についてさらに詳しく聞き取りを行ないました。今回新たに程序を作り直し、“盤王愿儀礼程序（2011年還

家愿儀礼程序）”としてまとめました。

2015年は1月にヤオ族祭司（趙金付氏、馮榮軍氏、盤榮富氏）が来日し、歌について聞き取りを行なったほか、還家愿儀礼の「招兵愿」部分の执行程序について詳しく聞き取りを行ないましたが、新たな発見が次々とあり解明しなければならないことが限りなく存在すると実感しました。

2月から3月にかけて、神奈川大学プロジェクト研究所ヤオ族文化研究所主催講座“アジアに生きる少数民族の文化を知る”をKUポースクエアで開講しました。ヤオ族にとって移住という行為は神話・儀礼文書・個人的経験のいずれのレベルにも共通する“先祖伝来の営為（吉野晃先生）”であると認識されており、ヤオの個人的民族的アイデンティティーは移住を常態とみなし、移動し続けることを中核とすることで形成されています。このことがヤオ族の順応性・柔軟性に加え独自性を失わない価値観に表われているといえます。ヤオ族の言語・家族・生業・祭り・年中行事・人生儀礼・衣装・音楽・踊り・絵画を通して、その生きざまと民俗知識を知ることとわれわれ日本人も種々な示唆を得ることになると考え、本講座を企画しました。第1回は吉野晃先生“ヤオ族概説”、第2回は吉野晃・増野高司両先生“生業”、第3回は吉川雅之先生・廣田律子“言語と神話”、第4回は内海涼子先生“衣文化”、第5回は泉水英計先生“家族と社会”、第6回は丸山宏・浅野春二両先生“儀礼と儀礼文献”の内容でした。

11月28、29日には国際シンポジウム“瑶族の歌謡と儀礼”を神奈川大学湘南ひらつかキャンパスで開催予定です。本研究所の国外の所員（趙金付氏、馮榮軍氏、盤榮富氏、張勁松氏、趙書峰氏、叶明生氏、何紅一氏、Lucia OBI氏）に加え、北京の中央音楽学院楊民康氏もご参加の予定です。

引き続き研究の成果を活発に公開して参りたく存じます。

1. 蔡文高先生を偲んで



2010年03月 ミュンヘンバイエルン州立図書館資料閲覧

蔡文高先生哀悼

蔡文高先生の経歴

神奈川大学経営学部教授 ヤオ族文化研究所研究員
泉水 英計

蔡文高先生は1962年10月23日(旧暦壬寅年九月二十日)に中国福建省龍岩市長汀県河田鎮蔡坊村に蔡步魁(父親)と呂二金(母親)の長男としてお生まれになりました。蔡坊村の小中学校を経て、高等学校は当地の名門河田高校に進学し優秀な成績で卒業されました。大学の選考制度が改革されていなければ、家具職人か洋裁職人になる予定であったということです。1980年9月に厦門大学中国文学系漢語文学専攻に入学し、厦門大学中文系80級乙班に在籍、1984年7月に同大学を卒業し、同年9月に北京郵電学院(現北京郵電大学)講師に就任されました。

来日されたのは1990年10月、前年の1989年12月に郭丹夫人と結婚され、来日後に長男蔡遠非君・長女郭源蘇さんが生まれました。1994年に成城大学院文学研究科日本常民文化専攻博士前期課程に入学し、1996年に修了(修士論文「日中洗骨改葬の比較研究」)、そのまま進学した同博士後期課程を2002年に修了されました(博士論文「日中洗骨改葬の比較研究」)。在学中にアジア・アフリカ語学院や湘南国際女子短期大学で非常勤講師を務め、博士課程修了後は成城大学文芸学部、法政大学社会学部、明星大学、東京都立大学人文学部文学科および同大学院人文科学研究科に非常勤で出講されています。2004年からは東京都立大学人文学部文学科、同大学院人文科学研究科外国人招聘講師に就任、2005年に萩国際大学国際情報学部国際学科助教授に就任され、2006年からは神奈川大学法学部特任助教授に転じ、2009年まで歴史民俗資料学研究科の教職を担当されました。

その後、2008年から東京学芸大学アジア研究教室特任准教授(非常勤)、2009年からは東京学芸大学教育学部非常勤講師、國學院大學文学部、大学院文学研究科非常勤講師、2010年から神奈川大学経営学部非常勤講師として2014年3月まで通い続けられました。

学会活動に関しては、日本民俗学会、日本文化人類

学会、中国民俗学会、仙人の会(2003年～2004年幹事)、日中人文社会学会(理事)、国際客家文化協会(理事)、『客家與多元文化』(編集委員)を歴任し、日中の民俗の比較研究、客家研究の分野で大きな貢献をされました。数多くの共同研究にも主力メンバーとして参加し、口頭発表や講演等に活躍されました。後世までも影響力のある学術論攷を数多く残されており、葬送儀礼をめぐる東アジアの視点からの比較研究は、特に貴重な功績といえます。

主著は『洗骨改葬の比較民俗学的研究』(岩田書院2004年10月459p.)で、福建省を初めとする南部中国と西南諸島の文化の実証的な比較研究の一環として洗骨改葬を取り上げ、中国の洗骨改葬の歴史や分布、現在の様相などを整理し、実地調査によって得た福建省西部の洗骨改葬の資料を報告したうえで、福建省西部の事例を中心とする南部中国の洗骨改葬と南西諸島のその類似点と差異点を明らかにする実証的な比較研究をされています。関連して「招魂儀礼から見る漢族の死生観—死の場所と靈魂観—祖先観の考察を中心に—」『死の儀法—在宅死に見る葬の礼節・死生観—』(ミネルヴァ書房2008年3月pp.45-52)があります。中国の古典に関しても造詣が深く、古典の整理と蒐集について『古籍整理与伝統文化』(遼寧大学出版社1991年4月pp.28-47)があります。

葬送に関した他の研究論文のうち「福建省西部地域の洗骨改葬—沖縄との若干の比較もかねて—」『比較民俗研究』第13号(比較民俗研究会1996年3月pp.12-42)は、福建省西部の洗骨改葬について、フィールドワークで得た資料に基づいて、事例の紹介をした後、洗骨改葬の持つ意味を分析し、沖縄の洗骨改葬との異同も比較分析されています。この高論は日本民俗学会第17回研究奨励賞を受賞されています。その他「明・清頃中国の洗骨改葬—「中国地方誌民族資料彙編」を中心に、その他の資料の分析から—」『成城文藝』第160号(成城大学文芸学部1997年10月pp.50-94)、「福

建省西部地域の死者儀礼—中国福建省長汀県蔡坊村の事例から—『成城文藝』第172号(成城大学文芸学部2000年10月 pp.46-75)、「福建省西部の洗骨改葬と風水信仰」『アジア漢文化地域の民族宗教に関する宗教人類学的研究』(調査報告書)(駒澤大学文学部文化学教室2001年3月 pp.24-33)、「洗骨改葬から焼骨改葬へ—豊見城村字高安の葬法の変遷に関する一考察—」『常民文化』第24号(成城大学2001年3月 pp.1-20)、「日中洗骨改葬習俗の比較研究—沖縄と福建省西部の場合—」『国立歴史民族博物館研究報告』第91集(国立歴史民俗博物館2001年3月 pp.263-278)、「福建省西部の祖先祭祀—長汀県蔡坊村を事例として—」『東アジアの民族と環境』(金壽堂出版2002年6月 pp.212-226)、「福建省沿岸諸地域の洗骨改葬」『中国福建省福州及び泉州と沖縄の文化・社会の比較研究』(調査報告集)(沖縄国際大学2003年6月 pp.123-143)、「福建省西部の祖先祭祀—以長汀県蔡坊村為例—」『文学・歴史伝統と人文精神』(中国社会科学出版社2003年12月)、「浄化される祖先—南部中国漢民族の洗骨改葬儀礼—」『アジア遊学』(特集・路地裏の宗教)第58号(勉誠出版2003年12月 pp.45-59)、「沖縄葬墓文化の重層性について—東南中国との比較から—」『民具研究』第134号(日本民具学会2006年9月 pp.34-45)、「福建省西部における祖先祭祀の復興と客家—長汀県汀州鎮劉氏家廟の事例から—」『客家の創世と再創世—歴史と空間からの総合的再検討—』(風響社2012年2月 pp.217-224)等があります。

ヤオ族文化研究所には2008年の開設以来、客員研究員として所属し、また、研究所を母体としたトヨタ財団研究助成および科学研究費補助金による共同研究では研究分担者として、以下に紹介するような積極的な活動を展開されました。

まず、2008年度戒儀礼の調査に参加した後に、「藍山ヤオ族度戒儀礼調査帰来」『瑶族文化研究所通説』第1号(ヤオ族文化研究所2009年3月 p.23)で、度戒儀礼に祖先祭祀に関連する要素を見だし「私は今後『度戒儀礼に見るヤオ族の祖先崇拜』というテーマで調査していきたい」と強い関心を綴られています。調査中に録画記録した映像資料の扱いについて地元の政府と協定を結びましたが、蔡先生の巧みな交渉力によって妥協点を見出すことができました。2010年3月13日から21日には、ドイツのミュンヘンでバイエル

ン州立図書館収蔵のヤオ族文献調査に参加し、葬送祖先祭祀にかかわる文献を熱心に閲覧されました。

2010年11月の「ヤオ族伝統文献研究国際シンポジウム」(神奈川大学)では「儀礼文書にみるヤオ族の墓造りと祖先観」を口頭発表し、発表原稿は「儀礼文書にみるヤオ族の墓造りと祖先観」『ヤオ族伝統文献研究国際シンポジウム(予稿集)』(ヤオ族文化研究所2010年11月 pp.69-75)に収められています。「買地券」および造墓儀礼の文書についてバイエルン州立図書館で閲覧収集した資料と、福建省長汀県の資料と藍山県の資料の比較検討を試みられています。開催に合わせ、早稲田大学で講演会「ヤオ族の儀礼文化と文献—アジアの少数民族が伝える多元的な文化伝統」も実施されましたが、この間ずっと通訳としても尽力されました。

2010年8月に藍山県で補足調査を行なった際、偶然に葬送儀礼の調査を許されるというめったにない機会を得ました。補足調査に参加されていた蔡先生は帰国日を延ばし、お一人で儀礼最終日まで現地に残って調査を続けられました。葬送儀礼の執行程序は『瑶族文化研究所通説』第3号(ヤオ族文化研究所2011年11月 pp.88-90)に表にしてまとめられています。2013年8月に神奈川大学に趙金付さん、馮栄軍さん、盤栄富さんを招聘し、補足調査を行なった際、蔡先生は毎日ご参加され、趙さんらが持参された火葬のビデオに深い興味を示されていました。

ヤオ族文化研究所のウェブサイトの概要の中文は蔡先生が訳されたものです。ヤオ族文化研究所のウェブサイトを開けると、刊行物にも記録画像にも蔡先生の姿や言葉や論述を今でも見いだすことができます。

これらのご研究の更なる発展を確信していたヤオ族文化研究所の仲間たちは、重篤なご病気に罹患されたとうかがったとき俄にはそれを信じることはできませんでした。その後、長い闘病生活に辛抱強く耐えつつも、顔を合わせるときには、以前と変わらぬ優しい物腰でお話され、また、最後まで教室に通って学生の指導にあたられていたことが印象に残っています。2014年3月10日21時23分にご他界との知らせを痛恨の思いで受け取りました。今はただ心からご冥福をお祈りもうしあげるばかりです。

蔡文高先生哀悼詩

哀悼文高

廈門大學中文系 1980 年入學 乙班同級生
施純志

鷺島同窗，京華同路，
曾共醉臥海灘，
嘯傲草原，覓詩土城，
相期莫負平生夙願；
扶桑立足，上庠立業，
正當撫育兒女，
傳道杏壇，揚名學界，
豈意頓作異國孤魂。

哀悼文高同學

廈門大學中文系 1980 年入學 乙班同級生
李成龍

生長在西閩，
讀書在南國，
勵志在北京，
何苦留魂在東土。

長城觀秋月，
承德觀夏荷，
泰山觀冬日，
曾期鷺島觀春湖。

清明悼文高

廈門大學中文系 1980 年入學 乙班同級生
施純志

重洋萬里扶桑國，黑水茫茫日正昏。
鷺島聽濤成絕響，臨風一慟賦招魂。

感懷

廈門大學中文系 1980 年入學 乙班同級生
林鷺峰

昨夜小酌東風起，
傳訊兄弟做客去，
人生如戲為離去，
不知悲喜難成泣。



2008 年 12 月 度戒儀禮調查



2010 年 03 月 ミュンヘンバイエルン州立図書館資料閲覧



2008 年 12 月 度戒儀禮調查



2010年03月 ミュンヘンバイエルン州立図書館資料閲覧



2010年03月 ミュンヘンバイエルン州立図書館資料閲覧



2010年11月 神奈川大学ヤオ族伝統研究国際シンポジウム
補足調査



2010年11月 神奈川大学ヤオ族伝統研究国際シンポジウム
関西調査



2010年11月 神奈川大学ヤオ族伝統研究国際シンポジウム
早稲田大学



2013年08月 神奈川大学補足調査 右から蔡先生、松本先生、
趙金付先生、馮榮軍先生

II. 活動報告



1. ヤオ族文化研究所 所員一覽

所長	廣田律子			
研究員	佐野賢治	泉水英計	高城玲	
名誉教授	蔡文高			
プロジェクト研究員	張勁松	松本浩一	吉野晃	丸山宏
	浅野春二	森由利亜	夏宇繼	Terry F. Kleeman
研究協力者	佐川潤子	李利	広川英一郎	三村宜敬
	Lucia Obi	丸山蘇素卿	内藤久義	譚静
	大木都志男	財津直美	岡田浩司	馮榮軍
	趙金付	趙書峰	侯莉娜	盤榮富
	黄愛平	加藤光一郎	張晶晶	趙付佑
	葉明生	吉川雅之	増野高司	濱田武志
	王海波	内海涼子	小塩さとみ	曹咏梅
	有澤知乃	浜田孝子	辰巳正明	

敬称略、順不同、簡体字は日本漢字に変更。

2. ヤオ族文化研究所活動

(2013年8月～2014年11月)

1). 研究会開催状況

2013年		2014年	
ヤオ族度戒儀礼調査第45回研究会	10/06	ヤオ族度戒儀礼調査第47回研究会	02/16
ヤオ族度戒儀礼調査第46回研究会	12/15	ヤオ族度戒儀礼調査第48回研究会	04/06
		ヤオ族度戒儀礼調査第49回研究会	06/01
		ヤオ族度戒儀礼調査第50回研究会	07/20
		ヤオ族度戒儀礼調査第51回研究会	10/05

2). 湖南省藍山県宗教職能者招へいによる補足調査実施 2013/08/02～08/09 (於日本)

3). 北タイヤオ族調査実施 2014/01/03～01/08 (於タイ)

4). 湖南省藍山県言語調査(予備)実施 2014/03/14～03/17 (於中国)

5). 湖南省藍山県言語調査実施 2014/08/06～08/14 (於中国)

6). アメリカ議会図書館所蔵ヤオ族文献資料閲覧 2014/09/23～09/27 (於アメリカ)

7). その他、所員研究業績

※期間外ではあるが前号において記載されなかったため今号に記載した業績あり

氏名	内容
◆論文	
吉野晃	「ユーミエンにおける〈家先〉祭祀—タイと藍山県との〈家先単〉の比較—」『瑶族文化研究所通説』第4号 ヤオ族文化研究所 査読なし 2013年 pp.82-87
吉野晃	「オックスフォード文献調査」『瑶族文化研究所通説』第4号 ヤオ族文化研究所 査読なし 2013年 p.132
吉野晃	「タイ北部、ユーミエン(ヤオ)の儀礼における女性と歌謡」国際常民文化研究叢書 第7巻『アジア祭祀芸能の比較研究』神奈川大学国際常民文化研究機構 査読なし 2014年 pp.141-155
丸山宏	「湖南省藍山県勉系瑶族宗教儀式文字資料的研究価値—一度戒儀式文書を中心之探討—」『地方道教儀式実地調査比較研究 国際学術研究会論文集』新文豊出版公司 査読あり 2013年 pp.185-215
丸山宏	「第二回国際ヤオ族伝統文化研究会—資源と創意—総括報告」『瑶族文化研究所通説』第4号 ヤオ族文化研究所 査読なし 2013年 pp.123-131
丸山宏	「道教功德戲の唱道文化—以台南道教奈何橋全論所表現的生命觀為主—」『2013 宗教生命關懷 国際学術研究会手冊』査読なし 2013年 pp.227-246
浅野春二	「八門召魂壇に用いる鐵跡臺光寶章について—南宋期道教の神虎召魂法から—」『國學院中國學會報』第59輯 國學院大學中國學會 査読あり 2013年 pp.42-59
廣田律子	「願掛け願ほどの民俗—中国福建省漢族の元宵会と湖南省ヤオ族の還家愿儀礼を事例として—」『東アジア比較文化研究』12 東アジア比較文化国際会議日本支部 査読なし 2013年 pp.56-68 ※
廣田律子	「湖南省藍山県勉系瑶族道教儀式調査研究—以表演性項目を中心之考察—」『地方道教儀式実地調査比較研究 国際学術検討会論文集』新文豊出版公司 査読あり 2013年 pp.217-306
廣田律子	「祭祀儀礼と盤王伝承—儀礼の実施とテキスト—」『瑶族文化研究所通説』第4号 ヤオ族文化研究所 査読なし 2013年 pp.88-106
廣田律子	「ヤオ族春節調査」『瑶族文化研究所通説』第4号 ヤオ族文化研究所 査読なし 2013年 pp.133-136
廣田律子	「儀礼知識の伝承に関する研究—身体コミュニケーションによる伝承とテキストによる伝承から—」国際常民文化研究叢書 第7巻『アジア祭祀芸能の比較研究』神奈川大学国際常民文化研究機構 査読なし 2014年 pp.199-230
廣田律子	(編集) 神奈川大学歴史調査報告第17集『南山大学人類学博物館所蔵上智大学西北タイ歴史文化調査団収集文献目録』神奈川大学大学院歴史民俗資料科学研究科 2014年 174p.
廣田律子	「湖南省蓝山县过山瑶的祭祀礼仪与盘王传承」『地方文化研究』2014年第3号 江西科技师范大学 査読なし 2014年 pp.63-75
◆学会発表など	
吉野晃	「女性シャマンと歌—タイ北部、ユーミエン(ヤオ)社会における新たな宗教現象に関する中間報告—」日本文化人類学会第47回研究大会 2013年6月8日 慶應義塾大学(於東京都) ※
吉野晃	「廟の建設と女性祭祀者の出現—タイ北部、ユーミエン社会における新しい宗教現象—」日本タイ学会 2013年度(第15回)研究大会 2013年7月7日 横浜市立大学(於神奈川県) ※
YOSHINO Akira	From Patrilineal Joint Families towards Nuclear Families: The Change of Household Structure in the Iu Mien (Yao) Society in Northern Thailand. (「父系合同家族から核家族へ—タイ北部におけるユーミエン(ヤオ)の家族構造の変化」) International Conference: Thai Studies through the East Wind. (チェンマイ大学人文学部・法学部・政治学部および日本タイ学会の共催) 2013年8月24日 フラマー・ホテル(於タイ王国チェンマイ市)
吉野晃	「2013/08/05～08 盤栄富氏からの聞き書き@神奈川大学」ヤオ族度戒儀礼調査第45回研究会 2013年10月6日 國學院大學(於東京都)

氏名	内容
丸山宏	「道教功德戲的唱道文化—以台南道教奈何橋全論所表現的生命觀為主—」2013 宗教生命關懷國際學術研討會 2013 年 12 月 7 日 正修科技大學通識教育中心 (於台灣高雄市)
丸山宏	「神奈川大学歴民調査報告第 17 集『南山大学人類学博物館所蔵上智大学西北タイ歴史文化調査団収集文献目録』解説」ヤオ族度戒儀礼調査第 49 回研究会 2014 年 6 月 1 日 東京学芸大学 (於東京都)
松本浩一	「2013 年 8 月補足調査報告 上光について」ヤオ族度戒儀礼調査第 45 回研究会 2014 年 10 月 6 日 國學院大學 (於東京都)
浅野春二	「八門召魂壇に用いる鐵跡臺寶光章と蓊人について—南宋期道教の神虎召魂法から—」國學院大學中國學會第 56 回大会 2013 年 6 月 30 日 國學院大學渋谷キャンパス (於東京都) ※
浅野春二	「招五谷兵について」ヤオ族度戒儀礼調査第 46 回研究会 2013 年 12 月 15 日 東京学芸大学 (於東京都)
浅野春二	「2013 年 8 月補足調査報告」ヤオ族度戒儀礼調査第 46 回研究会 2013 年 12 月 15 日 東京学芸大学 (於東京都)
浅野春二	「神虎法に見る召魂術の伝統について」道教文化研究会例会 2014 年 2 月 8 日 國學院大學渋谷キャンパス (於東京都)
浅野春二	「進表科儀に用いる符について—台南道教の祈安醮から—」國學院大學中國學會第 57 回大会 2014 年 6 月 22 日 國學院大學渋谷キャンパス (於東京都)
吉川雅之	「藍山県ミエン語の調査についての企画」ヤオ族度戒儀礼調査第 45 回研究会 2013 年 10 月 6 日 國學院大學 (於東京都)
吉川雅之	「ミエン語藍山県滙源方言調査報告」ヤオ族度戒儀礼調査第 48 回研究会 2014 年 4 月 6 日 東京学芸大学 (於東京都)
内海涼子	「ベトナム北部のヤオ系民族の伝統的な衣文化と信仰」ヤオ族度戒儀礼調査第 49 回研究会 2014 年 6 月 1 日 東京学芸大学 (於東京都)
譚静	「江西省神画調査報告」ヤオ族度戒儀礼調査第 47 回研究会 2014 年 2 月 16 日 東京学芸大学 (於東京都)
譚静	「ヤオ族の神画に関する研究」ヤオ族度戒儀礼調査第 49 回研究会 2014 年 6 月 1 日 東京学芸大学 (於東京都)
譚静	「ヤオ族の神画に関する研究」ヤオ族度戒儀礼調査第 50 回研究会 2014 年 7 月 20 日 東京学芸大学 (於東京都)
譚静	「ヤオ族の神画に関する研究」ヤオ族度戒儀礼調査第 51 回研究会 2014 年 10 月 5 日 東京学芸大学 (於東京都)
濱田武志	「2014 年 3 月藍山県滙源瑶族郷言語調査報告」ヤオ族度戒儀礼調査第 48 回研究会 2014 年 4 月 6 日 東京学芸大学 (於東京都)
吉野晃・増野高司・譚静・廣田律子	「2014 年 1 月タイ調査報告」ヤオ族度戒儀礼調査第 47 回研究会 2014 年 2 月 16 日 東京学芸大学 (於東京都)
丸山宏・廣田律子	「2014 年 8 月藍山県湘藍村調査報告」ヤオ族度戒儀礼調査第 51 回研究会 2014 年 10 月 5 日 東京学芸大学 (於東京都)
廣田律子	「湖南省藍山県湘藍村言語予備調査及び水環境予備調査報告」ヤオ族度戒儀礼調査第 48 回研究会 2014 年 4 月 6 日 東京学芸大学 (於東京都)
廣田律子	「湖南省藍山県过山瑶的祭祀礼仪与盘王传承」第 1 回東亜宗教文化国際學術研討會 2014 年 5 月 24 日 上海華東師範大学 (於中国上海)
廣田律子	「ヤオ族の水にかかわる儀礼と水利用—中国湖南省藍山県ヤオ族村を事例として—」アジアの水に関する総合的研究 神奈川大学アジア研究センター 2014 年 5 月 28 日 (於神奈川県)
◆図書	
吉野晃	「タイにおけるユーミエンの家族構成の社会史—合同家族から核家族へ—」『東南アジア大陸部 山地民の歴史と文化』言叢社 2014 年 349p. (pp.219-246)
吉野晃	「タイ北部、ユーミエンにおける儀礼文献の資源としての利用と操作」『中国の民族文化資源：南部地域の現在および分析』風響社 2014 年 436p. (pp.67-95)

氏名	内容
◆公開講座など	
廣田律子	「湖南省藍山県勉系瑶族道教儀式調査研究」名師引領民俗学学科骨下教師高級研修班 贛南師範大学 2014年8月17日
廣田律子	「中国の祭祀と芸能—身体コミュニケーションによる伝承—」神奈川大学大学院トリアルコース歴史民俗資料科学研究科開講講座 2014年11月1日

3. ヤオ族文化研究所獲得資金

科学研究費助成事業 基盤研究 (B)		
研究課題名	ヤオ族の儀礼知識と儀礼文献の保存・活用・継承	
課題番号	24401018	
2014年度	科学研究費補助金額 (直接経費+間接経費)	4,160,000円 (3,200,000円+ 960,000円)
	学術研究助成基金助成金 (直接経費+間接経費)	520,000円 (400,000円+ 120,000円)

公益財団法人横浜学術教育振興財団 研究助成	
名称	ヤオ族儀礼文献の文化資源としての活用—文献資料のデータ化と公開へ向けての試み—
予算額	210,000円

III. 研究報告



2014年01月 タイ調査

盤王愿儀礼程序 (2011年還家愿儀礼程序)

神奈川大学経営学部教授 ヤオ族文化研究所所長
廣田 律子

大儀礼名はすべて「盤王愿」。

場所（大項目）はすべて「盤栄富宅」。

記録者はすべて「廣田律子」。

○は不明箇所。

番号	日付	時間	小儀礼名	場所 (小項目)	行動主	行動	説語テキスト	備考
674	11/19	06:33～ 07:01		正面祭壇	馮基華	祭壇に豚の全身の姿となるよう豚の頭部・内臓・足・血の桶等を配置する。 祖先壇上の卵・鶏肉・米の袋を下ろす。 豚の上にもまきを載せ、その上に旗を飾る。		
675	11/19	07:13		正面祭壇	盤保古 趙桂仔	手伝いの女性と一緒に酒入りのかめを祭壇の下へ置く。		
676	11/19	07:14		正面祭壇	馮基華	豚の上にもまきを載せ、その上に旗を飾る。		
677	11/19	07:16～ 07:22		正面祭壇	趙桂仔 盤保古	碗1を豚の頭部に載せ、油を入れ灯明とする。碗6・米の入った碗2・酒盃5・水盃1・塩の入った盃1・箸等を準備する。		
678	11/19	07:18～ 07:26		正面祭壇	馮基華	米の入った碗2・酒盃5・水盃1・塩の入った盃1・箸等を準備する。		
679	11/19	07:28～ 07:34		祖先壇	受礼者 弟子	盤栄富の祖先壇の左脇に聯を貼る。 盤明古の祖先壇の右脇に聯を貼る。 弟子は紅紙の切り紙を正面に貼る。	左脇に貼られた聯には「慶楽盤王千載盛」と書かれている。 右脇に貼られた聯には「迎接聖帝万年興」と書かれている。	
680	11/19	07:32～ 07:33		正面祭壇右脇	馮基華	紅包を回収する。		受礼者の家々から米が回収され、袋にしまわれる。
681	11/19	07:45～ 08:04		正面祭壇	—	祭壇の様子 紅紙の切り紙紅羅緞（上から柱歯・石榴花・大紅花・荷花・盤王印・天狗・香炉）。その下に黄紙の切り紙（金魚）。両脇に紙銭が吊るされている。 豚の頭部には脂の膜がかぶされ、その上に肉片・盤王の塩信・碗の灯明・箸の束が置かれる。両脇には内臓、その脇に胴・足が置かれる。右に2足、左に1足、胴の上はまきに覆われ、色とりどりの切り紙の旗が挿してある。 さらに正面には背骨と1足が吊るされている。血の入った桶は右に置かれる。 豚の頭部前には、左右に3つずつの碗、中央に香炉碗、左右に米の入った碗・水盃・塩の入った盃が並べられる。 家の外の壁に米寶札串（ご祝儀の表）が貼られている。 正面戸口左にあらためてヤオ語以外は話してはいけないと貼り紙がされる。 盤栄富の祖先壇に紅紙貼る。		
682	11/19	07:49～ 08:20		戸外	—			
1192	11/19	08:14?			—			
683	11/19	08:22～ 08:23		祖先壇	馮基華	蠟燭・線香を供える。		
684	11/19	08:23		正面祭壇	馮基華	ドラを叩く。		

番号	日付	時間	小儀礼名	場所(小項目)	行動主	行動	読誦テキスト	備考
685	11/19	08:24～ 08:31	剪花酒	正面祭壇前 机	趙金付 盤喜古 盤保古 弟子3人 馮基華 歌娘4人(馮 友妹・盤運 姣・盤永紅、 趙○華) 手伝い女性 1人	机の周りに着席、酒を注ぐ。 趙金付は家先単を見ながら唱えごと。 全員箸を1本取り、酒盃につけてはじく。酒を飲む。 再び注ぐ。 趙金付は盤家の許願の状況、願ほどの内容、盤王 廟の過程、馬頭意者的一部分を唱える。 神名を唱えるが、すべて暗唱。諸家先では家先単を 姣・盤永紅、読む。 趙○華) 手伝い女性 廟に剪花酒を献酒し、その後自分達が飲む。 1人	C-3	机の上には豆腐と肉の入った碗・落花生の入った碗・碗・碗・酒盃・箸が置かれ ている。 神名は「請你連州唐王聖唐一龍王[亞+田]教四王～請你行平大廟十二遊師上 廟使請大～請你福靈五(浦+女)聖帝伏靈聖公母左母～請你福江盤王聖帝盤 古郎老聖人在～請你五旗兵馬東門五旗南門五旗～衆位宗祖家先法△△娘桃 圓」。
686	11/19	09:25～ 09:26		戸外	馮友妹	歌娘用のかぶり物の台を竹ひごで作る。		
687	11/19	09:43		入口右横	雛子方	チャルメラを鳴らす。		
1196	11/19	09:43?				机が片付けられ次の準備が進む。		
688	11/19	09:59～ 10:00		正面祭壇	盤栄富 馮基華 趙子清 趙桂仔	厨官が盆を出し、盤栄富と共に礼。盤栄富は祭壇前 に腰掛ける。 弟子と共に礼。	盆(酒盃5・あげの入った碗1)	
689	11/19	10:02		正面祭壇	盤喜古 盤栄富	盤栄富は祭壇前に盆をもって腰掛ける。 盤喜古は家先単を見ながら唱えごと。 馬頭意者を唱え、家先に聞かせる。		
690	11/19	10:04～ 10:07		正面祭壇	盤保古 趙桂仔 趙子清	盤保古は弟子に笛・沙板(カスタネット)・長鼓を渡 し、正装になる。		
691	11/19	10:08～ 10:10		正面祭壇	盤保古 趙桂仔 趙子清	盤保古は玉簡と鈴をもって唱えごとをし、米を撒 く。 弟子は楽器をもって盤保古と共に並ぶ。礼。 長鼓をもった1人が加わり、盤保古の後ろに並ぶ。		
692	11/19	10:13～ 10:14	請盤王	正面祭壇	盤保古 趙桂仔 趙子清 雛子方1人	盤保古は唱えごと。暗唱。 盤保古が鈴を振り、後ろの3人は礼。	C-3	暗唱は請盤王C-3(神話プラス神名)の文献の内容。 請王声音(ニエンツオン)
693	11/19	10:15		庁堂右壁		歌娘のかぶり物が掛けられる。		
695	11/19	10:16	請家先	正面祭壇	盤保古	盤明古の租先壇から盤明古の家先単を下ろし、見な がら唱えごと。暗唱。 家先単を見る。	C-3	暗唱は劉三妹娘部分(請你福靈五(浦+女)聖帝グループ最後)。
694	11/19	10:30		正面祭壇	盤保古	しゃがんでト具で占う。立って祭壇上でト具で占 う。		
696	11/19	10:30～ 10:34		正面祭壇	盤保古	唱えごとを続け、祭壇下のかめから酒をひしゃくで すくい、祭壇上の碗に右から順に注ぐ。その時に家 先単を見る。 神々に献酒。神名を暗唱。	C-3	神々は連州大廟グループ、行平大廟グループ、福靈大廟グループ、福江大廟グ ループ、厨司大廟グループ、衆位宗祖家先グループ。 暗唱は到福江大廟部分。
697	11/19	10:36～ 10:37		正面祭壇	盤保古	祭壇上でト具で占う。唱えごと。		

番号	日付	時間	小儀礼名	場所 (小項目)	行動主	行動	読誦テキスト	備考
699	11/19	10:37		正面祭壇	盤保古 趙桂仔 趙子清	盤保古は右手に鈴、左手に玉簡をもって礼。後ろの弟子も礼。		
698	11/19	10:37～ 10:44		正面祭壇	盤保古	祭壇上でト具で占う。唱えごと。しゃがみ、床の上でト具で占う。唱えごとを続ける。		ト具での占いはかめを開くため。陽卦で可。
700	11/19	10:45		正面祭壇	盤保古	酒かめから酒をくみ、祭壇上の碗に右から順につぐ。唱えごと。		
701	11/19	10:47		正面祭壇	盤保古	しゃがみ、床の上でト具で占う。唱えごと。		
702	11/19	10:47		正面祭壇	盤保古	かめのふたを閉める。		
703	11/19	10:47		正面祭壇	盤保古	床の上でト具で占う。唱えごと。		
704	11/19	10:49～ 10:52		正面祭壇	盤保古	祭壇下から紙銭を取り出し、唱えごとをしながら旗の挿されたところに紙銭を入れる。		ト具での占いは紙銭を献ずるため。陽卦で可。
705	11/19	10:52～ 10:53		正面祭壇	盤保古	祭壇上でト具で占う。床の上でト具で占う。ト具で占うを繰り返す。		
706	11/19	10:55		正面祭壇	盤保古	ひざまずいて唱えごと。ト具で占う。		ト具での占いは1回。
707	11/19	10:56		正面祭壇	盤保古	尻をついて座り直し、鈴を振って唱えごと。		
709	11/19	10:59		正面祭壇	盤保古	家先単を見つつ唱えごと。		
708	11/19	11:00		正面祭壇	盤喜古 盤栄富	請家先は家先単を読む。すつと座って唱えていた盤喜古が立ち上がって唱えごと。		
710	11/19	11:00		正面祭壇	盤継生 盤栄富	盤栄富も盆をもつまま立ち上がる。盤継生が盤栄富のもつ盆の酒盃に献酒。		
711	11/19	11:00～ 11:01		正面祭壇	盤保古	盤明古の家先単を取り出して唱える。家先単を祭壇上に戻してト具で占う。		ト具での占いは紙銭が足りるかどうか問う。陽卦で足りる。
712	11/19	11:02		正面祭壇	盤保古	ひざまずいて礼、立つを繰り返す。鈴を振って唱えごと。		
713	11/19	11:03～ 11:05		正面祭壇	盤保古	祭壇上でト具で占う。かめのふたを開け、酒を注ぐ。		3回酒をつぐ。
714	11/19	11:06		正面祭壇	盤保古	祭壇上でト具で占う。唱えごと。ト具で占う。		ト具での占いは酒が足りるかどうか問う。
715	11/19	11:07		正面祭壇	盤保古	かめにふたをしてひざまずき、礼。		この前まで馬頭意者を唱えていた。(丸山)
716	11/19	11:08		正面祭壇	盤保古	師父の名を唱え、礼。 尻をついて座り直し、左手に玉簡をもち、右手にもった鈴を振りつつアシをつけて唱えごと。		
717	11/19	11:09～ 11:21		正面祭壇	盤保古	盤栄富用家先単を読みつつ鈴を振る。鈴を振り、玉簡をもってそのまま唱えごと。鈴・玉簡・ト具を祭壇に戻し、さらに唱えごと。 大庁意者を唱える。		唱えているのは大庁意者。(丸山) 請王声音(ニエンツオン)
718	11/19	11:32		正面祭壇	盤保古	ト具で占う。唱えごと。		ト具での占いは大庁意者を盤王が受け取ったかどうかを問う。異卦で可。
719	11/19	11:43		正面祭壇	馮基華	盆を下げる。		
720	11/19	11:52		正面祭壇	馮基華	線香を供える。		
721	11/19	11:56～ 11:57		正面祭壇	馮基華 趙桂仔 趙子清	厨官は盆を出し、弟子達と共に礼。 厨官の盆を隣の囃子方がもち、再び皆で礼。 厨官は盆を下げる。		
722	11/19	11:58		正面祭壇	囃子方 盤保古	盤保古は唱えごとを続ける。		

番号	日付	時間	小儀礼名	場所(小項目)	行動主	行動	読誦テキスト	備考
723	11/19	12:15～ 12:16		正面祭壇	盤保占	床の上でト具で占う。立ち上がって玉筒をもち、鈴を鳴らし、礼をして終了。		
724	11/19	12:16～ 12:23		正面祭壇	歌娘達 馮基華	厨官が盆をもって来る。 歌娘が盆をもって礼。 歌娘達が酒盃を両手にもち、1つの盃に酒をまよめて人々に振る舞う。 厨官が酒を満たすのを手伝う。		
725	11/19	12:27		正面祭壇前	女性達	机の上に食事の支度をする。		
726	11/19	12:28～ 12:33		庁堂	馮基華 囉子方	厨官は盆をもち、囉子方と共に礼。次に囉子方が盆をもち、2人で礼。 厨官が入口左側の囉子方のテーブルにおかずの碗と紅包を置く。 チャルメラを吹く。		
727	11/19	13:52	流栗	庁堂	囉子方	チャルメラ・ドラ等を鳴らす。		
728	11/19	14:02～ 14:03	流栗	正面祭壇前	馮基華	祖先壇に線香を供える。ドラを打ち、開始を知らせる。		
729	11/19	14:04～ 14:05	流栗	正面祭壇前	趙金付 馮基華	趙金付は紅衣を羽織り、正装する。厨官は祭壇の巻線香に火を点して供える。		
730	11/19	14:06	流栗	正面祭壇前	趙金付	米撒く。鈴鳴らす。 フシをつけて唱える。	Z-15	「在落缸頭跪落缸尾～」の頁(khi20111117IMG_0724)を開いたテキストが祭壇に置かれている。
732	11/19	14:07～ 14:08	流栗	正面祭壇前	趙金付 趙桂仔 趙子清 囉子方1人 歌娘3人	趙金付の後ろに人々が並ぶ。礼をする。 趙金付は、グループの代表的な神名を暗唱。		1列目：カスタネット・長鼓・笛をもった弟子と囉子方 2列目：歌娘3人(三姓青衣、中央の女性が大きなかぶり物) グループは連州大廟、行平大廟、福靈大廟、福江大廟、厨師大廟。
733	11/19	14:09	流栗	正面祭壇前	趙金付	テキストを手にもち、フシをつけて読誦。	Z-15	最終行最後「～為婚回轉路頭跪」(khi20111117IMG_0725)。
734	11/19	14:09～ 14:14	流栗	正面祭壇前	趙金付	左側の旗の山に紙銭を入れる。ト具で占う。 右側の旗の山に紙銭を入れる。ト具で占う。 紙銭を30扛ずつ置く。 テキストの読誦を開始。3回繰り返して神名を唱える。		紙銭を置いたのは神々を招へいするため。 ト具での占いは陽卦で読誦の開始可。 神名を唱えたのは後ろに立つ男女3名をまもってもらうため。
735	11/19	14:15～ 14:16	流栗	正面祭壇前	趙金付	テキストを手にもち、フシをつけて読誦。	Z-15	読誦は「在落缸頭跪落缸尾～」から。 請王声音(ニエンゾオン)
736	11/19	14:16～ 14:17	流栗	正面祭壇前	趙金付	テキストを手にもち、フシをつけて読誦。	Z-15	最終行最後「～為婚回轉路頭跪」。
737	11/19	14:19	流栗	正面祭壇前	趙金付	テキストを手にもち、フシをつけて読誦。	Z-15	最終行初め部分「許上一个流羅歌堂～」(khi20111117IMG_0726)。
738	11/19	14:20	流栗	正面祭壇前	趙金付	テキストを手にもち、フシをつけて読誦。	Z-15	「大壇衆聖三廟聖王～」の頁(khi20111117IMG_0727)。
739	11/19	14:22	流栗	正面祭壇前	趙金付	テキストを手にもち、フシをつけて読誦。	Z-15	「前者以来公位子～」の頁(khi20111117IMG_0728)。
740	11/19	14:22	流栗	正面祭壇前	趙金付	テキストを左手に、家先単を右手にもち、フシをつけて読誦。	Z-15	「前者以来公位子～」の頁。
741	11/19	14:23	流栗	正面祭壇前	趙金付	テキストを開いてフシをつけて読誦。	Z-15	「請男人出唱歌詞」の頁(khi20111117IMG_0729)。

番号	日付	時間	小儀礼名	場所(小頭目)	行動主	行動	読誦テキスト	備考
742	11/19	14:24	流柴	正面祭壇前	趙金付 趙桂仔 趙子清 嚢子方1人	趙金付が左手に玉簡をもち、右手にもった鈴を鳴らすと後ろの1列目の人々がひざまずいて礼拝。2列目は立ったまま。 趙金付がト具で占う。 礼拝。		礼拝は Z-15 文献上の「入席二拝出席二拝回席一拝」(khi20111117IMG_0729) の実践。
743	11/19	14:25	流柴	正面祭壇前	趙金付	趙金付はそらでフシをつけて唱える。	Z-15	「請男人出唱歌詞」の頁が開かれている。
745	11/19	14:26	流柴	正面祭壇前	趙金付	趙えつつ、紙銭を右側の旗の山に入れ、ト具で占う。 紙銭30枚を献ずる。唱える。 請声を3回行ない、歌詞を引き出す。	Z-15	唱えるのは歌の内容および「この歌を男3名女3名に歌わせる」。男の歌(チャングー)のタイトルは、(khi20111117IMG_0729) 拝神聖、引歌出、引娘唱、起歌唱、初世声、初世逢、初世収、遇几嶺、遇几洞、离客頭、相伏問、莫縁問、娘会話、不唱了。 女の歌(バーゾオン)のタイトルは、(khi20111117IMG_0730) 入席唱、引郎唱、起歌唱、初世声、初世逢、初世収、不唱了。 ト具での占いは異卦で神の声が渡されたの意。 「陰声保、陽声氣」神の声音でまもられるとされる。
744	11/19	14:27	流柴	正面祭壇前	趙金付	テキストを手にもってフシをつけて読誦。	Z-15	「請男人出唱歌詞」の頁が開かれている。
746	11/19	14:27	流柴	正面祭壇前	趙金付	テキストを手にもってフシをつけて読誦。	Z-15	「女人出唱歌詞〜」の頁 (khi20111117IMG_0730) が開かれている。
747	11/19	14:27〜 14:28	流柴	正面祭壇前	趙金付	テキストを開いたまま祭壇上に置き、そらで唱える。 右側の旗の山に紙銭を入れてト具で占う。 米を撒く。唱えごと。	Z-15	「女人出唱歌詞〜」の頁が開かれている。
748	11/19	14:28〜 14:29	流柴	正面祭壇前	趙金付	米を撒く。唱えごと。		
749	11/19	14:30	流柴	正面祭壇前	趙金付	左手に玉簡、右手に鈴をもって鳴らす。ト具で占う。 後ろの弟子達も礼。唱えごと。 米を撒く。ト具で占う。唱えごと。		
750	11/19	14:30〜 14:31	流柴	正面祭壇前	趙金付	米を撒く。ト具で占う。		
751	11/19	14:31〜 14:32	流柴	正面祭壇前	趙金付	右側の旗の山に紙銭を入れてト具で占う。唱えごと。 と。		
752	11/19	14:33	流柴	正面祭壇前	趙金付	米を撒く。唱えごと。	Z-15	「請男人出唱歌詞」の頁。
753	11/19	14:34	流柴	正面祭壇前	趙金付	ト具で占う。テキストを開いて手にもつ。	Z-15	「請男人出唱歌詞」の頁。
754	11/19	14:34	流柴	正面祭壇前	趙金付	テキストを手にもってフシをつけて読誦。	Z-15	「女人出唱歌詞〜」の頁。
756	11/19	14:34	流柴	正面祭壇前	趙金付	テキストを開いて手にもち、フシをつけてそらで唱える。米を撒く。	Z-15	「女人出唱歌詞〜」の頁。
757	11/19	14:34	流柴	正面祭壇前	趙金付	米を撒く。		
755	11/19	14:35	流柴	正面祭壇前	馮友妹	1列目・2列目は立ったまま。その横に座っていた歌娘がテキストを手にしたまま、そらで歌い始める。 テキストを開き、フシをつけて読誦。		神の声音がわたされ歌が始まる。
758	11/19	14:36	流柴	正面祭壇前	趙金付	歌う。	Z-15	左頁「引歌出引出歌詞引自行〇」(khi20111117IMG_0730)。 歌は (khi20111117IMG_0730) 「引歌出」部分。 歌は (khi20111117IMG_0734) 4行「娘会着杉地下斉収」まで。
759	11/19	14:36〜 14:37	流柴	正面祭壇前	趙金付	テキストを開き、フシをつけて読誦。 歌う。	Z-15	「引歌唱三斗油麻來引油頭〜」(khi20111117IMG_0731)。 歌は (khi20111117IMG_0730) 「引歌出」部分。
760	11/19	14:37〜 14:39	流柴	正面祭壇前	馮友妹	そらで歌う。	Z-15	歌は (khi20111117IMG_0734) 4行「娘会着杉地下斉収」まで。 歌は (khi20111117IMG_0730) 「引歌出」部分。

番号	日付	時間	小儀礼名	場所 (小項目)	行動主	行動	読誦テキスト	備考
761	11/19	14:39～ 14:42	流栗	正面祭壇前	趙金付	テキストを開いてフシをつけて読誦。 歌う。	Z-15	「今朝米是過已一峇～」の頁 (khi20111117IMG_0732)。 歌は (khi20111117IMG_0730) 「引歌出」部分。 歌は (khi20111117IMG_0734) 4行「娘会着衫地下着収」まで。 「[文+内]客○今夜正開[文+内]客経書～」(khi20111117IMG_0733)の頁。
762	11/19	14:42～ 14:43	流栗	正面祭壇前	趙金付	テキストを開いてフシをつけて読誦。 歌う。	Z-15	歌は (khi20111117IMG_0730) 「引歌出」部分。 歌は (khi20111117IMG_0734) 4行「娘会着衫地下着収」まで。 「莫禄問莫禄伏問你家求益～」の頁 (khi20111117IMG_0734)。 歌は (khi20111117IMG_0730) 「引歌出」部分。 歌は (khi20111117IMG_0734) 4行「娘会着衫地下着収」まで。
763	11/19	14:45～ 14:46頃 まで	流栗	正面祭壇前	趙金付	テキストを開いてフシをつけて読誦。玉簡と鈴を もって礼。 後ろの弟子も礼。終了。 歌う。	Z-15	「那是○那边那人看～」の頁 (khi20111120IMG_1153)。
764	11/19	14:46～ 14:49	流栗	正面祭壇前	馮友妹	テキストを開きつつも、ちらっと見るのみ。あとは そらで歌う。	Z-29	
765	11/19	14:49～ 14:50	流栗	正面祭壇前	馮基華	線香3を香炉に置き、盆を運び、あげと脂身の碗と 酒盃5を足して並べる。		
766	11/19	14:50～ 14:57	流栗	正面祭壇前	馮友妹 盤運姣 盤永紅 趙○華 男性歌手 女性歌手	馮友妹はテキストを開いて歌う。 男性歌手は活字本を見つつ歌う。2人で掛け合う。 盤運姣・盤永紅・趙○華は並んで立つ。 馮友妹の隣にもう1人女性歌手が贈える。	Z-29	馮友妹が開いているのは「拜神聖～」の頁 (khi20111120IMG_1153)。 活字本『藍山県瑶族歌謡集』は84～85頁。
767	11/19	14:52～ 14:54	流栗	正面祭壇前	盤喜古	祭壇上の碗を並べ直す。		あげ・脂身の入った碗の上に線香3、碗の周りに酒盃5。
768	11/19	14:57～ 15:01	流栗	正面祭壇前	馮友妹 男性歌手	馮友妹はテキストを開いて歌う。 男性歌手は活字本を開いて2人で掛け合う。	Z-29	「引娘唱～」の頁 (khi20111120IMG_1153)。
769	11/19	14:59～ 15:03	流栗	正面祭壇前	盤保古	祭壇前で唱えごと。		
770	11/19	15:02	流栗	正面祭壇前	馮友妹	テキストを開いて歌う。	Z-29	「初也唱～初世逢～」の頁 (khi20111120IMG_1153)。
771	11/19	15:06	流栗	正面祭壇前	盤保古	盤明古の家先単を見ながら唱えごと。		
772	11/19	15:07	流栗	正面祭壇前	趙金付	テキストを開いてフシをつけて読誦。 歌う。	Z-15 (Z-29)	「莫禄問～不唱了～出願歌詞～」の頁 Z-15 (khi20111117IMG_0734)。 一致箇所「不唱了…」Z-29 (khi20111120IMG_1154) (15:08頃)。 馮友妹の歌と一致。 最後に「不唱了 收拾歌詞竜里藏収 三更半夜人相請 不曾把火週求郎鄉 求」部分は女性と一緒に歌う。
773	11/19	15:08	流栗	正面祭壇前	馮友妹	テキストを開いて歌う。	Z-29	「東海鯉魚○海敬～不唱了～」の頁 (khi20111120IMG_1154)。
774	11/19	15:09	流栗	正面祭壇前	盤保古	獻酒。		
775	11/19	15:10	流栗	正面祭壇前	—		Z-26	祭壇上に「入換唱歌」の頁 (kmo20111119IMG_2445)を開いたテキストが置 かれている。
776	11/19	15:11	流栗	正面祭壇前	盤保古	しゃがんで紙銭を積む。		
777	11/19	15:15	流栗 (上光流 栗)	正面祭壇前	趙橋古 盤喜古	正装して玉簡と鈴をもち、ひざまずいて礼拝。テキ ストを見ながら読誦。 上光流栗を行なう。	A-32a	「拜得通 拜得通～」の頁 (IMG_4335)。
778	11/19	15:16～ 15:17	流栗 (上光流 栗)	正面祭壇前	趙橋古 盤喜古	趙橋古は立つ。 盤喜古はテキストを見ながら読誦。	A-32a	「拜得通 拜得通～」の頁。

番号	日付	時間	小儀礼名	場所(小頭)	行動主	行動	読誦テキスト	備考
779	11/19	15:18	流栗 (上光流栗)	正面祭壇前	盤喜古	テキストを読誦。途中からフシをつけて読誦。	A-32a	「又差光在此處」(IMG_4356)まではフシなし。「山頭出世」からフシをつける。
780	11/19	15:19	流栗	正面祭壇前	盤喜古	テキストを開く。	A-32a	「屋遲有頭有眼有人身太尉衆官進士人」の頁(IMG_4357)。
781	11/19	15:20	流栗	正面祭壇前	趙橋古	太尉の面をもって振り、その後つける。	A-32a	「又開山頭歌」の頁(IMG_4358)。
782	11/19	15:20	流栗	正面祭壇前	盤喜古	テキストを開く。フシをつけて読誦。	A-32a	「画起有頭有眼又無身 太尉衆官上郎頭」の頁(IMG_4359)。
783	11/19	15:21	流栗	正面祭壇前	盤喜古	テキストを開く。		
784	11/19	15:22	流栗	正面祭壇前	盤喜古	趙橋古はドラを叩く。		
785	11/19	15:23	流栗	正面祭壇前	趙橋古	趙橋古は礼。	A-32a	「羅帶出世」の頁 A-32a (IMG_4357)。
					趙橋古	趙橋古は羅帯を両手でもって振る。	B-1	娛神
					趙橋古	歌う。	Z-16	歌は B-1 (IMG_0481B-01) 羅帶歌。 B-1 (IMG_0499B-01) 「寛々遊々辺遙坐、一時執相一斉臨」まで上光声音。 B-1 (IMG_0499B-01) 「解換唱 解換唱」から B-1 (IMG_0554B-01) 「又換声唱」前まで流栗声音。 B-1 (IMG_0554B-01) 「又換声唱」Z-16 (khi20111117IMG_0870) 「換歌唱」から脱童声音。
786	11/19	15:24	流栗	正面祭壇前	盤喜古	フシをつけてテキストを読誦。	A-32a	「十一十二聰明女三十四編羅花～」の頁(IMG_4358)。
787	11/19	15:25～15:26	流栗	正面祭壇前	盤喜古	盤喜古はドラを叩き、フシをつけて読誦を続ける。		
					趙橋古	趙橋古は羅帯を振りながら舞う。最後に礼。		
788	11/19	15:26	流栗	正面祭壇前	趙橋古	羅帯を頭につける。	A-32a	「又做齋闈在此處」の頁(IMG_4359)。
789	11/19	15:26	流栗	正面祭壇前	趙橋古	テキストを開いてフシをつけて読誦。		
790	11/19	15:27	流栗	正面祭壇前	趙橋古	鈴を振る。		
791	11/19	15:28～15:29	流栗	正面祭壇前	盤喜古	盤喜古はフシをつけてテキストを読誦。	A-32a	最終行「三同白紙蓋郵面、面前海不通行」の頁(IMG_4360)。
					趙橋古	趙橋古は鈴を振る。		
792	11/19	15:29～15:30	流栗	正面祭壇前	趙橋古	趙橋古は鈴を振る。	A-32a	「抬頭看天○不見低頭看地々朦々～」の頁(IMG_4361)。
793	11/19	15:31	流栗	正面祭壇前	趙橋古	趙橋古は鈴を振る。	A-32a	「起頭望見李三○玉女把瓶入海身～」の頁(IMG_4363)。
795	11/19	15:33	流栗	正面祭壇前	盤喜古	フシをつけてテキストを読誦。	A-32a	「我兄不取前前路小哥在係便明身～」の頁(IMG_4364)。
794	11/19	15:35	流栗	正面祭壇前	盤喜古	フシをつけてテキストを読誦。途中からそらそらでフシをつけて唱える。	A-32a	「二條通到郎前下 真米真去問根源～」の頁(IMG_4365)。「賞浪獻酒歌」の前まで。以降はそらで。
796	11/19	15:36～15:37	流栗	正面祭壇前	盤喜古	盤喜古はドラを叩く。フシをつけて唱える。		引光童子
					趙橋古	趙橋古は左手に玉簡、右手に鈴をもって礼と舞いを繰り返す。		
797	11/19	15:37	流栗	正面祭壇前	盤喜古	盤喜古はフシをつけてテキストを読誦。	A-32a	最終行上段「叻曹到叻曹到～」の頁(IMG_4365)。
					趙橋古	趙橋古は鈴を振る。		
798	11/19	15:38	流栗	正面祭壇前	盤喜古	盤喜古は鈴を振る。	A-32a	「雷聲不是雷聲聲～」の頁(IMG_4366)。
					趙橋古	趙橋古は鈴を振る。		
799	11/19	15:39	流栗	正面祭壇前	盤喜古	盤喜古は鈴を振る。	A-32a	「人話銅盆分一盞～」の頁(IMG_4368)。
					趙橋古	趙橋古は鈴を振る。		
800	11/19	15:40	流栗	正面祭壇前	盤喜古	盤喜古はフシをつけてテキストを読誦。	A-32a	最終行「張面紅面將軍變身化身童子～」(IMG_4368)の頁。
					趙橋古	趙橋古は鈴を振る。		
801	11/19	15:40～15:42	流栗	正面祭壇前	盤喜古	盤喜古は鈴を上向きにして横にかしまく振る。途中のリズムを速くする。	A-32a	「吹酒便吹双益酒莫吹双益保老開」の頁(IMG_4369)。「李十六」前まででひと区切り。以降フシのリズムが遅くなり、それに合わせて節も遅くなる。
					趙橋古	趙橋古は鈴を上向きにして横にかしまく振る。途中でゆっくりと縦に振る。		

番号	日付	時間	小儀礼名	場所 (小項目)	行動主	行動	読誦テキスト	備考
802	11/19	15:43	流楽	正面祭壇前	盤喜古 趙橋古	盤喜古はフシをつけてテキストを読誦。 趙橋古は鈴をゆくりと縦に振る。	A-32a	「祖師去得箇浮界○見箇浮人便牛～」の頁(静止画ファイル名不明)。
803	11/19	15:46	流楽	正面祭壇前	盤喜古 趙橋古	盤喜古はテキストを替え、そらでフシをつけて唱え始める。 趙橋古は礼拝。 趙橋古は左手に玉簡・右手に鈴をもって舞う。礼。 趙橋古は玉簡の上に酒盃を載せ、左手でもつ。右手で鈴を振る。		
804	11/19	15:46	流楽	正面祭壇前	盤喜古 趙橋古	盤喜古はそらでフシをつけて唱える。 テキストを開く。フシをつけて唱え続ける。	Z-26	「又唱歌」の頁 (kmo20111119IMG_2446)。 頁を探している様子。
805	11/19	15:47	流楽	正面祭壇前	盤喜古	テキストを開く。フシをつけて唱え続ける。	Z-26	「又抛兵架橋」の頁(静止画ファイル名不明)。
806	11/19	15:47	流楽	正面祭壇前	盤喜古	盤喜古は腰を掛けてフシをつけて?テキストを読誦。	Z-26	「入換唱歌」の頁から。
807	11/19	15:49	流楽	正面祭壇前	盤喜古 趙橋古	弟子は左手に玉簡、右手に鈴をもって時計と逆回りに舞う。	Z-26	Z-26 (kmo20111119IMG_2445)「入換唱歌」流楽声音。 B-1 (IMG_0499B-01)「入換唱」と内容一致。
808	11/19	15:50～ 15:52	流楽	正面祭壇前	盤喜古 趙橋古	盤喜古はフシをつけてテキストを読誦。 弟子は横に鈴を振る。 盤喜古のフシの調子が変わると弟子は礼。手を下にして揺らす。 問答をする。	Z-26	「衆王聖帝来相請 且請修山做路後～」の頁。 (kmo20111119IMG_2447)「三百貫錢郎下魔」から? (kmo20111119IMG_2446)から (kmo20111119IMG_2247)を読誦後問答。
809	11/19	15:55	流楽	正面祭壇前	盤喜古 趙橋古	盤喜古はフシをつけてテキストを読誦。 弟子は縦に鈴を振る。	Z-26	「鉄鐵入舛煉網口鉄鐵入煉好～」の頁(静止画ファイル名不明)。
810	11/19	15:56	流楽	正面祭壇前	盤喜古 趙橋古	盤喜古はフシをつけてテキストを読誦。	Z-26	「又抛兵架橋」の頁(静止画ファイル名不明)。
811	11/19	15:57	流楽	正面祭壇前	趙橋古 趙桂仔	趙桂仔が長鼓・笛・カ斯塔ネット・角笛・鈴等をもつ。 趙橋古は卜具をもつ。		
812	11/19	16:00～ 16:03	流楽	戸口	盤喜古 盤保古 趙子清 趙桂仔 囉子方1人	戸口のところで内外に別れて問答。 盤喜古はテキストを開いてもつ。 問答後、家に入る。 内は紙銭のお金を払い、外は楽器を贈る。	Z-26	「又抛兵架橋」の頁(静止画ファイル名不明)。 外には盤喜古・趙桂仔・趙子清(笛をもっている)・囉子方1人。 内には盤保古。 問答は“連州から来た”。 周囲の人々は笑う。 問答からなる。 どこから来た 鉄の産地の塘村から来た 何しに来た 工具(刀、斧刀等)を作りに来た いくらかかる 7千8万 8万7千だろ 何しに来た お祝いに 何をもって来たのか 牛、鴨、鵝をもって来た 楽器は贈り物を表わす。

番号	日付	時間	小儀礼名	場所 (小頭)	行動主	行動	読誦テキスト	備考
813	11/19	16:04～ 16:13	流栗	正面祭壇前	盤喜古 盤保古 趙子清 趙桂仔 囃子方1人	弟子と囃子方3人でト具を使って何かを表現する。 角笛・沙板・鈴も使う。豚の頭上の灯明から火を取って紙銭を燃やす。紙銭を加える。笛を天稗にして鈴と角笛を左右に吊るして量る所作をする。師棍を立てる。ト具で叩いて倒すと、弟子が転げる。師棍を倒し、また師棍を立てる。 鉄製品の作成工程を演じる。 かじややはシンバルの鉄帽をかぶる。 鎌・斧・鋸の作成を演じる。 牛を殺す演技をし、土地神を祀る。 紙銭を燃やし、土地神を祀る。 牛の重さを量る演技をする。この時間答を行なう。 かたづけける。 杖を倒しどこまで倒れていたか確かめる。 作った刀、斧、鋸を使い、杖の木を切る動作をする。 木を切り、わざと弟子のいる方に倒す。 弟子が転び、笑いを誘う。 倒れた木を製材し、板を120枚作り、橋を作る様子を演じる。	伏せたドラの上に香炉と酒盃1が置かれる。 盤喜古の言葉と弟子達の動作に周囲の人々は大笑いする。 鉄製品の作成工程はZ-26 (kmo20111119IMG_2447) 最終行に「行到州門開鉄舗 行過泉門得日焼」とある。鉄舗(かじや)を開き、炉で鉄を熱し、風を送り、炉の温度を上げ、鉄を打ち、水で冷却する。伏せたドラの上の盃、碗、横に置いた笛はそれぞれ冷却水、炉、ふいごを表わす。 鎌・斧・鋸は連州路、行平路等祖先神が祭場に至る道を直すために必要となる。 牛角は牛、ト具は刀を表わす。 沙板は鴨、銅鈴は鶴を表わす。 笛を天稗量りに見立てる。 問答の内容は どのくらいの重さか 300斤の骨、400斤の肉 いやいや、400斤の肉、300斤の骨だろ、多すぎる等。 問答を聞き周りは皆笑う。	
814	11/19	16:14	流栗	正面祭壇前	盤喜古	フシをつけてテキストを読誦。	Z-26	「又抛兵架橋」の頁(静止画のフアイル名不明)。
815	11/19	16:14	流栗	正面祭壇前	盤喜古	フシをつけてテキストを読誦。	Z-26	「全線纏橋引娘過通正知双好連〇～」の頁 (kmo20111119IMG_2451)。
816	11/19	16:15	流栗	正面祭壇前	盤喜古 趙子清 趙桂仔	テキストを開くが中断。 弟子は鈴を縦に振る。	Z-26	最終行「又献酒」の頁 (kmo20111119IMG_2452)。
817	11/19	16:16～ 16:17	流栗	正面祭壇前	盤保古	床に玉簡を置き、祭壇を背にして唱えごと。 橋を架ける。 読誦。	Z-26	玉簡は橋を表わす。 読誦は「又抛兵」(kmo20111119IMG_2453)。衆王廟部分は連州、行平等三廟に置き換える。 陰兵を招へいし、陰兵に橋を架けさせ、三廟に到達することを表現。
818	11/19	16:17～ 16:18	流栗	正面祭壇前	盤保古	しやがんでト具で占う。		
819	11/19	16:19	流栗	正面祭壇前	盤保古	立つて数種の手訣。		
820	11/19	16:19～ 16:20	流栗	正面祭壇前	盤保古	しやがんで床に符を描く。		手訣は橋を架けることを表わす。
821	11/19	16:20	流栗	正面祭壇前	盤保古	立つて数種の手訣。		
822	11/19	16:20	流栗	正面祭壇前	盤保古	しやがんでト具で占う。		ト具での占いは橋が架かったかを問うため。 陽卦で架かった意。
823	11/19	16:20	流栗	正面祭壇前	盤保古	玉簡をもって立ち上がる。		
1193	11/19	16:20?	流栗		趙橋古	左手に玉簡をもち右手でト具をもち打ち鳴らしつ つ戸口に向かう。また正面祭壇に戻る。		
1200	11/19	16:20?	流栗	正面祭壇前	趙橋古 盤喜古	趙橋古は左手に玉簡をもち右手でト具をもち、鳴らす。 盤喜古は読誦。	Z-26	盤喜古の読誦は「一丁二丁出外三丁四丁出外三丁出外」部分(流栗音声) (kmo20111119IMG_2451)。趙橋古の動作は橋を平にしていることを表わす。
824	11/19	16:21	流栗	正面祭壇前	盤喜古	テキストを開いてフシをつけて読誦。	Z-26	趙橋古の動作と盤喜古の読誦の内容が一致。 「又抛兵」の頁 (kmo20111119IMG_2451)。

番号	日付	時間	小儀礼名	場所(小項目)	行動主	行動	読誦テキスト	備考
825	11/19	16:21～16:23	流栗	正面祭壇前	盤喜古	テキストを開いてフシをつけて読誦。	Z-26	最終行「又献酒」の頁(kmo20111119IMG_2452)。
826	11/19	16:23～16:24	流栗	正面祭壇前	趙橋古	左手に酒を注いだ酒盃をもち、右手に鈴をもち振る。		
827	11/19	16:24	流栗	正面祭壇前	盤喜古	テキストを開いてフシをつけて読誦。	Z-26	「又捕拾歌」の頁(kmo20111119IMG_2456)。
828	11/19	16:25	流栗	正面祭壇前	盤喜古	テキストを開いてフシをつけて読誦。 弟子は鈴を縦に振る。	Z-26	「又唱歌」の頁(kmo20111119IMG_2453)。「又抛兵」の前まで。
1194	11/19	16:25?	流栗		馮栄軍	かめから酒をひしゃくですくい、祭壇上の碗に注ぐ。		
829	11/19	16:26	流栗	正面祭壇前 ～戸口	盤喜古	紙銭を火に点けて戸口に運び、燃やす。		
830	11/19	16:27～16:28	流栗	正面祭壇前	盤喜古 趙橋古	フシをつけてテキストを読誦。 弟子は鈴を縦に振る。礼。	Z-26	「又抛兵」の頁(kmo20111119IMG_2453)から。
831	11/19	16:30	流栗	正面祭壇前	盤喜古	テキストを開いてフシをつけて読誦。	Z-26	「又捕拾歌」の頁(kmo20111119IMG_2456)。
832	11/19	16:32	流栗	正面祭壇前	趙橋古	弟子は左手に酒盃をもち、右手にもった鈴を振る。	Z-26	「又捕拾歌」の頁。
833	11/19	16:40	流栗	正面祭壇前	盤喜古	テキストを開いたまま祭壇上に置き、読誦を中断。 フシをつけてテキストを読誦。	Z-26	「又捕拾歌」の頁。
834	11/19	16:41	流栗	正面祭壇前	盤喜古	フシをつけてテキストを読誦。	Z-26	最終行「～厨官仔腰上義坦五把刀」の頁(kmo20111119IMG_2460)。
835	11/19	16:41～16:44	流栗	正面祭壇前	盤喜古 趙橋古	フシをつけてテキストを読誦。 弟子は左手に盃をもち、右手にもった鈴を振る。	Z-26	「第一張刀殺猪額～」の頁(kmo20111119IMG_2462)。
836	11/19	16:44	流栗	正面祭壇前	盤喜古	フシをつけてテキストを読誦。	Z-26	「且唱河源出水～」の頁(kmo20111119IMG_2465)。「紅羅帳」の前まで。
837	11/19	16:45～16:48	流栗	正面祭壇前	馮基華 男性数人 盤喜古	豚を屠る。首を切り面を採る。 盤喜古はテキストをもつが、そらでフシをつけて唱える。 厨官は戸口で豚のおりを喫す。 2人で会話。		
838	11/19	16:50～16:51	流栗	正面祭壇前	盤喜古 馮基華			
839	11/19	16:51～16:53	流栗	正面祭壇前	盤喜古 趙橋古	盤喜古はフシをつけてテキストを読誦。 趙橋古は紅羅帳の布を出して振る。	Z-26	「紅羅帳」の頁(kmo20111119IMG_2465)。
840	11/19	16:53	流栗	正面祭壇前	趙橋古 盤喜古	趙橋古は紅羅帳の布を正面の切り紙の上に飾る。	Z-26	盤喜古のテキストは「紅羅帳」の頁が開いている。 紅羅帳は盤王に供える。盤王は刺繍が大好き。
841	11/19	16:54	流栗	正面祭壇前	盤喜古	盤喜古はフシをつけてテキストを読誦。	Z-26	「且唱河源出水～」の頁(kmo20111119IMG_2465)。
1186	11/19	16:57	流栗	正面祭壇前	趙橋古 盤喜古	弟子は鈴を縦に振る。 盤喜古はフシをつけてテキストを読誦。	Z-26	「紅羅帳～」の頁(kmo20111119IMG_2465)。
842	11/19	16:57	流栗	正面祭壇前	趙橋古	祭壇上に挿された旗を抜き、頭の左右に挿す。		
843	11/19	16:58	流栗	正面祭壇前	盤喜古 趙橋古	盤喜古はテキストを開くが、そらでフシをつけて唱える。 弟子は鈴を振る。	Z-26	「紅羅帳～」の頁。
844	11/19	16:58	流栗	正面祭壇前	趙橋古	献酒。		
845	11/19	16:58	流栗	正面祭壇前	趙橋古 盤喜古	趙橋古は左手に旗をもち、右手にもった鈴を振る。 盤喜古はテキストを見ながらフシをつけて読誦。	Z-26	変わらず「紅羅帳～」の頁。 読誦は「挿花歌→花謝二花開」(kmo20111119IMG_2470)から「得見紅羅帳先在前」(kmo20111119IMG_2474)まで。 花は蓮花を意味する。

番号	日付	時間	小儀礼名	場所(小頭目)	行動主	行動	読誦テキスト	備考
846	11/19	16:59～ 17:00	流栗	正面祭壇前	盤喜古 趙橋古	盤喜古はフシをつけてテキストを読誦。 趙橋古は左手に旗をもち、右手にもった鈴を振る。 盤喜古はフシをつけてテキストを読誦。 趙橋古は鈴を縦に振る。	Z-26	「娘小姓唐郎雄○共入花～」の頁 (kmo20111119IMG_2471)。 趙橋古のもつ旗は蓮花を表わす。 「信王出無衣世着路逢～」の頁 (kmo20111119IMG_2474)。「又唱行平」の前まで。
847	11/19	17:01～ 17:02	流栗	正面祭壇前	盤喜古 趙橋古	盤喜古は鈴を縦に振る。 趙橋古は旗をもち、右手にもった鈴を横に振る。	Z-26	「歌堂良願宝書一名童子賞～」の頁。 読誦は Z-16 (khi20111117IMG_0818)「三年養猪還愿淳信到壇来請師」から (khi20111117IMG_0819) 全部、(khi20111117IMG_0820) 1行目「早收糯禾醸老酒带来今夜献」の後、C-3 (ghi20140810IMG_1811)「請你連州」から「女人一行衆聖衆…連州大廟出世唐宮」が挿入され、Z-16 (khi20111117IMG_0820)「一行聖衆神拾頭領」に戻り「領了一度風情酒 寛々坐位」まで。
848	11/19	17:06～ 17:07	流栗	正面祭壇前	盤喜古 趙橋古	盤喜古は旗をもち、右手にもった鈴を横に振る。 趙橋古は旗をもち、右手にもった鈴を横に振る。	Z-16 C-3	「歌堂良願宝書一名童子賞～」の頁。 読誦は Z-16 (khi20111117IMG_0818)「三年養猪還愿淳信到壇来請師」から (khi20111117IMG_0819) 全部、(khi20111117IMG_0820) 1行目「早收糯禾醸老酒带来今夜献」の後、C-3 (ghi20140810IMG_1811)「請你連州」から「女人一行衆聖衆…連州大廟出世唐宮」が挿入され、Z-16 (khi20111117IMG_0820)「一行聖衆神拾頭領」に戻り「領了一度風情酒 寛々坐位」まで。
849	11/19	17:08	流栗	正面祭壇前	盤喜古	テキストの頁をめくる。 テキストを横に放り、そらでフシをつけて唱える。		「一度風情酒 寛々坐位」まで。 読誦の場所が違おうと思った様子。 盤喜古は趙金付から4行目の「一行聖衆神拾頭領」からと言われたが納得していない様子。
850	11/19	17:10	流栗	正面祭壇前	盤喜古	テキストに目を戻し、フシをつけて読誦。	Z-16	「打得銀鏡掛壁上～」の頁 (khi20111117IMG_0819)。
851	11/19	17:11	流栗	正面祭壇前	盤喜古	テキストをめくる。	Z-16	「早收糯禾醸老酒～」の頁。 そらの部分もある様子。
852	11/19	17:13	流栗	正面祭壇前	趙橋古	酒かめから酒をすくい祭壇上の腕に注ぐ。		
853	11/19	17:13	流栗	正面祭壇前	盤喜古	もとのテキストに戻し、フシをつけて読誦。	Z-26	読誦は (kmo20111119IMG_2474)「又唱行平」から (kmo20111119IMG_2481)終わりから2行目「得見連州唐王帝先在前」まで。
854	11/19	17:14～ 17:15	流栗	正面祭壇前	盤喜古 趙橋古	盤喜古はフシをつけてテキストを読誦。 趙橋古は左手に旗をもち、右手にもった鈴を振る。	Z-26	「寅卯二年天地旱～」の頁。 読誦は (kmo20111119IMG_2474)「又唱行平」から (kmo20111119IMG_2481)終わりから2行目「得見連州唐王帝先在前」まで。
855	11/19	17:16	流栗	正面祭壇前	盤喜古	フシをつけてテキストを読誦。	Z-26	「老君勅得五雷水～」の頁。又唱福靈歌の前まで。 読誦は (kmo20111119IMG_2474)「又唱行平」から (kmo20111119IMG_2481)終わりから2行目「得見連州唐王帝先在前」まで。
856	11/19	17:17	流栗	正面祭壇前	盤喜古 趙橋古	盤喜古はテキストを替えてフシをつけて読誦。 趙橋古は左手に盃と旗をもち、右手にもった鈴を振る。	Z-16 C-3	「歌堂良願宝書一名童子賞～」の頁。 読誦は Z-16 (khi20111117IMG_0818)「三年養猪還愿淳信到壇来請師」から (khi20111117IMG_0819) 全部、(khi20111117IMG_0820) 1行目「早收糯禾醸老酒带来今夜献」の後、C-3 (ghi20140810IMG_1812)「請你行平」から「到行平大廟出世唐宮」が挿入され、Z-16 (khi20111117IMG_0820)「一行聖衆神拾頭領」に戻り「領了一度風情酒 寛々坐位」まで。
857	11/19	17:18	流栗	正面祭壇前	盤喜古	テキストを開き、そらでフシをつけて唱えている様子。	Z-16	「早收糯禾醸老酒～」の頁。
858	11/19	17:20	流栗	正面祭壇前	盤喜古 趙橋古	テキストに戻し、フシをつけて読誦。 趙橋古は鈴を振る。	Z-26	「又唱行平」の頁 (kmo20111119IMG_2474) から「一花謝二花開～」の頁。
859	11/19	17:23	流栗	正面祭壇前	盤喜古	テキストをフシをつけて読誦。	Z-26	「伏靈聖聖在伏靈黃竹前求～」の頁の途中まで。 読誦は (kmo20111119IMG_2481)「又唱福靈歌」から (kmo20111119IMG_2484)「得見行平生遊師先在前」まで。

番号	日付	時間	小儀礼名	場所 (小項目)	行動主	行動	読誦テキスト	備考
860	11/19	17:24	流栗	正面祭壇前	盤喜古 趙橋古	テキストを替え、頁を戻す。 趙橋古は左手に旗と酒盃をもち、右手にもった鈴を振る。 読誦。	Z-16 C-3	「歌堂良愿宝書一名童子」の頁。挟み込むよう。 読誦は Z-16 (khi20111171MG_0818)「三年養猪還愿涼信到壇来請師」から (khi20111171MG_0819) 全部、(khi20111171MG_0820) 1行目「早收糯禾釀老酒带来今夜献」の後、C-3 (ghi201408101MG_1812)「請你一福靈」から「劉三妹娘一行聖衆、Z-16 (khi20111171MG_0820)「一行聖衆神拾頭領」に戻り「領了一度風情酒 寛々坐位」まで。
861	11/19	17:26	流栗	正面祭壇前	盤喜古	テキストを読誦。	Z-16	「早收糯禾釀老酒」の頁。
862	11/19	17:28	流栗	正面祭壇前	盤喜古 趙橋古	盤喜古はフンをつけてテキストを読誦。 趙橋古は左手に旗をもち、右手にもった鈴を縦に振る。	Z-26	読誦は (kmo20111191MG_2487)「又唱福江廟」から (kmo20111191MG_2489)「得見伏靈五(浦+女)先在前」まで。
863	11/19	17:29	流栗	正面祭壇前	盤喜古 趙橋古	盤喜古はテキストを読誦。 趙橋古は左手に旗をもち、右手にもった鈴を振る。	Z-26	「盤王坐得三年半」の頁。 読誦は (kmo20111191MG_2487)「又唱福江廟」から (kmo20111191MG_2489)「得見伏靈五(浦+女)先在前」まで。
864	11/19	17:30	流栗	正面祭壇前	盤喜古 趙橋古	盤喜古はテキストの頁を戻す。 趙橋古は左手に旗と酒盃をもち、右手にもった鈴を横に振る。 読誦。	Z-16 C-3	「歌堂良愿宝書一名童子」の頁。 読誦は Z-16 (khi20111171MG_0818)「三年養猪還愿涼信到壇来請師」から (khi20111171MG_0819) 全部、(khi20111171MG_0820) 1行目「早收糯禾釀老酒带来今夜献」の後、C-3 (ghi201408101MG_1813)「請您福江盤王」から「到福江大廟停」が挿入され、Z-16 (khi20111171MG_0820)「一行聖衆神拾頭領」に戻り、終わりから2行目「領了一度風情酒寛々坐位」まで。
865	11/19	17:31~ 17:33	流栗	正面祭壇前	盤喜古	テキストの頁を戻す。 読誦。	Z-16 C-3	「打得銀錢掛壁上」の頁。 読誦は Z-16 (khi20111171MG_0818)「三年養猪還愿涼信到壇来請師」から (khi20111171MG_0819) 全部、(khi20111171MG_0820) 1行目「早收糯禾釀老酒带来今夜献」の後、C-3 (ghi201408101MG_1813)「請您福江盤王」から「到福江大廟停」が挿入され、Z-16 (khi20111171MG_0820)「一行聖衆神拾頭領」に戻り、終わりから2行目「領了一度風情酒寛々坐位」まで。
866	11/19	17:33	流栗	正面祭壇前	盤喜古	テキストを読誦。	Z-16 C-3	「早收糯禾釀老酒」の頁。 読誦は Z-16 (khi20111171MG_0818)「三年養猪還愿涼信到壇来請師」から (khi20111171MG_0819) 全部、(khi20111171MG_0820) 1行目「早收糯禾釀老酒带来今夜献」の後、C-3 (ghi201408101MG_1813)「請您福江盤王」から「到福江大廟停」が挿入され、Z-16 (khi20111171MG_0820)「一行聖衆神拾頭領」に戻り、終わりから2行目「領了一度風情酒寛々坐位」まで。
867	11/19	17:34	流栗	正面祭壇前	盤喜古 趙橋古	テキストの頁を戻す。 趙橋古は左手に旗をもち、右手にもった鈴を縦に振る。 読誦。	Z-26	「盤王坐得三年半」の頁。 盤王はピエンフンと発音。 読誦は (kmo20111191MG_2489)「又唱五旗厨司廟」から (kmo20111191MG_2494)「得見福江盤王聖帝先在前」まで。
868	11/19	17:35	流栗	正面祭壇前	盤喜古 趙橋古	テキストを読誦 趙橋古は左手に旗をもち、右手にもった鈴を振る。 読誦。	Z-26	「五旗鬼 得見身班脚也班」の頁 (kmo20111191MG_2494)。 読誦は (kmo20111191MG_2489)「又唱五旗厨司廟」から (kmo20111191MG_2494)「得見福江盤王聖帝先在前」まで。
869	11/19	17:37	流栗	正面祭壇前	盤喜古 趙橋古	テキストの頁を戻す。 趙橋古は左手に旗をもち、右手にもった鈴を横に振る。 読誦。	Z-16 C-3	「歌堂良愿宝書一名童子」の頁。 読誦は Z-16 (khi20111171MG_0818)「三年養猪還愿涼信到壇来請師」から (khi20111171MG_0819) 全部、(khi20111171MG_0820) 1行目「早收糯禾釀老酒带来今夜献」の後、C-3 (ghi201408101MG_1813)「請你五旗兵馬」から「厨司大廟衆王脚底瓦灶里頭上」が挿入され、Z-16 (khi20111171MG_0820)「一行聖衆神拾頭領」に戻り「領了一度風情酒寛々坐位」まで。

番号	日付	時間	小儀礼名	場所(小頭目)	行動主	行動	読誦テキスト	備考
870	11/19	17:37	流菜	正面祭壇前	盤喜古	テキストを読誦。 かめから酒を注ぐ。 盤喜古はテキストの頁を戻す。 趙橋古は左手に盃をもち、右手にもった鈴を横に振る。	Z-16 C-3	「打得銀錢掛壁上～」の頁。 読誦は Z-16 (khi20111117IMG_0818)「三年養猪還愿涼信到壇来請師」から (khi20111117IMG_0819)全部、(khi20111117IMG_0820)1行目「早收糯禾釀老酒帶來今夜獻」の後、C-3 (ghi20140810IMG_1813)「請你五旗兵馬」から「厨司大廟衆王脚底瓦灶里頭上」か挿入され、Z-16 (khi20111117IMG_0820)「一行聖衆神抬頭領」に戻り「領了一度風情酒寬々坐位」まで。 「深深耳 深々下地拜唐王～」の頁 (khi20111117IMG_0821)。 「第三張刀声象事～」の頁 (kmo20111119IMG_2502)。 「抛兵踏上楊州廟～」の頁。 読誦は Z-26 (kmo20111119IMG_2494)「又唱陽州廟」から (kmo20111119IMG_2497)「得見五旗兵馬先在前」、(kmo20111119IMG_2453)最初の2行「衆王來到郎先到六月早禾郎趕兵小人不欠大人位共在馬頭食一盃」(流菜声音)、「郎來借問金盞坐 問你金盞金不欠金盞不金打擦亂 四辺孤寒笑吟吟 座落燈頭有碗米 借你龍盞酒札來你把酒盃來獻我 我把酒盃獻你神 獻你衆祖家先、B-1 (IMG_0529B-01)「連州唐王聖帝寬坐位」。「米」。「請出后生年歌堂 魯班來鄭鼓」。「行平十二遊師寬坐位」。「伏靈五(浦+女)聖帝寬坐位」。「米」。「伏江盤王聖帝寬坐位」。「米」。「五旗兵馬寬坐位」。「米」。「位公宗祖家先寬坐位」。「米」。 唱える内容は Z-16 (khi20111117IMG_0832)「請出後生來唱堂」。
871	11/19	17:39	流菜	正面祭壇前	盤喜古	テキストを読誦。	Z-16	
872	11/19	17:40	流菜	正面祭壇前	盤喜古	テキストを読誦。	Z-26	
873	11/19	17:41～17:42	流菜	正面祭壇前	盤喜古 趙橋古	盤喜古はテキストを読誦。 趙橋古は鈴を振る。 家先単を読む。 外に出る。	Z-26 B-1	
874	11/19	17:43	流菜	正面祭壇前	趙橋古	かめから酒を注ぐ。	Z-16	「歌堂良愿宝書一名童子」の頁。 本来は番号873・877が正しい。盤喜古の間違い。
875	11/19	17:43	流菜	正面祭壇前	盤喜古 趙橋古	盤喜古は左手に旗をもち、右手にもった鈴を振る。 趙橋古は家先単を置いた後、そらでフシをつけて唱える。 読誦。 外に出る。	Z-16 Z-26 B-1	
876	11/19	17:44	流菜	正面祭壇前	盤喜古	テキストを読誦。	Z-16	「打得銀錢掛壁上～」の頁。
877	11/19	17:45～17:46	流菜	正面祭壇前	盤喜古 趙橋古	盤喜古は家先単の名前を読む。 趙橋古は左手に旗をもち、右手にもった鈴を振る。 盤喜古は家先単を置いた後、そらでフシをつけて唱える。 読誦。 外に出る。	Z-16 Z-26 B-1	読誦は Z-26 (kmo20111119IMG_2494)「又唱陽州廟」から (kmo20111119IMG_2453)最初の2行「衆王來到郎先到六月早禾郎趕兵小人不欠大人位共在馬頭食一盃」(流菜声音)、「郎來借問金盞坐 問你金盞金不欠金盞不金打擦亂 四辺孤寒笑吟吟 座落燈頭有碗米 借你龍盞酒札來你把酒盃來獻我 我把酒盃獻你神 獻你衆祖家先、B-1 (IMG_0529B-01)「連州唐王聖帝寬坐位」。「米」。「請出后生年歌堂 魯班來鄭鼓」。「行平十二遊師寬坐位」。「伏靈五(浦+女)聖帝寬坐位」。「米」。「伏江盤王聖帝寬坐位」。「米」。「五旗兵馬寬坐位」。「米」。「位公宗祖家先寬坐位」。「米」。 唱える内容は Z-16 (khi20111117IMG_0832)「請出後生來唱堂」。 左から趙子清・笛・趙桂仔・ドラ・囃子方男性・長鼓・カスタネット。
878	11/19	17:54	流菜	戸外	盤保古 趙桂仔 趙子清 囃子方男性	盤保古は家を背にしてテキストをフシをつけて読誦。 弟子達はドラ・笛・長鼓・カスタネットをもつて家に向かっで並ぶ。 フシをつけてテキストを読誦。	Z-15	左頁最初行「即在湖南路上不知破屋向東南」の頁 (khi20111117IMG_0740)から。

番号	日付	時間	小儀礼名	場所 (小項目)	行動主	行動	読誦テキスト	備考
880	11/19	17:55～ 17:56	流菜	戸外	盤保古 趙桂仔 趙子清 囉子方男性	盤保古はフシをつけてテキストを誦誦。 3名は楽器をもって並ぶ。	Z-15	「仔是伏江仔 仔是出門手不空」の頁 (khi20111117IMG_0742)。
881	11/19	17:57	流菜	戸外～ 戸口	盤保古 趙桂仔 趙子清 囉子方男性	戸口に移動。		
882	11/19	17:57	流菜	戸口	盤保古 趙桂仔 趙子清 囉子方男性	盤保古はテキストを見つつ戸口の外から内の盤喜古と掛け合う。 盤喜古もテキストを見る。 3名は盤保古の後ろにつく。		
883	11/19	17:57	流菜	戸口	盤保古	盤保古はフシをつけてテキストを誦誦。	Z-15	「郎是遠鄉速來到～」の頁 (khi20111117IMG_0743)。
884	11/19	17:57～ 17:59	流菜	戸口	盤保古	盤保古はフシをつけてテキストを誦誦。	Z-15	「左頁最終行上段「娘担開門把郎人」。その前行の上段「夜深蘭」の頁 (khi20111117IMG_0743)。
885	11/19	17:59～ 18:00	流菜	戸口	盤保古 趙桂仔 趙子清 囉子方男性	盤保古はフシをつけてテキストを誦誦。 盤喜古と盤保古は同じ頁を見ながら掛け合う。 周りは興味津々で聞く。	Z-15 (Z-26)	「題目主家問答」の頁 Z-15 (khi20111117IMG_0744)。 Z-26 (kmo20111119IMG_2570, kmo20111119IMG_2571, kmo20111119IMG_2572, kmo20111119IMG_2575) も同様の内容で補完する。 基古は妹々 (内の女性) の代理。 保古は哥々 (外の男性) の代理。 Z-15 題目 主家問答 伏 問 仔 問 郎 行 來 做 那 事 不 使 問 連 州 半 嶺 日 便 夜 伏 問 仔 天 光 當 當 不 早 到 傳 報 妹 連 州 半 嶺 日 便 夜 伏 問 仔 天 光 當 當 不 早 前 傳 報 妹 聽 聞 王 主 人 還 聖 愿 借 問 仔 得 知 主 人 還 聖 愿 早 得 三 朝 郎 曉 〇 小 郎 一 心 來 〇 愿 難 為 貴 仔 到 娘 鄉 難 為 風 流 行 夜 路 莫 怨 仔 連 州 半 嶺 日 便 夜

番号	日付	時間	小儀礼名	場所 (小頭)	行動主	行動	読みテキスト	備考
885 の続 き	11/19	17:59～ 18:00	流栗	戸口	盤保古 趙桂仔 趙子清 囃子方男性 盤喜古	盤保古はフシをつけてテキストを誦誦。 盤喜古と盤保古は同じ頁を見ながら掛け合う。 周りは興味津々で聞く。	Z-15 (Z-26)	不怨 難為風流行夜路 傳報 郎來因為路通遠 聽着路遠來接仔 連州嶺上見誰怪 連州半嶺見小怪 家主聲聲還良愿 伏問仔 行平嶺上見誰怪 行平嶺上見着怪 家主聲聲還良愿 伏問仔 伏靈嶺上見誰怪 伏靈嶺上見小怪 家主聲聲還良愿 伏問仔 伏江嶺上見誰怪 伏江嶺上着見／下上怪 家主聲聲還良愿 Z-26 正是連州聰明仔 千般百樣都報盡 郎來門前站一夜 難為主人來接仔 難為為仔 一心開了把郎入 湖南大門雙扇開 紅羅紗帕都掛盡 左手執郎長沙鼓 連州貴郎行到外門外 多謝郎情天樣大 主人開門把郎入 左手接郎橫笛吹 伏靈／江貴人行／到外門外 難為為仔 家主聲聲還良愿 門前右壁能花開 主人有事請神到 「傳報妹 細句劉三說報娘」の頁 (khi20111117IMG_0745)。
886	11/19	18:02～ 18:03	流栗	戸口	盤保古 盤喜古	盤保古はテキストを誦誦。 盤喜古と盤保古は同じ頁を見ながら掛け合う。	Z-15	不怨風流路來遠 十分辛苦又可憐 說報大王姊妹齊 大家有意接郎來 難為今夜到娘鄉 報郎有怪莫包藏 得見山猪隨路來 金銀財白掃入街 借問行平連大郎 報郎千萬莫包藏 得見山猪作笑行 金銀財白掃入堂 問仔伏靈連大親 誰怪行來說報人 得見烏龜攔路綿 金銀財白掃入庁 問仔伏江連大双 誰怪代來說報郎 得見野狸飛過天 五谷豐登千万年 歌曲聲聲到仔邊 無人生能仔聰明 一得主人門扇開 相賀家主百樣齊 難為貴仔好心機 接郎入屋讓神思 得見大王百樣在高台 大王姐妹都來齊 右手接郎好貴鈴 少郎雙手接入庁 多謝郎情糖樣甜 正是有心有意人 右手接郎好貴羅 小郎雙手接入堂 難為貴仔好心機 大家有意讓神思 主人有事請神來 郎來今夜唱歌堂／詞
887	11/19	18:04	流栗	戸口	盤喜古 盤保古	テキストを誦誦。 盤喜古と盤保古は同じ頁を見ながら掛け合う。	Z-15	左頁最終行上段「伏靈嶺上見誰怪」。その前行上段「伏問仔」の頁 (khi20111117IMG_0746)。

番号	日付	時間	小儀礼名	場所 (小項目)	行動主	行動	読誦テキスト	備考
888	11/19	18:06	流菜	戸口	盤喜古 盤保古	テキキストを誦誦。 盤喜古と盤保古は同じ頁を見ながら掛け合う。	Z-15	「伏靈嶺上見小怪～」の頁 (khi20111117IMG_0747)。
889	11/19	18:09	流菜	戸口	盤喜古 盤保古	盤喜古はテキキストを替える。フシをつけてテキキストを誦誦。	Z-26	左頁最終行「一心〇〇把郎入接郎入屋椽神恩」の頁 (kmo20111119IMG_2572) 中央部分から。
890	11/19	18:10	流菜	戸口	盤喜古 盤保古	盤喜古はフシをつけてテキキストを誦誦。	Z-26	「湖南大門双撮〇謁見大王白巖在高台」の頁 (kmo20111119IMG_2575)。
891	11/19	18:10～ 18:12	流菜	戸口	盤喜古 盤保古 趙桂仔 趙子清 囉子方男性	盤喜古はテキキストを誦誦しながら盤保古から長鼓を受け取る。次に趙桂仔からドラ・カスタネット・笛を受け取る。受け取る間にテキキストを盤保古が読む。 読んでいる場所を盤喜古が盤保古に教え、盤保古が引き継いで誦誦。	Z-26	「湖南大門双撮〇謁見大王白巖在高台」の頁 (kmo20111119IMG_2575)。
892	11/19	18:12～ 18:20	流菜	戸口	盤喜古 盤保古 趙桂仔 趙子清 囉子方男性	盤喜古と盤保古は問答をする。 盤保古はテキキストを閉じてもつ。 盤喜古は楽器をもつ。 周りは笑う。		2人の問答に飛び入りする者もあり、さらに笑いを誘う。 口語でも怪を見たり、何を見たかというと周りが笑いが生まれる。
893	11/19	18:21	流菜	戸口	盤保古	にこやかに戸口から入る。		
894	11/19	18:21	流菜	正面祭壇前	盤喜古	にこやかに楽器を置く。		
895	11/19	18:24～ 18:27	流菜	正面祭壇前	盤喜古 馮基華 趙橋古 趙桂仔 趙子清 囉子方男性 1人	正装した厨官・盤保古・趙橋古は連州からやって来た趙桂仔・趙子清・囉子方男性に腕で酒を勧めめる。さらに酒を足す。返礼で逆に趙桂仔・趙子清・囉子方男性が厨官・盤保古・趙橋古に酒を勧めめる。 この間趙金付はテキキストを誦誦。		
896	11/19	18:28	流菜	正面祭壇前	趙金付	テキキストを誦誦。 神名の後、唱える。	Z-16	「公位家先有面轉～」の頁 (khi20111117IMG_0832)。 神名は、連州、行平、伏靈、伏江、厨司、陽州。 唱えるのは、(1) 請出後生來做鼓 (2) 請出魯班來置鼓 (3) 請出後生來試鼓 (4) 寬々遊々听鼓 (5) 請出後生唱歌堂。
897	11/19	18:28～ 18:31	流菜	正面祭壇前	趙金付 趙橋古	趙金付はテキキストを誦誦。途中からそらそらでフシをつけて唱える。 趙橋古は玉簡を背から後ろに落とす。 趙橋古は鈴を振る。 神名の後、唱える。	Z-16	「接陽州廟」の頁 (khi20111117IMG_0833)。 以降そらそらでフシをつけて唱える。「立聖做連州猪」「問猪歌」の頁 (khi20111117IMG_0832)。 神名は、連州、行平、伏靈、伏江、厨司、陽州。 唱えるのは、(1) 請出後生來做鼓 (2) 請出魯班來置鼓 (3) 請出後生來試鼓 (4) 寬々遊々听鼓 (5) 請出後生唱歌堂。
1201	11/19	18:32	流菜	別室	馮基華	厨官が別室で玉簡に笹を巻く。		玉簡を背から後ろに落とすのは“做鼓”を表わす。 玉簡に笹を巻くのは“置鼓”を表わす。

番号	日付	時間	小儀礼名	場所 (小頭目)	行動主	行動	読誦テキスト	備考
898	11/19	18:32	流楽	正面祭壇前	馮基華 趙金付 盤保古	厨官は玉簫の上下に笹を巻いた物をもってしゃがむ。 趙金付と盤保古が問答。 神名の後、唱える。	Z-16	玉簫の上下に笹を巻いた物をもってしゃがむのは“試鼓”を表わす。 神名は、連州、行平、伏靈、伏江、厨司、陽州。 唱えるのは、(1) 請出後生来鼓(2) 請出魯班来置鼓(3) 請出後生来試鼓(4) 寛々遊々听鼓(5) 請出後生唱歌堂。 問答の内容 どこへ行った？ 山へ 何をしに？ 木を切ってきた 何にする？ 長鼓を作る
899	11/19	18:33	流楽	正面祭壇前	馮基華 趙金付	厨官は玉簫を趙橋古に渡し、趙金付から長鼓を渡される。 神名の後、唱える。	Z-16	神名は、連州、行平、伏靈、伏江、厨司、陽州。 唱えるのは、(1) 請出後生来鼓(2) 請出魯班来置鼓(3) 請出後生来試鼓(4) 寛々遊々听鼓(5) 請出後生唱歌堂。
900	11/19	18:33～ 18:37	流楽	正面祭壇前	盤保古 趙桂仔 趙子清 囉子方男性 1人 馮基華 趙金付	盤保古から楽器が渡され、音を合わせる。馮基華を 閉んで楽器を鳴らす。 盤保古はシンバル、趙桂仔は笛、趙子清はドラ、囉 子方男性はカスタネット、馮基華は長鼓をそれぞれ もつ。 四方に向かって礼拝した後、舞う。 趙金付はテキストをもって読誦。 神名の後、唱える。	Z-16	「把中酒」「世鼓」「目通願名」の頁(khi20111117IMG_0835)。 神名は、連州、行平、伏靈、伏江、厨司、陽州。 唱えるのは、(1) 請出後生来鼓(2) 請出魯班来置鼓(3) 請出後生来試鼓(4) 寛々遊々听鼓(5) 請出後生唱歌堂。 テキストをもって読誦は“听鼓”を表わす。 長鼓舞は本来、飄洋過海、選盤王愿、もちつき、叩首、築神、家をつくる、農耕 (焼畑)、度戒の磨刀等を表現する72の動作からなる。二人で演ずるのがよい とされる。 舞の内容は、 測量。 地を掘る。 木を植える。 木を切る。 3本の木で木を立てる杵を作る。 地を掃く。 鋸で板にする。 左頁最終行「出門外圍堂」の頁。 読誦は(khi20111117IMG_0836)「杵木出世青山出」から (khi20111117IMG_0837)「抛上太陽千萬年隨月行」まで。 「上司高祖大王謹把席～」の頁(khi20111117IMG_0838)「大哥頼」前まで。以 降そらで唱える。 唱えるのは“唱歌堂”を表わす。
901	11/19	18:37	流楽	正面祭壇前	趙金付	テキストを読誦。	Z-16	
902	11/19	18:38	流楽	正面祭壇前	趙金付	テキストを読誦。途中からそらで唱える。	Z-16	
903	11/19	18:40～ 18:41	流楽	正面祭壇前	馮基華	長鼓舞を續けて戸外へ出る。		
904	11/19	18:41～ 18:43	流楽	戸外	趙金付 趙橋古	テキストを開き、フジをつけて唱えつつ戸外へ移 動。 趙橋古は鈴を鳴らす。	Z-16	「大哥頼 大哥抄橙欄門前～」の頁(khi20111117IMG_0839)。
905	11/19	18:44	流楽	戸外	馮友妹	馮友妹はテキストをもって歌い始める。	Z-29	戸外、家を背にして左側。
907	11/19	18:44～ 18:45	流楽	戸外	趙金付	テキストを読誦。	Z-16	「大王席上有盥水姉妹齊々未～」の頁(khi20111117IMG_0840)。

番号	日付	時間	小儀礼名	場所 (小項目)	行動主	行動	読誦テキスト	備考
906	11/19	18:44~ 18:49	流栗	戸外	盤運姣 盤永紅 趙○華 趙桂仔 嚙子方男性 嚙子清 馮友妹 趙金付	歌娘3人(三姓青衣)と趙桂仔・嚙子方男性・趙子清の3人(三姓單郎)が対面する。頭に赤旗を挿さる。 馮友妹はテキストを見つつ歌う。 趙金付はテキストを見つつフシをつけて読誦。 趙橋古は左手に玉簡をもち、右手にもった鈴を振りつつ対面する歌娘等の間を8の字に回る。	Z-16	8の字に回るのは串歌堂の意味。
908	11/19	18:45	流栗	戸外	馮友妹	テキストを見つつ歌う。	Z-29	左頁5行目上段「鱈魚看糖清水底」の頁 (khi20111117IMG_1154)。
909	11/19	18:46	流栗	戸外	趙金付	フシをつけてテキストを読誦。	Z-16	左頁最終行上段「天光落日歌堂散」の頁 (khi20111117IMG_0841)。
910	11/19	18:48	流栗	戸外	趙金付	テキストを読誦。	Z-16	「後生年少々年間 不作風流富那時～」の頁 (khi20111117IMG_0842)。
911	11/19	18:50	流栗	戸口	趙橋古 趙金付	弟は入口で玉簡を背中から後ろに落とす。 趙金付が拾い、玉簡の紐を剥がして庁堂に入る。		
912	11/19	18:51	流栗	正面祭壇前	趙金付 趙橋古	弟は祭壇に向かって鈴を縦に振る。 趙金付はテキストを見つつフシをつけて読誦を続ける。		
913	11/19	18:51	流栗	正面祭壇前	趙金付	テキストを読誦。	Z-16	「奈何許 水推杉木奈河流涼～」の頁 (khi20111117IMG_0843)。
914	11/19	18:53	流栗	正面祭壇前	趙金付	テキストを読誦。暗唱部分もあり。	Z-16	「請聖明香請聖明水海岸太白請聖明燈六～」の頁 (khi20111117IMG_0846)。 読誦は (khi20111117IMG_0846) 「連州廟」から (khi20111117IMG_0847, khi20111117IMG_0848) 全部、(khi20111117IMG_0849) I行目「復〔宙+日〕曹下降盤盤筵」まで。 暗唱は (khi20111117IMG_0845) 「拿筷子点席」から (khi20111117IMG_0846) 「過一度盤」まで。
915	11/19	18:53	流栗	正面祭壇前	趙金付	テキストを読誦。暗唱部分もあり。	Z-16	「日頭東海沙洲上 照見連州連太平～」の頁 (khi20111117IMG_0847)。 読誦は (khi20111117IMG_0846) 「連州廟」から (khi20111117IMG_0847, khi20111117IMG_0848) 全部、(khi20111117IMG_0849) I行目「復〔宙+日〕曹下降盤盤筵」まで。 暗唱は (khi20111117IMG_0845) 「拿筷子点席」から (khi20111117IMG_0846) 「過一度盤」まで。
916	11/19	18:54	流栗	正面祭壇前	趙橋古	左手に玉簡をもち、右手にもった鈴を縦に振る。	Z-16	「老鼠偷喫貓兒飯 貓兒做壯下街○論」の頁 (khi20111117IMG_0848)。
917	11/19	18:55	流栗	正面祭壇前	趙金付	テキストを読誦。暗唱部分もあり。	Z-16	読誦は (khi20111117IMG_0846) 「連州廟」から (khi20111117IMG_0847, khi20111117IMG_0848) 全部、(khi20111117IMG_0849) I行目「復〔宙+日〕曹下降盤盤筵」まで。 暗唱は (khi20111117IMG_0845) 「拿筷子点席」から (khi20111117IMG_0846) 「過一度盤」まで。

番号	日付	時間	小儀礼名	場所 (小頭目)	行動主	行動	読誦テキスト	備考
918	11/19	18:56	流菜	正面祭壇前	趙金付	テキストを読誦。途中からそらで唱える。	Z-16	「来到壇同前萬福復〔宙＋日〕下降監盤延」の頁 (khi20111117IMG_0849)「点席」の前まで。以降そらで唱える。 読誦は (khi20111117IMG_0846)「連州廟」から (khi20111117IMG_0847, khi20111117IMG_0848) 全部、 (khi20111117IMG_0849) 1行目「復〔宙＋日〕曹下降監盤延」まで。 暗唱は (khi20111117IMG_0845)「拿筷子点席」から (khi20111117IMG_0846)「過一度盤」まで。 左頁2行目「拿筷子点席」の頁 (khi20111117IMG_0845)。
919	11/19	18:57～ 18:58	流菜	正面祭壇前	趙金付 趙橋古	テキストを開けてもち、そらで唱える。 趙橋古は左手に玉簡をもち、右手にもった箸を祭壇に向けて。箸で祭壇上からト具を床に落とす。 読誦。 暗唱。 供物の数や内容を箸で数える。	Z-16	読誦は (khi20111117IMG_0846)「連州廟」から (khi20111117IMG_0847, khi20111117IMG_0848) 全部、 (khi20111117IMG_0849) 1行目「復〔宙＋日〕曹下降監盤延」まで。 暗唱は (khi20111117IMG_0845)「拿筷子点席」から (khi20111117IMG_0846)「過一度盤」まで。 箸で祭壇上からト具を床に落とすのは“監定”のため。
920	11/19	18:58	流菜	正面祭壇前	趙橋古	鈴を振る。	Z-16	「点席行平廟」造寺魯班會造寺～の頁 (khi20111117IMG_0849)。
921	11/19	18:59	流菜	正面祭壇前	趙金付 趙橋古	趙金付はテキストの頁を戻し、読誦。暗唱部分もあり。 趙橋古は箸で“監定”を行なう。	Z-16	読誦は (khi20111117IMG_0849)「点席 行平廟」、 (khi20111117IMG_0850, khi20111117IMG_0853) 全部、 (khi20111117IMG_0854)「復〔宙＋日〕下降監盤延」まで。 暗唱は (khi20111117IMG_0845)「拿筷子点席」から (khi20111117IMG_0846)「過一度盤」まで。
922	11/19	19:01	流菜	正面祭壇前	趙金付 趙橋古	テキストを読誦。暗唱部分もあり。 趙橋古は箸で“監定”を行なう。	Z-16	「火燒南安寺里佛～」の頁 (khi20111117IMG_0854)。 読誦は (khi20111117IMG_0849)「点席 行平廟」、 (khi20111117IMG_0850, khi20111117IMG_0853) 全部、 (khi20111117IMG_0854)「復〔宙＋日〕下降監盤延」まで。 暗唱は (khi20111117IMG_0845)「拿筷子点席」から (khi20111117IMG_0846)「過一度盤」まで。
923	11/19	19:02	流菜	正面祭壇前	趙橋古 趙金付	趙橋古は左手に玉簡をもち、右手にもった箸を祭壇Z-16に向けて。箸で祭壇上からト具を床に落とす。 弟子は鈴を振る。 趙金付はテキストを読誦。暗唱部分もあり。 箸で“監定”を行なう。	Z-16	「火燒南安寺里佛～」の頁。伏靈廟 読誦は (khi20111117IMG_0849)「点席 行平廟」、 (khi20111117IMG_0850, khi20111117IMG_0853) 全部、 (khi20111117IMG_0854)「復〔宙＋日〕下降監盤延」まで。 暗唱は (khi20111117IMG_0845)「拿筷子点席」から (khi20111117IMG_0846)「過一度盤」まで。
924	11/19	19:03	流菜	正面祭壇前	趙金付 趙橋古	テキストを読誦。暗唱部分もあり。 趙橋古は箸で“監定”を行なう。	Z-16	「聖菓種香竹笋～」の頁 (khi20111117IMG_0859)。 読誦は (khi20111117IMG_0854)「伏靈廟」、 (khi20111117IMG_0859)「復〔宙＋日〕下降監盤延」まで。 暗唱は (khi20111117IMG_0845)「拿筷子点席」から (khi20111117IMG_0846)「過一度盤」まで。
925	11/19	19:04	流菜	正面祭壇前	趙橋古 趙金付	趙橋古は左手に玉簡をもち、右手にもった箸を祭壇Z-16に向けて。箸で祭壇上からト具を床に落とす。 趙金付はテキストを読誦。暗唱部分もあり。 箸で“監定”を行なう。	Z-16	読誦は (khi20111117IMG_0854)「伏靈廟」、 (khi20111117IMG_0859)「復〔宙＋日〕下降監盤延」まで。 暗唱は (khi20111117IMG_0845)「拿筷子点席」から (khi20111117IMG_0846)「過一度盤」まで。

番号	日付	時間	小儀礼名	場所(小項目)	行動主	行動	読誦テキスト	備考
926	11/19	19:05	流菜	正面祭壇前	趙金付 趙橋古	趙橋古は左手に玉簡をもち、右手にもった箸を祭壇上からト具を床に落とす。 箸で祭壇上からト具を床に落とす。 趙金付はそらで唱える。 読誦。 箸で“鑑定”を行なう。	Z-16	読誦は(khi20111117IMG_0854)「伏靈廟」、(khi20111117IMG_0859)「復(畝+日)下降監盤筵」まで。 暗唱は(khi20111117IMG_0845)「拿筷子点席」から(khi20111117IMG_0846)「過一度盤」まで。
927	11/19	19:05～ 19:06	流菜	正面祭壇前	趙金付 趙橋古	趙橋古は左手に玉簡をもち、右手にもった箸を祭壇上からト具を床に落とす。 箸で祭壇上からト具を床に落とす。 趙金付はテキストを読誦。暗唱部分もあり。 箸で“鑑定”を行なう。	Z-16	読誦は(khi20111117IMG_0854)「伏靈廟」、(khi20111117IMG_0859)「復(畝+日)下降監盤筵」まで。 暗唱は(khi20111117IMG_0845)「拿筷子点席」から(khi20111117IMG_0846)「過一度盤」まで。 「福江廟」の頁。 (※「起計盤王先起計」)
928	11/19	19:06	流菜	正面祭壇前	趙金付 趙橋古	趙金付はテキストを読誦。 趙橋古は箸で“鑑定”を行なう。	Z-16	読誦は(khi20111117IMG_0859)「福江廟」、(khi20111117IMG_0860)「復(畝+日)下降監盤筵」まで。 暗唱は(khi20111117IMG_0845)「拿筷子点席」から(khi20111117IMG_0846)「過一度盤」まで。
929	11/19	19:06～ 19:07	流菜	正面祭壇前	趙金付 趙橋古	趙金付はテキストを読誦。暗唱部分もあり。 趙橋古は鈴を振る。 箸で“鑑定”を行なう。	Z-16	「黃龍又定雷執傳望五雷轉式聲～」の頁(khi20111117IMG_0860)。 読誦は(khi20111117IMG_0859)「福江廟」、(khi20111117IMG_0860)「復(畝+日)下降監盤筵」まで。 暗唱は(khi20111117IMG_0845)「拿筷子点席」から(khi20111117IMG_0846)「過一度盤」まで。
930	11/19	19:07～ 19:08	流菜	正面祭壇前	趙橋古 趙金付	趙橋古は左手に玉簡をもち、右手にもった箸を祭壇上からト具を床に落とす。 趙金付はテキストを読誦。 箸で“鑑定”を行なう。	Z-16	「黃龍又定雷執傳望五雷轉式聲～」の頁。 読誦は(khi20111117IMG_0859)「福江廟」、(khi20111117IMG_0860)「復(畝+日)下降監盤筵」まで。 暗唱は(khi20111117IMG_0845)「拿筷子点席」から(khi20111117IMG_0846)「過一度盤」まで。
931	11/19	19:08～ 19:09	流菜	正面祭壇前	趙橋古 趙金付	趙金付はテキストを読誦。 趙橋古は箸で“鑑定”を行なう。	Z-16	「厨司廟」打在湖南大路上～」の頁。 読誦は(khi20111117IMG_0860)「厨司廟」、(khi20111117IMG_0861)「復(畝+日)下降監盤筵」まで。 暗唱は(khi20111117IMG_0845)「拿筷子点席」から(khi20111117IMG_0846)「過一度盤」まで。
932	11/19	19:10	流菜	正面祭壇前	趙橋古 趙金付	趙橋古は左手に玉簡をもち、右手にもった箸を祭壇上からト具を床に落とす。 趙金付はそらで唱える。 箸で“鑑定”を行なう。	Z-16	読誦は(khi20111117IMG_0860)「厨司廟」、(khi20111117IMG_0861)「復(畝+日)下降監盤筵」まで。 暗唱は(khi20111117IMG_0845)「拿筷子点席」から(khi20111117IMG_0846)「過一度盤」まで。 テキストの読誦部分もあり。
933	11/19	19:10～ 19:11	流菜	正面祭壇前	趙橋古 趙金付	趙橋古は左手に玉簡をもち、右手にもった箸を祭壇上からト具を床に落とす。 趙金付はテキストを読誦。 箸で“鑑定”を行なう。	Z-16	読誦は(khi20111117IMG_0860)「厨司廟」、(khi20111117IMG_0861)「復(畝+日)下降監盤筵」まで。 暗唱は(khi20111117IMG_0845)「拿筷子点席」から(khi20111117IMG_0846)「過一度盤」まで。 暗唱部分もあり。

番号	日付	時間	小儀礼名	場所(小頭目)	行動主	行動	読誦テキスト	備考
935	11/19	19:11	流栗	正面祭壇前	趙橋古 趙金付	趙橋古は左手に玉簡をもち、右手にもった箸を祭壇Z-16に向けて。箸で祭壇上からト具を床に落とす。 趙金付はテキストを読誦。 箸で“鑑定”を行なう。	Z-16	読誦は(khi20111117IMG_0860)「厨司廟」、(khi20111117IMG_0861)「復(宙+日)下降監盤筵」まで。 暗唱は(khi20111117IMG_0845)「拿筷子点席」から(khi20111117IMG_0846)「過一度盤」まで。 暗唱部分もあり。
934	11/19	19:12	流栗	正面祭壇前	趙橋古 趙金付	趙橋古は左手に玉簡をもち、右手にもった箸を祭壇Z-16に向けて。箸で祭壇上からト具を床に落とす。 趙金付はテキストをちらちら見つつ読誦。 箸で“鑑定”を行なう。	Z-16	「番々覆々成面辺」の頁。「楊州廟」 読誦は(khi20111117IMG_0861)「楊州廟」、(khi20111117IMG_0862, khi20111117IMG_0863)全部、(khi20111117IMG_0864)「復(宙+日)下降監盤筵」まで。 暗唱は(khi20111117IMG_0845)「拿筷子点席」から(khi20111117IMG_0846)「過一度盤」まで。 暗唱部分もあり。
936	11/19	19:13～ 19:14	流栗	正面祭壇前	趙橋古 趙金付	趙橋古は左手に玉簡をもち、右手にもった箸を祭壇Z-16に向けて。箸で祭壇上からト具を床に落とす。 趙金付はテキストを抱えてそらで唱える。 箸で“鑑定”を行なう。	Z-16	読誦は(khi20111117IMG_0861)「楊州廟」、(khi20111117IMG_0862, khi20111117IMG_0863)全部、(khi20111117IMG_0864)「復(宙+日)下降監盤筵」まで。 暗唱は(khi20111117IMG_0845)「拿筷子点席」から(khi20111117IMG_0846)「過一度盤」まで。 読誦部分もあり。
937	11/19	19:14～ 19:15	流栗	正面祭壇前	趙橋古 趙金付	趙橋古は左手に玉簡をもち、右手にもった箸を祭壇Z-16に向けて。箸で祭壇上からト具を床に落とす。 趙金付はテキストを読誦。 箸で“鑑定”を行なう。	Z-16	読誦は(khi20111117IMG_0861)「楊州廟」、(khi20111117IMG_0862, khi20111117IMG_0863)全部、(khi20111117IMG_0864)「復(宙+日)下降監盤筵」まで。 暗唱は(khi20111117IMG_0845)「拿筷子点席」から(khi20111117IMG_0846)「過一度盤」まで。 読誦部分もあり。
938	11/19	19:16	流栗	正面祭壇前	趙橋古 趙金付	趙橋古は左手に玉簡をもち、右手にもった箸を祭壇Z-16に向けて。箸で祭壇上からト具を床に落とす。 趙金付はテキストを読誦。 箸で“鑑定”を行なう。	Z-16	読誦は(khi20111117IMG_0861)「楊州廟」、(khi20111117IMG_0862, khi20111117IMG_0863)全部、(khi20111117IMG_0864)「復(宙+日)下降監盤筵」まで。 暗唱は(khi20111117IMG_0845)「拿筷子点席」から(khi20111117IMG_0846)「過一度盤」まで。 読誦部分もあり。
939	11/19	19:16	流栗	正面祭壇前	趙金付 趙橋古	趙金付はテキストを読誦。 趙橋古は箸で“鑑定”を行なう。	Z-16	「番々覆々成面辺手拿牙勿再来求～」の頁(khi20111117IMG_0862)。 読誦は(khi20111117IMG_0861)「楊州廟」、(khi20111117IMG_0862, khi20111117IMG_0863)全部、(khi20111117IMG_0864)「復(宙+日)下降監盤筵」まで。 暗唱は(khi20111117IMG_0845)「拿筷子点席」から(khi20111117IMG_0846)「過一度盤」まで。 読誦部分もあり。

番号	日付	時間	小儀礼名	場所(小項目)	行動主	行動	読誦テキスト	備考
940	11/19	19:17	流菜	正面祭壇前	趙金付 趙橋古	趙金付はテキストを読誦。 趙橋古は箸で“鑿定”を行なう。	Z-16	「六朝六夜門眉掛 六路等双不了時～」の頁 (khi201111171MG_0863)。 読誦は (khi201111171MG_0861)「楊州廟」、(khi201111171MG_0862, khi201111171MG_0863) 全部、(khi201111171MG_0864)「復〔音+日〕下 降鑿盤筵」まで。 暗唱は (khi201111171MG_0845)「拿筷子点席」から (khi201111171MG_0846)「過一度盤」まで。 読誦部分もあり。
941	11/19	19:19	流菜	正面祭壇前	趙金付 趙橋古	趙金付はテキストを読誦。 趙橋古は箸で“鑿定”を行なう。	Z-16	「十二共陽十二鏡 楊州洞口慢思量～」の頁 (khi201111171MG_0864)。 読誦は (khi201111171MG_0861)「楊州廟」、(khi201111171MG_0862, khi201111171MG_0863) 全部、(khi201111171MG_0864)「復〔音+日〕下 降鑿盤筵」まで。 暗唱は (khi201111171MG_0845)「拿筷子点席」から (khi201111171MG_0846)「過一度盤」まで。 暗唱部分もあり。
942	11/19	19:19～ 19:20	流菜	正面祭壇前	趙橋古 趙金付	趙橋古は左手に玉簡をもち、右手にもった箸を祭壇Z-16 に向けて。箸で祭壇上からト具を床に落とす。箸で “鑿定”を行なう。 趙金付はテキストを読誦。	Z-16	読誦は (khi201111171MG_0861)「楊州廟」、(khi201111171MG_0862, khi201111171MG_0863) 全部、(khi201111171MG_0864)「復〔音+日〕下 降鑿盤筵」まで。 暗唱は (khi201111171MG_0845)「拿筷子点席」から (khi201111171MG_0846)「過一度盤」まで。 暗唱部分もあり。
943	11/19	19:20	流菜	正面祭壇前	趙金付	テキストを読誦。	Z-16	「解神意」の頁 (khi201111171MG_0864)。
944	11/19	19:21	流菜	正面祭壇前	趙金付	テキストを読誦。	Z-16	「桃源丹竹頭 隨根生上尾頭浮系」の頁 (khi201111171MG_0865)。
945	11/19	19:22	流菜	正面祭壇前	趙橋古	趙橋古はひざまずき、ト具を手にもって播す。		
946	11/19	19:22	流菜	正面祭壇前	趙金付	趙金付はテキストを読誦。	Z-16	「桃源丹竹頭 隨根生上尾頭浮系」の頁。
947	11/19	19:22	流菜	正面祭壇前	趙金付	趙金付はテキストを読誦。途中からそらで唱える。	Z-16	「去管下若弄多…」の頁 (khi201111171MG_0866)「二月清雨水深」まで。これ は追加で読誦されている。“神不滿意”だったため。 以降そらで唱える。
948	11/19	19:23	流菜	正面祭壇前	趙橋古	趙橋古はひざまずき、ト具を手にもって播す。		
949	11/19	19:23	流菜	正面祭壇前	趙橋古	趙橋古はト具を後ろに落とす。		
950	11/19	19:24	流菜	正面祭壇前	趙金付	テキストを読誦。	Z-16	「打轉管唱」の頁 (khi201111171MG_0867)。
951	11/19	19:24	流菜	正面祭壇前	趙金付	テキストを読誦。	Z-16	「衆姓子孫來謝聖～」の頁 (khi201111171MG_0868)。
952	11/19	19:25	流菜	正面祭壇前	趙金付	テキストを読誦。	Z-16	「家主有心來謝聖～」の頁 (khi201111171MG_0869)。
953	11/19	19:25～ 19:26	流菜	正面祭壇前	趙橋古	頭に挿していた旗を祭壇左右の旗の山に戻す。		旗を戻すのは Z-16 (khi201111171MG_0869)「山頭花卸了叫郎何処挿花兒」 か読誦されたとき。
954	11/19	19:26	流菜	正面祭壇前	趙橋古	鈴を振る。		
955	11/19	19:26	流菜	正面祭壇前	趙金付	テキストを読誦。	Z-16	「家主有心來謝聖～」の頁。「山頭花卸了」
956	11/19	19:27	流菜	正面祭壇前	趙金付	テキストを読誦。	Z-16	「挿入歌堂討賊寇～」の頁 (khi201111171MG_0870)。 「〇換歌詞莫換人娘」まで流菜音声。(khi201111171MG_0870)「羅竹花開改 換表」から (khi201111171MG_0879) は脱童となり上光音声となる。 「十個主人壇中坐～」の頁 (khi201111171MG_0871)。「照聖名開」
957	11/19	19:28	流菜	正面祭壇前	趙金付	テキストを読誦。	Z-16	「廣東出世有盤米～」の頁 (khi201111171MG_0872)。
958	11/19	19:30	流菜	正面祭壇前	趙金付	テキストを読誦。	Z-16	「賞浪兵頭兵歡喜～」の頁 (khi201111171MG_0873)。
959	11/19	19:31	流菜	正面祭壇前	趙金付	テキストを読誦。	Z-16	

番号	日付	時間	小儀礼名	場所 (小頭)	行動主	行動	読誦テキスト	備考
960	11/19	19:32	流栗	正面祭壇前	趙金付	テキストを読誦。	Z-16	「去時人過蛇頭嶺～」の頁 (khi20111117IMG_0873)。 非常に速いペースで「脱童」読誦。
961	11/19	19:34～ 19:35	流栗	正面祭壇前	趙金付	テキストを読誦。	Z-16	「祖師父本師爺你把人魂交回我」の頁 (khi20111117IMG_0875)。
962	11/19	19:35	流栗	正面祭壇前	趙金付	頁をめくる。テキストを読誦。	Z-16	「你把肚間魂交回我～」の頁 (khi20111117IMG_0877)。
963	11/19	19:36	流栗	正面祭壇前	趙金付	テキストを読誦。	Z-16	「高樓打鼓咚咚叫～」の頁 (khi20111117IMG_0878)。
964	11/19	19:37	流栗	正面祭壇前	趙金付	テキストを読誦。途中からそらで唱える。	Z-16	「神頭脱脚箱裡住～」の頁 (khi20111117IMG_0879)「日裡定陽夜定陰」まで。 以降そらで唱える。
965	11/19	19:38	流栗	正面祭壇前	趙橋古 趙金付	趙橋古は玉簡を背から後ろに落とす。 左手に玉簡をもち、右手にもった鈴を振りつつ立つた姿勢からひざまずいて礼を繰り返す。 趙金付はそらで唱えごと。		そらで唱えるのは師父への礼とねぎらいの内容。 玉簡を後ろに落とすのは「回陽」の意味。その後の唱えごととは師父への感謝の内容。
966	11/19	19:40～ 19:42	流栗	正面祭壇前	趙金付 盤保古	盤保古は紙銭を積んで燃やす。唱えごと。ト具で占う。 趙金付は祭壇の酒盃に献酒。唱えごと。 おかずの碗7・酒・箸7・酒盃7を机の上に並べる。		おかず2種 (白菜とあと1品) 並べる品は許願時に約束した物。
967	11/19	19:43	流栗	正面祭壇前	趙金付 馮基華	おかずの碗7・酒・箸7・酒盃7を机の上に並べる。		左頁最終2行「三十六段歌曲、起聲唱、初八席唱、隔席唱論娘唱」の頁 (khi20111117IMG_0766)。
968	11/19	19:45	流栗	正面祭壇前	趙金付	テキストを開いて机の上に置く。	Z-16	そらで唱えるのは、連州、行平、伏靈、伏江、厨師の神々を招へいする“請王”の内容。
969	11/19	19:45	流栗	正面祭壇前	趙金付 盤保古	盤保古は紅衣を着て玉簡をもち、そらで唱えごと。 趙金付は紙銭をちぎる。		紙銭をちぎるのは、30打を盤王に献ずるため。
1195	11/19	19:45	流栗	正面祭壇前	馮基華 増設机	ドラ打つ。		
970	11/19	19:46	流栗	正面祭壇前	趙金付 盤保古	趙金付はテキストを見つつ唱えごと。 盤保古は唱えごと。	Z-16	左頁最終2行「三十六段歌曲、起聲唱、初八席唱、隔席唱論娘唱」の頁。 趙金付の唱えごととは盤王を招へいし“鑑定”してもらうため。 盤保古の唱えごととは盤王を招へいする。
971	11/19	19:47	流栗	正面祭壇前	趙金付 盤保古	趙金付は祭壇上右の旗の山に紙銭を入れる。ト具で占う。 盤保古は唱えごと。		ト具での占いは陽卦で招へい、選卦で7碗を数える、陰卦で“鑑定 (食べている)”の意味。
972	11/19	19:47	流栗	正面祭壇前	趙金付 盤保古	趙金付は机の上の酒盃に献酒。ト具で占う。唱えごと。		“平安”と聞こえる。
973	11/19	19:48	流栗	正面祭壇前	趙金付 盤保古	盤保古は家先単を読む。 趙金付はそらで唱える。ト具で占う。	Z-16	机の上のテキストの頁は「三十六段歌曲、起聲唱、初八席唱、隔席唱論娘唱」。 3回繰り返している。
974	11/19	19:49	流栗	正面祭壇前	趙金付 盤保古	趙金付は祭壇右側の旗の山に紙銭を入れる。 盤保古は左手に玉簡をもち、右手にもった鈴を伏せる。机の上に家先単を開き、唱える。		3回繰り返している。
975	11/19	19:50	流栗	正面祭壇前	趙金付 盤保古	趙金付はフシをつけてテキストを読誦。	Z-16	「日出早、日出晏、月正中、月正斜～」の頁 (khi20111117IMG_0767)、歌の目次部分。 読誦は、歌の目次。歌詞を引き出す。 「陰声陽氣」の陰声とは劉三姉娘の声乗り移って歌がうまくなる。 請盤王の声音。 3回繰り返している。

番号	日付	時間	小儀礼名	場所 (小項目)	行動主	行動	読誦テキスト	備考
976	11/19	19:51	流栗	正面祭壇前 増設机	趙金付 盤保古	盤保古は唱える。 趙金付は続けてフシをつけてテキストを読誦。右手にト具、左手に紙銭をもつ。 趙金付は祭壇右側の旗の山に紙銭を入れる。 盤保古は礼。	Z-16	「第五南花子曲、彭祖、郎老～」の頁 (khi201111171MG_0768)。 3回繰り返し返している。
977	11/19	19:51	流栗	正面祭壇前 増設机	趙金付 盤保古	趙金付はト具で占う。唱えごと。 盤保古は家先単を見つつ唱えごと。		紙銭を献じるのは“請歌詞”“請声音”し声と歌詞を引き出し、まもってもらうため。 3回繰り返し返している。
979	11/19	19:51～ 19:52	流栗	正面祭壇前 増設机	趙金付 盤保古	趙金付はト具で占う。唱えごと。 盤保古は家先単を見つつ唱えごと。		ト具での占いは陽卦で催促、選卦で男女にわたった、陰卦で保の意味。 家先単は陽州のとき唱える。 3回繰り返し返している。
978	11/19	19:53	流栗	正面祭壇前 増設机	趙金付 盤保古	盤保古は鈴を伏せて左手にもち替え、右手でト具で占う。唱えごと。 趙金付はト具で占う。唱えごと。		3回繰り返し返している。
980	11/19	19:54～ 19:55	流栗	正面祭壇前 増設机	趙金付 盤保古	趙金付はト具で占う。唱えごと。 祭壇上に献酒。 趙金付はト具で占う。唱えごと。		3回繰り返し返している。
981	11/19	19:56	流栗	正面祭壇前 増設机	盤保古 趙金付	趙金付はテキストの頁を戻し、もう1度読誦。	Z-16	「三十六段歌曲」の頁。 3回繰り返し返している。
982	11/19	19:57	流栗	正面祭壇前 増設机	趙金付	趙金付はテキストを読誦。	Z-16	「日出早 日出晏 月正中 月正斜～」と大歌の目次。
984	11/19	19:57	流栗	正面祭壇前 増設机	趙金付	趙金付はテキストを読誦。	Z-16	3回繰り返し返している。 「第五南花子曲 彭祖 郎老～」と大歌の目次。
983	11/19	19:58～ 20:00	流栗	正面祭壇前 増設机	盤保古 趙金付	趙金付はテキストを閉じる。ト具で占う。唱える。祭壇右側の旗の山に紙銭を入れる。ト具で占う。再び紙銭を同じ旗の山に入れ、ト具で占う。 盤保古はト具で占う。唱える。机の右側に移動。左手に玉簡、右手に伏せた鈴をもつ。 盤喜古は家先単を見つつ鈴を振り唱える。		趙金付が唱えるのは、盤王に席に着いてもらうため。 紙銭は30枚を献じ、7碗を下げる許可を得るため。 3回繰り返し返している。
985	11/19	21:33	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机	盤喜古 趙金付	趙金付はカステタネットを鳴らしつつ唱える。 厨官はドラを叩く。	Z-19	手元に『大歌書一本上冊』あり。
986	11/19	21:34	唱盤王大 歌	正面祭壇前	馮基華			
987	11/19	21:34	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机	馮基華	厨官は碗・酒盃・脂身とあげの入った碗等を運び、趙金付に手渡しし祭壇に並べてもらう。		

番号	日付	時間	小儀礼名	場所(小頭目)	行動主	行動	読誦テキスト	備考
988	11/19	21:37～ 21:41	小儀礼名 唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机	盤喜古 盤保古 趙金付	盤保古は唱える。 盤喜古はそらで唱える。 趙金付はテキストを速いペースでフシをつけて読誦。 師父のグループと歌娘は違うリズムで歌う。 趙金付は沙板(カスタネット)をカラカラいわせる。	Z-19	盤保古の手元に家先単あり。 趙金付が読誦しているのは「見大怪伏羲相合為婚了」の頁 Z-19 (khi20111117IMG_0886)。 盤保古と盤喜古が馬頭意者を分担し唱えている。馬頭意者はプログラムをやっているところまで読む。元盆愿、招兵愿、盤王愿の順に唱えるが、略す部分がある。現在進めている盤王愿(歌堂愿)のところは略さずに詳しく唱える。馬が着いたところをいうので馬頭意者という。大庁意者に比べ馬頭意者の方が簡単。 趙金付の速いペースの読誦は Z-19 (khi20111117IMG_0886)「坐席三幡」(khi20111117IMG_0888)「第三位保書世為也」まで、Z-15 (khi20111117IMG_0750)「又三幡用」(khi20111117IMG_0752)「第三位保書也」までと一致の部分。 これは歌ではなく念。 「西行坐老人坐席後生～」の頁 (khi20111117IMG_0887)。
989	11/19	21:45～ 21:46	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机	盤喜古 盤保古 趙金付 趙子清	趙金付はフシをつけてテキストを読誦。 盤保古と盤喜古はそらでフシをつけて唱える。	Z-19	
990	11/19	21:46	唱盤王大 歌	正面祭壇右 脇	馮基華	子豚を丸ごと置いた盆の上にまる鶏1羽を入れた 碗を5つ置いた盆を置く。		
991	11/19	21:47	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机	盤喜古 盤保古 趙金付 趙子清	趙金付はテキストを読誦。	Z-19	「袖裡頭請出陰声陽氣龍女～」の頁 (khi20111117IMG_0888)。
992	11/19	21:54	唱盤王大 歌	庁堂中央机	馮友妹 盤運姣 盤永紅 趙○華	馮友妹はテキストを見つつ歌う。歌娘は聞いている。 盤永紅はテキストと同じ内容だがリズムは違う。	Z-29	テキストは師父達と同じ内容だがリズムは違う。

番号	日付	時間	小儀礼名	場所(小項目)	行動主	行動	読誦テキスト	備考
993	11/19	21:55～ 21:57	小儀礼名 唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机	盤喜古 盤保古 趙金付 趙桂仔 趙子清 囉子方男性	テキストを真ん中に置いてフシをつけて読誦。 問答をする。	Z-19	1頁目「人話郎村歌堂到～」。 (khi2011117IMG_0893)「人話郎村歌堂到～」からツァンガー(盤王大歌 音声)。曲の挟まれる部分はレイチュー、ツァンガーの最初は、地の文が答 えとなる問いを発し、問答形式を取る。問答は(khi20111117IMG_0893～ khi2011117IMG_0895)「起歌唱」の「起歌唱」の前まで。 問答の例(khi20121117IMG_0894) 1人が 唸(意味は何、読みはニヤン)話唸村唸堂到 唸上唸頭何後來 唸堂到 唸上唸頭唸後行 唸小唸聲唸听後 唸得唸来唸也来 唸聽後 唸得唸来唸也行 と歌う。もう1人が本文に従い 人話郎村歌堂到 (人の話では男の村で歌の祭りが来るそうだ) 踏上船頭聽後來 (船の船先に登り、聞いてから来る) 歌堂到 (歌の祭りにある) 踏上船頭聽後行 (船の船先に登り、聞いてから行く) 郎小聽聲又聽後 (彼は音を聞いて聞いてから) 聽得娘来郎也来 (聞けば彼女が来れば彼も来る) 又聽後 (聞いたら) 聽得娘来郎也行 (聞けば彼女が来れば彼も来る) と答える。 (khi20111117IMG_0895)7行目「戌亥/午未」は現実の時間に置き換える。 問答でないときは右頁と左頁と分かれて歌う。

番号	日付	時間	小儀礼名	場所(小頭目)	行動主	行動	読誦テキスト	備考
1202	11/19	21:57?	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机	厨師 盤喜古 盤保古 趙金付 趙桂仔 趙子清 囃子方男性	厨師が線香をとまず。 テキストを真ん中に置いてフシをつけて読誦。	Z-19	沙板が鳴らされる。 問答の内容は 青天白日 白日青天 各歌乱唱 乱唱乱排 乱排乱唱 唱歌唱曲 唱曲唱歌 唱到第一江水沙 伸過第一江水沙 唱得句句也是歌 唱得句句也是曲 唱得有頭有尾之歌 不得唱得無頭無尾之歌 …………… この問答はZ-20 (khi20111117IMG_0962) にも記述あり。 まず曲の開始前に (khi20111117IMG_0888) 第一洪水沙曲の調子を合わせ るための「拉里連郎里拉里 連郎拉里利拉里 連郎拉里利拉 里」を歌う。 曲は (khi20111117IMG_0902) 「洪水沙曲」の部分、レイチューの声音。 その後「洪水沙曲」が始まる。曲の始まりは以下同様。七韻曲ごとに曲の調子 を合わせる「拉里……」が歌われる。 時間は便宜上入れてあるだけで正しいものではない。 歌は「洪水沙曲」に続く (khi20111117IMG_0904) 「寅卯二年天大旱」から (khi20111117IMG_0905) 「見怪一段」前まで問答形式。 時間は便宜上入れてあるだけで正しいものではない。
1203	11/19	21:57?	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机	盤喜古 盤保古 趙金付 趙桂仔 趙子清 囃子方男性	テキストを真ん中に置いてフシをつけて読誦。	Z-19	
1204	11/19	21:57?	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机	盤喜古 盤保古 趙金付 趙桂仔 趙子清 囃子方男性	テキストを真ん中に置いてフシをつけて読誦。	Z-19	歌は (khi20111117IMG_0914) 「第一平王造得地」から問答形式。 時間は便宜上入れてあるだけで正しいものではない。 映像の再生時間から、番号1202から40分ほど経過していると推測できる。
1205	11/19	21:57?	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机	厨師 盤喜古 盤保古 趙金付 趙桂仔 趙子清 囃子方男性	厨師が線香をとまず。 テキストを真ん中に置いてフシをつけて読誦。	Z-19	沙板が打たれる。 歌はZ-19 (khi20111117IMG_0889) の大三満段曲「連郎呀拉哩拉利…」が 入り第三満段曲Z-19 (khi20111117IMG_0926, khi20111117IMG_0927, khi20111117IMG_0928)、(khi20111117IMG_0929) 「世今离了九多年好做 風流把你看」で止める。 時間は便宜上入れてあるだけで正しいものではない。 映像の再生時間から、番号1204から40分ほど経過していると推測できる。 「第一自轉到水步～」の頁 (khi20111117IMG_0895)。
994	11/19	21:58	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机	盤喜古 盤保古 趙金付 趙桂仔 趙子清 囃子方男性	テキストを真ん中に置いてフシをつけて読誦。	Z-19	

番号	日付	時間	小儀礼名	場所 (小頭目)	行動主	行動	読誦テキスト	備考
995	11/19	22:12	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机	盤喜古 盤保古 趙金付 趙桂仔 趙子清 驢子方男性	テキストを真ん中に置いてフシをつけて読誦。	Z-19	左頁最終行上段「日頭出早娘担水」の頁 (khi20111117IMG_0896)。
996	11/19	22:13～ 22:15	唱盤王大 歌	庁堂中央机	歌娘達 男性達	テキストを見つつ歌う。	Z-29	活字本もあり。 ※写真のピン트가合っていない
1001	11/19	23:17	唱盤王大 歌	正面祭壇右 端	盤喜古	座って唱えごと。紙銭を積む。	Z-29	テキスト右頁「伏問仔」が見える (khi20111120IMG_1163)。 ※写真のピン트가合っていない
997	11/19	23:18	唱盤王大 歌	庁堂中央机	歌娘達 男性達		Z-19	「深山竹木劉王種～」の頁 (khi20111117IMG_0918)。
998	11/19	23:25	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机	師父達	テキストを読誦。	Z-19	
1002	11/19	23:25	唱盤王大 歌	正面祭壇右 端	盤喜古	座って家先単を見つつ唱えごと。紙銭を積む。	Z-19	
999	11/19	23:33～ 23:34	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机	師父達	テキストを読誦。	Z-19	「盤王起計」の頁 (khi20111117IMG_0921)。
1000	11/19	23:34～ 23:36	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机	師父達	テキストを読誦。	Z-19	「起計盤王先起計」「盤王起計種芋麻系」の頁 (khi20111117IMG_0922)。 三段偏曲
1003	11/19	23:38	唱盤王大 歌	正面祭壇右 端	盤喜古	立って水碗を左手でもち、唱えごと。		
1004	11/19	23:42	唱盤王大 歌	正面祭壇右 端	盤喜古 受礼者	受礼者は正装してひざまずく。		
1010	11/19	23:42～ 23:52	唱盤王大 歌	庁堂中央机	歌娘達	馮友妹がテキストを見つつ歌う。	Z-29	テキスト「伏問仔 馮友妹紅米元邁那行元～」の頁 (khi20111120IMG_1163)。
1005	11/19	23:43～ 23:44	唱盤王大 歌	正面祭壇右 端	盤喜古 受礼者	盤喜古が鶏を1人ずつ食べさせる。 禁欲が解け盤明古は奥さんを抱き上げる。笑いを誘う。		禁欲(17日夜から精進、奥さんとの会話の禁止、台所に入れない、同衾できない)
1006	11/19	23:46	唱盤王大 歌	正面祭壇右 端	盤喜古	祖先壇に献酒。		
1007	11/19	23:47	唱盤王大 歌	正面祭壇右 端	盤喜古	紙銭を燃やす。		
1008	11/19	23:59～ 00:00	唱盤王大 歌	正面祭壇右 端	盤喜古	ト具で占う。		
1009	11/20	00:02～ 00:16	唱盤王大 歌	台所	馮基華	鶏を下げ、料理する。		
1011	11/20	01:16～ 01:38	唱盤王大 歌	庁堂	全員	夜食。		
1012	11/20	03:02	唱盤王大 歌	正面祭壇右 側	歌娘達 趙金付	3人は祭壇に向かって立つ。 馮友妹はテキストを見つつ歌う。 趙金付は鈴を鳴らし、テキストを読誦。	B-2 Z-19	歌は B-2 (IMG_0590B-02)「四断完了 又接鈴歌語」。女性は謙虚。 鈴は女性がならした後、趙金付が受け取る。 読誦は Z-19 (khi20111117IMG_0942)「接鈴用」。「正過連州唐王聖帝心中之意」とあり、Z-19 (khi20111117IMG_0886)「坐席三幃」に続く (khi20111117IMG_0887)「不邁連州～心中之意」と正反対の表現となり、女性の歌を評する内容。男性が女性を応援する内容。

番号	日付	時間	小儀礼名	場所(小部屋)	行動主	行動	読誦テキスト	備考
1013	11/20	04:24	唱盤王大 歌	庁堂中央机	歌娘達 馮友妹	馮友妹はテキストを見つつ歌い続ける。		
1014	11/20	04:24	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机	師父達 盤保古 趙橋古	盤保古が趙橋古と問答を行なう。テキストを見てフ シをつけて読誦。 1人が歌い、2人目が続ける。	Z-19	「高机織布布烟烟藏藏〜」の頁 (khi20111117IMG_0935)。
1015	11/20	04:40～ 04:42	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机	師父達 盤保古 趙橋古	テキストを読誦。 2冊の本を開く。	Z-19	「四段荷葉孟」の頁 (khi20111117IMG_0939)。 調子を合わせる「拉里連郎…」
1016	11/20	04:42	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机	師父達 盤保古 趙橋古	テキストを読誦。	Z-19	「中葉過岸何帰海岸〜」の頁 (khi20111117IMG_0940)。
1206	11/20	04:42?			師父達	『大歌書一本下冊』を取り出すために、問答を行な う。	Z-19	問答は (khi20111117IMG_0941)「何楽吟」。(khi20111117IMG_0942) 問 何楽嶺 何楽生子何楽源何楽山 人話石榴何生子何楽生子出何源出何山 答 石榴嶺 石榴生子石榴源石榴山 人話石榴要生子 石榴生子出深源 要生子 石榴生子出深山 源山部分を旗ノ埵、排ノ房、河ノ洞、雛ノ埵、沟ノ田、京ノ州、郷ノ村、街ノ 院、楼ノ門、庁ノ房、京ノ棹、庵ノ書順に置き換え、さらに簡書から源山へ とさかのぼって置き換え、歌書を歌の場に取り出すとされる。 この問答を行なうことで、下冊を歌の場に取り出すとされる。 時間は便宜上入れられてあるだけで正しいものではない。 1人が歌い、2人目が続ける場合、同時に歌う場合、歌う部分が 違う場合がある。
1017	11/20	04:50	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机	師父達 盤保古 趙橋古 盤喜古	盤喜古はテキストを見ずにそらでフシをつけて唱 える。		
1018	11/20	04:55～ 04:56	唱盤王大 歌	庁堂中央机	歌娘達 馮友妹 男性歌手	男性歌手はテキストを読誦。 馮友妹はテキストを歌う。	Z-17 Z-29	男性は「初到門楼不到屋 望郎〜」の頁 Z-17 (kmo20111117IMG_0710)。 馮友妹は「初到郷一郷不認二郷人」の頁 Z-29 (khi20111120IMG_1166)。
1019	11/20	05:02～ 05:03	唱盤王大 歌	庁堂中央机	歌娘達 馮友妹 男性歌手	男性はテキストを読誦。 馮友妹はテキストを歌う。	Z-17 Z-29	男性は「架得車行停車扇轉〜」の頁 Z-17 (kmo20111117IMG_0711)。 馮友妹は「人話郎村歌堂到〜」の頁 Z-29 (khi20111120IMG_1167)。
1020	11/20	05:11	唱盤王大 歌	庁堂中央机	歌娘達 馮友妹 男性歌手	馮友妹はテキストを歌う。	Z-29	「今朝弟来若不来〜」の頁 (khi20111120IMG_1168)。
1021	11/20	05:16	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机	師父達 盤保古	盤喜古はテキストを読誦。	Z-20	「新新愛入桃源洞〜」の頁。 下冊に入る。(khi20111117IMG_0947)「新新愛入桃源洞」から (khi20111117IMG_0948)「架起鉄橋萬丈高」まで問答形式。 「新新愛入桃源洞〜」の頁。
1022	11/20	05:18	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机	師父達 盤保古 趙橋古	テキストを読誦。	Z-20	「新新愛入桃源洞〜」の頁。
1023	11/20	05:21～ 05:22	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机	師父達 盤保古 趙橋古	テキストを読誦。	Z-20	「二人相伴入桃源〜」の頁 (khi20111117IMG_0948)。

番号	日付	時間	小儀礼名	場所(小項目)	行動主	行動	読誦テキスト	備考
1025	11/20	05:29	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机	師父達 盤保古 趙橋古	テキストを読誦。 皆寝込む。	Z-20	「屋底又連梅火杆～」の頁(khi20111117IMG_0950)。
1024	11/20	05:58	唱盤王大 歌	庁堂中央机	歌娘達			
1026	11/20	06:01	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机	師父達 盤保古 趙橋古	テキストを読誦。	Z-20	「鄧是几般鄧塘中再有几般魚行」の頁(khi20111117IMG_0959)。 ※写真のピントが合っていない
1027	11/20	06:18	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机	師父達 盤保古 趙金付 趙橋古	趙金付と盤保古が順に2人ともそらでもそらでアソをつけて唱える。	Z-20	テキスト「又何物段」の頁(khi20111117IMG_0960)が開かれている。唱えているのがこの内容とは限らない? 「又何物段」も問答形式。 問答の例 問 何物変 变成何様得娘連 得娘变成何様子 上娘頭上作横眠 何様子上娘頭上作横眠 答 容易变 变成一様得娘愛 变成二様得娘連 容易变 变成二様得娘連 得娘变成銀梳子 上娘頭上作横眠 銀梳子 上娘頭上作横眠 女性の頭から足元まで身に着ける物に着ける物に男性が変身する内容。 時間は便宜上のもので正しくない。 「又第五箇花子曲」の頁 Z-20 (khi20111117IMG_0962)。
1028	11/20	06:50	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机	師父達 趙橋古 盤保古	テキストを読誦。	Z-20	
1029	11/20	06:55	唱盤王大 歌	祖先壇	馮基華	線香に火を点ける。		
1030	11/20	07:05	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机	師父達 趙金付 趙橋古	テキストを読誦。	Z-20	「北京為城四十里～」の頁(khi20111117IMG_0967)。 それぞれが頁の左右を担当している。
1031	11/20	07:18～ 07:27	唱盤王大 歌	庁堂中央机	歌娘達 馮友妹	テキストを歌う。	Z-29	「娘要帰不怕〇四路〇下綱行〇」の頁(khi20111120IMG_1171)。
1032	11/20	07:20	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机	師父達 趙金付 趙橋古	テキストを読誦。	Z-20	「草竹織夢為過外～」の頁(khi20111117IMG_0972)。
1033	11/20	07:33～ 07:38	唱盤王大 歌	庁堂中央机	歌娘達 馮友妹	テキストを歌う。	Z-29	「扁去也装起大江水歩〇〔辺の力の両脇に点〕～」の頁(khi20111120IMG_1172)。 8時前に下ろが叫ばれる。
1034	11/20	07:57	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机	師父達 趙金付	テキストを読誦。 8時頃テキストを閉じる。	Z-20	「第六飛江南曲一段」の頁(khi20111117IMG_0987)。 (khi20111117IMG_0991) 1行目「女難」で止まる。
1035	11/20	09:56	唱盤王大 歌	正面祭壇前	盤喜古	紅衣を着、左手に玉簡、右手に鈴をもって唱えごと。 請願		

番号	日付	時間	小儀礼名	場所(小頭)	行動主	行動	読誦テキスト	備考
1036	11/20	09:58	唱盤王大 歌	祖先壇	馮基華	線香を供える。		
1037	11/20	10:02	唱盤王大 歌	正面祭壇前	盤喜古	家先単を出して読む。ト具で占う。		
1038	11/20	10:03	唱盤王大 歌	正面祭壇前	盤喜古 馮基華	刀を盆に載せてもって来る。灯明に火を点す。 盤喜古は左手で家先単の上に鈴を伏せてもち、右手に玉簡をもって唱える。 灯明を祖先壇に載せる。		
1039	11/20	10:04	唱盤王大 歌	祖先壇	馮基華	酒かめから酒を出し、祭壇上の碗に注ぐ。		
1040	11/20	10:14～ 10:15	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机左側	盤喜古	家先単を見つつ唱える。		
1041	11/20	10:16～ 10:35	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机左側	盤喜古	さらにかめから酒を出して碗に注ぐ。 盤喜古は紙銭を床に落とす。唱えごと。 厨官は盤喜古が取りやすいように紙銭を開いて手伝う。		紙銭は30扛。愿を引き出し、箱を開けるための銭。連州・行平・伏霊・伏江・厨司・家先に対して献ずる。
1042	11/20	10:37	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机右側	馮基華	盤喜古は家先単を読みつつ紙銭を床に落とす。 厨官は盤喜古が取りやすいように紙銭を開いて手伝う。		
1043	11/20	10:38～ 10:39	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机右側	盤喜古 馮基華	馮基華は家先壇上の竹筒を下ろし、中から紙包みを出して鈴に縛り付ける。鈴を祭壇上に置く。 盤喜古は家先単を見つつ、紙銭を床に落とし唱える。		紙包みは盤王愿の紙。
1044	11/20	10:44	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机右側	馮基華 盤喜古	馮基華は紙銭を広げて盤喜古に渡す。 盤喜古は家先単を見つつ唱えごと。床に紙銭を落とす。		
1046	11/20	10:45～ 10:46	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机右側	馮基華 盤喜古	盤喜古は紙銭を祭壇右側の旗の山に2回置く。 手前に紙銭を重ね、ずっと唱える。手前に積んだ紙銭は右側の旗の山の下に置く。ト具で占う。		
1048	11/20	10:47	唱盤王大 歌	正面祭壇前	盤喜古	家先単を読む。ト具で占う。		
1047	11/20	10:48～ 10:50	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机右側	盤喜古	フシをつけてテキストを読む。	Z-26 Z-15	「出愿歌書」の頁。 Z-15 (khi2011117IMG_0734)「出愿歌詞」から (khi20111117IMG_0735, khi20111117IMG_0736, khi20111117IMG_0737, khi20111117IMG_0738, khi20111117IMG_0739)「利雞利鴨利神○連」までソーズオン。Z-26 (kmo20111119IMG_2611)「出愿歌書」と若干異なる。 鈴が馮友妹に渡される。
1051	11/20	10:50～ 10:51	唱盤王大 歌	戸外	歌娘3人 馮友妹 趙桂仔 趙子清	歌娘3人は趙桂仔・趙子清と対面して並ぶ。 馮友妹はテキストをもって歌う。		
1052	11/20	10:51	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机	趙金付 盤喜古	趙金付は盤喜古を引き継ぎ、座ってフシをつけてテキストを読む。 盤喜古は机の右側に立ち、紙銭をもって唱えごと。	Z-26	「出愿歌書」の頁。 刀を手元に置いている。

番号	日付	時間	小儀礼名	場所(小項目)	行動主	行動	読誦テキスト	備考
1049	11/20	10:52	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机	趙金付	フシをつけてテキストを読誦。	Z-26 Z-20	机上に「又復願歌」の頁 Z-26 (kmo20111119IMG_2612) が開かれたテキスト トが置かれている。 大歌本テキスト最終行「女難」2行目「見木大哥先兒木～」の頁。 大歌本テキスト最終行「女難」2行目「見木大哥先兒木～」の頁。
1050	11/20	10:53～ 10:54	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机	趙金付 盤喜古 馮基華	趙金付はフシをつけてテキストを読誦。 盤喜古はト具で占った後祭壇上の内臓を取り出し、 盆の上に置く。 趙金付も手伝って内臓を盆に載せる。その後大歌を 続ける。 厨官は刀を内臓の下に入れもち出す。 盤喜古は唱えごと。ト具で占う。紅衣を脱ぐ。	Z-20	内臓は、盤王に供えた心臓・肝臓・胆臓・胃・腸・肺等を30枚で買うの意。 読誦は (khi20111117IMG_0991)「見木大哥先兒木」から (khi20111117IMG_0999)「又第七韵六曲」前まで。 (khi20111117IMG_0996)「神去也裝果大船水步道」の内容通り、錢・内臓・ 鈴・碗・筷子を船に積み込む。
1053	11/20	10:56～ 10:57	唱盤王大 歌	戸外	歌娘3人 趙桂仔 趙子清 馮友妹 男性	歌娘3人は趙桂仔・趙子清と対面して並ぶ。 馮友妹と男性はテキストを見つつ歌う。	不明	男性のテキストは右頁最終行上段「当初愿断桃生子」の頁。
1054	11/20	10:57	唱盤王大 歌	厨房	馮基華	心臓を切る。内臓を切る。		
1056	11/20	10:59	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机	趙金付	テキストを読誦。	Z-20	大歌テキスト「踏上船頭打相令船頭尾月初生○園」の頁 (khi20111117IMG_0994)。
1055	11/20	11:00	唱盤王大 歌	戸外	馮友妹	歌い続ける。		
1057	11/20	11:01～ 11:02	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机	趙金付 盤保古	盤保古はテキストを見つつフシをつけて読誦。 趙金付はそらでフシをつけて読誦。	Z-20	読誦は2人同時。 「南蛇不是南蛇嫁～」の頁 (khi20111117IMG_0996)。
1058	11/20	11:06～ 11:10	唱盤王大 歌	戸外	馮友妹	テキストを歌う。 対面して並ぶ。	Z-29	右頁1行目「遊愿到～」の頁、左頁2行目上段「天光落日歌堂歌」の頁 (khi201111120IMG_1185)。
1059	11/20	11:10	唱盤王大 歌	戸外	歌娘 趙子清 趙桂仔			
1060	11/20	11:14	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机	盤喜古 趙金付 馮基華	趙金付は大歌を続ける。 馮基華は香炉に木くずを加える。 盤喜古はそらで唱える。		
1061	11/20	11:15	唱盤王大 歌	戸外	馮友妹	この後、鈴の紙を1部ちぎった。 対面して並ぶ。	Z-29	「不唱了 六○花開伏○収交～」の頁 (khi20111120IMG_1186)。 紙をちぎったのは、許願と還愿の一部。
1062	11/20	11:16	唱盤王大 歌	戸外	歌娘 趙子清 趙桂仔			
1063	11/20	11:17	唱盤王大 歌	戸外～ 庁堂	歌娘等	庁堂に戻る。		
1065	11/20	11:17	唱盤王大 歌	庁堂	歌娘等	正面を向いて並ぶ。 馮友妹はテキストを見つつ歌を続ける。		
1064	11/20	11:18～ 11:20	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机	趙金付 盤喜古 盤保古	盤喜古は鈴をもつてト具で占う。テキストを手に もつてフシをつけて読誦。 趙金付はフシをつけて大歌テキストを読誦。 盤保古も同時進行でそらで歌う。	Z-26 Z-20	盤喜古は「又復願歌」の頁 Z-26 (kmo20111119IMG_2612)。 趙金付は「濕得殿前自得知今朝行過五州寨」の頁 Z-20 (khi20111117IMG_1002)。

番号	日付	時間	小儀式名	場所 (小頭目)	行動主	行動	読誦テキスト	備考
1066	11/20	11:22～ 11:23	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机	趙金付 盤喜古 盤保古	盤喜古はテキストを読誦。 馮友妹はテキストを開いて歌う。	Z-26 Z-20	「復〇〇了 大王姉妹且寛心遊」の頁 Z-26 (kmo20111119IMG_2615)「拜王 歌」の前まで。 読誦は Z-20 (khi20111117IMG_1004) 真ん中「並六曲」「到九郎到九」から (khi20111117IMG_1010)「一般生下送神婦」まで。
1067	11/20	11:24	唱盤王大 歌	庁堂	歌娘 馮友妹	歌娘は着席。 馮友妹はテキストを開いて歌う。	Z-29	「帰去也」の頁 (khi20111120IMG_1173) ?
1068	11/20	11:25	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机	趙金付	テキストを読誦。	Z-20	「三貫百銭使会了 共留一文銅古銭」の頁 (khi20111117IMG_1008) ?
1069	11/20	11:26	唱盤王大 歌	—	—	—	—	鈴は祭壇上に戻されている。
1070	11/20	11:27	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机	趙金付 盤保古	2人は1頁を分けてフシをつけてテキストを読誦。	Z-20	左頁2行目「歌堂也…」の頁 (khi20111117IMG_1011)。
1071	11/20	11:27	唱盤王大 歌	庁堂	馮友妹 歌娘	テキストを歌う。	Z-29	「帰去也」の頁。 歌娘は着席したまま。
1072	11/20	11:28	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机	盤保古 趙金付	テキストを読誦。	Z-20	「歌堂淋淋専是散白米排非發出堂門」の頁 (khi20111117IMG_1012)。
1073	11/20	11:31	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机	趙金付	テキストを読誦。	Z-20	「改得福江盤王聖帝神婦去～」の頁 (khi20111117IMG_1013)。
1074	11/20	11:31	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机	盤保古 趙金付	テキストを読誦。	Z-20	「送神婦去福江廟前車隊轉雙双～」の頁 (khi20111117IMG_1014)。
1075	11/20	11:32	唱盤王大 歌	庁堂	馮友妹	テキストを歌う。	Z-29	「帰去也収什歌詞帰本〇〇～」の頁 (khi20111120IMG_1173)。
1076	11/20	11:33	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机	盤保古 趙金付	テキストを読誦。	Z-20	「三更半夜人来請不曾把火去連双」の頁 (khi20111117IMG_1015)。
1077	11/20	11:34	唱盤王大 歌	庁堂	馮友妹	テキストを歌う。	Z-29	左頁1行目上段「帰去也」の頁 (khi20111120IMG_1172)、2行目上段「缸頭開 傘逢々魁々轉」の頁。
1078	11/20	11:35	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机	盤保古 趙金付	テキストを開く。	Z-20	「不唱了解開船覽放船流行～」の頁 (khi20111117IMG_1016)。
1079	11/20	11:36～ 11:38	唱盤王大 歌	正面祭壇前 増設机	趙金付 盤保古 趙金付	テキストを1頁戻して歌う。	Z-20	「三更半夜人来請不曾把火去連双」の頁。 「不唱了」の頁は歌娘の歌を待って歌う。 (khi20111117IMG_1016)「開籠放鷄滿天飛行」に追加する送盤王走の内容。 十(現実の月が入る)月行遊々 梅花杵上結花球 行来歌堂齊作笑 共在歌詞各自収 1行目上段「帰去也」、2行目上段「取什歌詞帰本〇〇」の頁。
1080	11/20	11:37	唱盤王大 歌	庁堂	馮友妹	テキストを歌う。	Z-29	—
1081	11/20	11:39	唱盤王大 歌	庁堂	全員	片付けを始める。	—	—
1082	11/20	11:42	唱盤王大 歌	庁堂	馮基華	厨官は心臓の入った碗を膳に載せて運ぶ。増設机の 上に酒壺・箸と共に並べる。	—	ダーリン(ヤオ語 下命令の意味か?)
1083	11/20	11:44	唱盤王大 歌/退席 (下席)	正面祭壇前 増設机	趙子清	酒を注ぐ。	—	—

番号	日付	時間	小儀乳名	場所 (小頭目)	行動主	行動	読誦テキスト	備考
1084	11/20	11:45～ 11:46	唱盤王大 歌/打令 放船	正面祭壇前 増設机	趙金付 盤保古	趙金付と盤保古は席に着く。ト具を鳴らし、鈴に立って掛ける。酒盃を倒して酒をこぼす。酒盃の酒を床にこぼす。 唱える。	不明 C-5	趙金付の手に「還良願答家主声還良願問何人席上得分明答大王席～」の頁を開いたテキストが置かれている。 ダーリン (ヤオ語) 唱えるのは (ghi20140812IMG_1953, ghi20140812IMG_1954) の内容。 「還良願答家主声還良願問何人席上得分明答大王席～」の頁。
1085	11/20	11:46	唱盤王大 歌/打令 放船	正面祭壇前 増設机	趙金付 盤保古 趙橋古 趙桂仔 趙子清	趙金付はテキストを読誦。	不明	
1086	11/20	11:47	唱盤王大 歌/打令 放船	正面祭壇前 増設机	趙金付 盤保古 趙橋古 趙桂仔 趙子清	趙金付は早口でテキストを読誦。	不明	「第一大男出来騎龍第二男出来騎百馬第三大男～」の頁。
1087	11/20	11:47	唱盤王大 歌/ 打令放船	正面祭壇前 増設机	趙金付 盤保古 趙橋古 趙桂仔 趙子清	趙金付は盃を倒して酒をこぼす。		
1088	11/20	11:48	唱盤王大 歌/打令 放船	正面祭壇前 増設机	趙金付 盤保古 趙橋古 趙桂仔 趙子清	趙金付はテキストの頁を戻して読誦。	不明	「還良願答家主声還良願問何人席上得分明答大王席～」の頁。
1089	11/20	11:48	唱盤王大 歌/打令 放船	正面祭壇前 増設机	趙金付 盤保古 趙橋古 趙桂仔 趙子清	趙金付はテキストを読誦。	不明	「第一大男出来騎龍第二男出来騎百馬第三大男～」の頁。
1090	11/20	11:49	唱盤王大 歌/打令 放船	正面祭壇前 増設机	趙金付 盤保古 趙橋古 趙桂仔 趙子清	趙金付は盃を戻し、弟子達の盃を倒させる。		
1091	11/20	11:50～ 11:51	唱盤王大 歌/解鏈 放船	正面祭壇前 増設机	趙金付 盤保古 趙橋古 趙桂仔 趙子清	趙金付はテキストを早口で読誦。盃の底を打ち、倒す。弟子は盃を戻す。 趙金付と盤保古は鈴をト具で鳴らす。	不明 Z-20 C-5	「又打采令」の頁。 Z-20 (khi2011117IMG_1016) 「解開船檣放船去」の内容。 唱えるのは C-5 (ghi20140812IMG_1953, ghi20140812IMG_1954) の内容。 容。 「帶下廣州○洞買得大刀利斧 帶扁家里進山倒得一条〔草+南〕木 大砍々小砍々 大斷了 小斷了 大哥量得一丈二 小哥哥量得四丈長 “叮冬疏 叮冬呵” 吓得走上岸吓得鯉魚走上灘子孫万代出秀才」

番号	日付	時間	小儀礼名	場所(小頭)	行動主	行動	読誦テキスト	備考
1092	11/20	11:52	唱盤王大 歌/解鏈 放船	正面祭壇前 増設机	趙金付 盤保古 趙橋古 趙桂仔 趙子清 全員	テキストを誦誦。 盃の底を打って音を鳴らして倒し、元に戻す。鈴を ト具で鳴らす。 退席	不明 Z-15	「床脚貼床○兄系代出照明～」の頁。 (khi20111117IMG_0752)「酒は何人酒 何人声々還良愿 酒 是大王酒 棹是大王棹 家主声々還良愿 何人粹上得分明 大王棹得分明」 問答形式。片付けることを盤王に知らせる内容。
1093	11/20	12:44		庁堂等	趙子清	お客も含めて会食。		
1094	11/20	14:08	送王	相先壇	馮基華	線香を供える。		
1095	11/20	14:09	送王	正面祭壇前	盤保古	紅衣を着る。		
1096	11/20	14:12	送王	正面祭壇前	盤保古	左手に玉簡、右手に鈴をもって礼。鈴を振って唱え ごと。		
1097	11/20	14:15	送王	正面祭壇前	盤保古	家先単を見ながら鈴を振りつつ名を唱える。		
1098	11/20	14:17	送王	入口脇	嚙子方	チャルメラ等を鳴らす。		
1099	11/20	14:20	送王	正面祭壇前	盤保古	家先単を見ながら鈴を振りつつ唱える。 請王		連州・行平・伏霊・伏江・厨師・家先を招く。請王声音
1100	11/20	14:22	送王	正面祭壇前	盤保古	しゃがんで左手に鈴をもち、右手でト具で占う。		
1101	11/20	14:24	送王	正面祭壇前	盤保古	家先単を見ながら鈴を振りつつ唱える。		
1103	11/20	14:25	送王	正面祭壇前	盤保古	しゃがんで左手に鈴をもち、右手でト具で占う。		
1102	11/20	14:26	送王	正面祭壇前	盤保古	祭壇上の盃に献酒。酒を注ぎつつ家先単を見ながら 唱えごと。		献酒は師父のため。
1104	11/20	14:28	送王	正面祭壇前	盤保古	しゃがんでト具で占う。		
1105	11/20	14:28	送王	正面祭壇前	盤保古	唱えごとをしなから、かめから酒をすくい、右から 順に、左から順に、また左から順に、そして右から 順に酒を碗に注ぐ。		献酒は盤王のため。
1106	11/20	14:30	送王	正面祭壇前	盤保古	しゃがんでト具で占う。		ト具での占いはお金を呼び出すため。陽卦は棹過來、巽卦は交了、陰卦は可以 了を表わす。
1107	11/20	14:31	送王	正面祭壇前 左側	盤保古	いすに腰掛けて紙銭を積む。唱えごと。		
1108	11/20	14:34～ 14:35	送王	正面祭壇前 左側	盤保古	家先単を床に置き、それを見ながら紙銭を重ねる。 唱えごと。ト具で占う。		
1109	11/20	14:36～ 14:37	送王	正面祭壇前 左側	盤保古	さらに紙銭を出してフシをつけて唱えつつ、家先単 を見ながら紙銭を積む。		
1110	11/20	14:38～ 14:52	送王	正面祭壇前 左側	趙金付 盤保古	盤保古は家先単を見ながら紙銭を積む。フシをつけ て唱える。ト具で占う。 趙金付はしゃがんで紙銭を積む。唱える。ト具で占 う。		ト具での占いはお金が足りたかを占う。陽ト具での占いは足りた、陰ト具で の占いは足りない、巽ト具での占いは足りたの意。 以前の願掛け時に約束した金額に従って外の神々にも“做証”の銭を払う。

番号	日付	時間	小儀礼名	場所 (小項目)	行動主	行動	読誦テキスト	備考
1111	11/20	14:54～ 15:02	送王 拆愿	正面祭壇前	趙金付 盤保古	趙金付は立って祭壇から鈴を取り、鈴に付けられた紙を外す。また家先単の1頁目を引きちぎる。盤保古の横で唱えつつ、ト具で占う。盤保古はひざまずき、紙銭の上で家先単の1頁目願掛けの真を細かくちぎる。さらに赤糸の結ばれた紙も糸を外してちぎる。ちぎった紙をさらに玉簪の上で鈴を用いてすりつぶす。紙銭に包んで紙銭の山に置く。ト具で占う。	家先単の1頁目には願文が書かれているので引きちぎられる。拆愿ト具での占いは愿を引き出せたか見る。陽卦で可、巽卦で交了を意味する。做証の神名 上壇兵馬、下壇兵將、福江、司命灶王、住宅土地、竜神、家先、將王、仙娘總壇、太尉、海嶺、三元將軍、靈宝、元始、道徳、三清、玉皇、聖主、張天師、李天師、監齋、十殿、天府、地府水府、玉靈官、馬元帥、上路天兵、下落地將、陰陽師父、連州唐王、行平十二遊師、伏靈、伏江、五旗兵馬、天斗星君、七星姐妹、屋〔木+刃+木〕童子、把門將軍。ここからは門外。外里衆神、本方地主、本部廟王、把界地主、欄路大王、大位元魁、山魁、水魁、長郎元魁、白公元魁、高漢二郎、土地公公、土地婆婆、求財八宝衆官、門外的梅山神、金剛大將、過住神通。すべて30扛ずつ。 許愿童子、把簿郎君、打箱童子、消簿郎君。 唱えごとは「求財三十扛、買財三十扛、所保三十扛、収禁三十扛、冷脚三十扛、退進三十扛、說前三十扛、說後三十扛」。 請師、請女(手伝つてくれた善女)、請厨、請男(善男)にも三十扛。 以前に儀礼をした人や霊に対しても足りていないといけませんので貼る(補足)。 貼銭三十扛、貼花三十扛、貼緞三十扛、貼水三十扛、貼燈三十扛、貼香三十扛、貼酒三十扛、貼煙三十扛、貼尾三十扛、貼内臟すべて三十扛、貼頭三十扛、貼血三十扛、貼腕三十扛、貼米三十扛、貼鼓三十扛、貼鑼三十扛、貼鈴三十扛、貼板三十扛、貼笛三十扛、貼卦三十扛、貼玉簡三十扛、貼粽三十扛、貼信三十扛、貼劍三十扛、貼言貼語三十扛、許多還少三十扛、許多還多三十扛、許愿不清三十扛、許愿不齊三十扛、許愿不齊三十扛、還愿不清三十扛、還愿不明三十扛、還愿不齊三十扛。 その他 許愿童子、磨墨仙人、伸愿童子、把簿郎君にも三十扛、師父達の名前を呼んで三十扛、外地的三十扛、前輩先輩の師父、前代後代各位老人老位師父、その土地の知り合いの師父、本境先輩師父、歌娘を以前務めていた馮采軍さんの母のためにも、男女分けず師父として三十扛を奉納。名を知っている人は名を呼ぶ。 “前代後代帮言帮語”儀礼時に助けてくれると考えている人々。 “怨師、怨厨、怨男(3人の未婚男性)、怨女(3人の未婚女性)三十扛”怨(ヤオ語 スウ)は思いやり、ご苦労さま、感謝の意味、思いやり金。 拆愿は、人口家財を拆するのではなく、盤王良愿を拆すること。陰界にも証書があるもので1項目ごとに陰界から引き出し、陰界で引きちぎること、陰界陽界の両方の証書を消去する。願掛けをした儀礼、献奉金、物等すべてお返ししたの意味。	
1112	11/20	15:02～ 15:06	送王	正面祭壇前	趙金付 盤保古	趙金付は盤王(印)を外して置く。 趙金付と盤保古は旗・紅羅・箸等を紙銭の上に載せ、さらに塩信(盤王)も載せる。 盤保古が上から米を撒く。火をかける。		

番号	日付	時間	小儀礼名	場所 (小頭)	行動主	行動	読誦テキスト	備考
1114	11/20	15:06	送王	庁堂中央	歌娘達	馮友妹はテキストを見つつ歌う。 3人の女性は祭壇の方を向いて並ぶ。		送盤王の意の歌
1113	11/20	15:06～ 15:08	送王	正面祭壇前	盤保古 趙金付	盤保古は祭壇前に立って唱える。かめから酒をくみ、祭壇上の碗に数回注ぐ。 趙金付は祭壇前で外に向かって立ち、唱えごと。ト具で占う。		“求一次・保一次・祭一次”とされる。 盤王に人丁、五穀、猪財、金銀を求め保ってもらい、瘟神(天瘟・地瘟・麻瘟)、災殃(水災・火災等)、傷神(口頭・鼻頭・脚等)、耗(天耗・地耗)、七精八怪(藤精・樹精・木精・鳴精)を収禁してもらおう。ト具での占いは陰で可。做証人がすべて助けてくれ求め保も収禁もできる。
1115	11/20	15:07	送王	庁堂中央	歌娘達	3人の女性は庁堂左側で祭壇に向かって横に並ぶ。 馮友妹はテキストを見つつ歌う。		
1116	11/20	15:08	送王	庁堂中央	馮友妹	馮友妹はテキストを見つつ歌う。	Z-29	「送王歌化紙用」の頁 (khi20111120IMG_1186)。
1117	11/20	15:08	送王	庁堂内	盤保古 趙金付 馮友妹 歌娘達	盤保古は正面祭壇に向かってかめの酒を献酒。 趙金付は祭壇前で外を向きフシをつけてそらで唱える。 馮友妹は祭壇の方を向いてテキストを見つつ歌う。 歌娘は並ぶ。		献酒は盤王が酒を飲み去る。
1118	11/20	15:09	送王	正面祭壇前	盤保古	かめの酒を献酒。		
1119	11/20	15:10	送王	庁堂中央	馮友妹	テキストを歌う。	Z-29	「替板甲上送神去～」の頁 (khi20111120IMG_1188)。
1120	11/20	15:10	送王	庁堂内	盤保古 趙金付 馮友妹 歌娘達	盤保古は祭壇前でしゃがみ、ト具で占った後、酒かめに封をする。 趙金付は祭壇前で立ち、そらで唱える。 馮友妹は庁堂中央でテキストをもつて歌う。 歌娘は変わらず並ぶ。		
1121	11/20	15:11	送王	正面祭壇前	盤保古	祭壇前に立って唱える。		
1122	11/20	15:11	送王	正面祭壇前	趙金付	しゃがんでト具で占う。唱える。		
1123	11/20	15:12	送王	庁堂中央	盤保古	御櫃で紙銭の山をつつき、燃やす。		紙銭が燃やされ届けられる。
1124	11/20	15:13	送王	庁堂中央	馮友妹	テキストを歌う。	Z-29	「替板甲上送神去～」の頁。 哀愁のある響きの歌で神を送る。
1125	11/20	15:13～ 15:21	送王	庁堂	盤保古 趙金付 馮友妹 歌娘達	盤保古は祭壇前で御櫃をもち、紙銭が燃えるのを眺めつつ唱える。 趙金付は祭壇横に座り、唱える。ト具で占う。 馮友妹は庁堂中央でテキストをもつて歌う。 歌娘は居並ぶ。		神前すべてあげ、いくら献じたのか述べ、神のグループごとにト具の占いで領銭収銭したか確かめるが、巽卦で御走(取め去った)とされる。
1126	11/20	15:14	送王	庁堂	馮友妹	テキストを歌う。	Z-29	左頁1行目上段「送神去」2行目上段「送神帰去神洲郷廟」の頁 (khi20111120IMG_1188)。
1127	11/20	15:23	送王	庁堂	馮友妹 歌娘達	テキストを抱える。終了。 中央の歌娘はかぶり物を取る。		
1128	11/20	15:24～ 15:25	送王	正面祭壇前	盤保古 趙金付	盤保古は酒かめから献酒。祭壇上の碗の米を撒く。 趙金付は唱えごとを続ける。		米を撒くのは送走(送り去る)意味。 唱えごとは“送他們走、扶帰(フウグイ)”見送るの意味。 送走を表わす。
1129	11/20	15:25～ 15:27	送王	正面祭壇前 ～戸外	盤保古	祭壇上の香炉と水盃をもつて戸外へ出る。家の前の戸外で碗を伏せて灰を出し、線香で符を描く。唱えごと。		

招五穀兵について

—中国湖南省瑶族（過山瑶）の還家願儀礼から—

國學院大學教授 ヤオ族文化研究所プロジェクト研究員
浅野 春二

はじめに

ヤオ族文化研究所では、2011年11月16日から21日（旧暦10月21日から26日）に、中国湖南省永州市藍山県所城郷幼江村の盤榮富氏宅で行われた「還家願」儀礼の現地調査を実施した。その後、2013年8月2日から9日に、藍山県から儀礼の実施に関わった3名を招いて、神奈川大学において補足調査を行った⁽¹⁾。その際には、2011年に撮影したビデオ映像や写真などを用いつつ、当日の儀礼の細部についていろいろと質問をし、答えてもらった。そうして収集した資料の中から、ここでは、「還家願」儀礼の科目の一つである「招五穀（谷）兵」を取り上げる。現在も調査は継続中であり、資料もまだ十分ではないが、現時点での見通しや今後の課題について述べたいと思う。

一、「招五穀兵」儀礼の細目について

(1)、『藍山県瑶族传统文化田野調査』

藍山県の過山系瑶族（ユーミエン）の传统文化について、基本となる研究成果は、張勁松氏、趙群氏、馮榮軍氏の『藍山県瑶族传统文化田野調査』（岳麓書社、2002年。以下Aの記号で示す場合がある）である。「還家願」儀礼については、その第三章⁽²⁾にまとめられている。「招五穀兵」については、「7」として97ページから99ページにかけて記されている。これによれば、「招五穀兵」は「招兵」とも称され、五穀豊穰を祈る儀礼とされる。この儀礼を行う「招兵師」を担当できるのは、度戒を経た「三戒弟子」であり、「招兵師」は、「衆神」と「宗祖家先」に啓告して（儀礼を行うことを伝えて）から儀礼を開始する（97ページ）。儀礼の内容については、(1)から(8)までの細目に整理して示している（98～99ページ）。ここでは、A-1からA-8の記号を付して挙げる。

- A-1 (1) 請禾魂
- A-2 (2) 昇禾米
- A-3 (3) 差兵招禾（開天門を含む）
- A-4 (4) 勅糧
- A-5 (5) 勅幡
- A-6 (6) 賀兵
- A-7 (7) 踢兵帰壇
- A-8 (8) 閉天門

(2)、『中国民間祭祀芸能の研究』

2006年に藍山県匯源瑶族郷湘藍村の馮家で行われた「還家願」儀礼については、廣田律子氏の『中国民間祭祀芸能の研究』（風響社、2011年。以下Bの記号で示す場合がある）第三部、第二章「中国湖南省ヤオ族儀礼の道教的性格—湖南省藍山県馮家実施の還家願儀礼」に報告されている。その第二節「祭祀儀礼の内容」の「十五」が

「招兵（招五穀（谷）魂）」であり、（一）から（六）までの細目に儀礼内容が整理されている（326～329ページ）。ここではB-1からB-6の記号を付して示す。

- B-1 （一）立祭台・樹五穀（谷）幡
- B-2 （二）昇五穀（谷）
- B-3 （三）開天門・祭五穀（谷）魂・祭七星姐妹
- B-4 （四）接五穀（谷）
- B-5 （五）樹五穀（谷）幡
- B-6 （六）上兵

（3）、「還家願儀礼程序」

2011年に調査した「還家願」儀礼については、廣田律子氏作成の「還家願儀礼程序」（神奈川県立歴史民俗資料館報告第14集『中国湖南省藍山県ヤオ族儀礼文献に関する報告Ⅱ』神奈川県立歴史民俗資料館研究科、2012年3月。以下Cの記号で示す場合がある。また「程序」と略記する場合がある）に、儀礼全体のプログラムと儀礼内容に関する基本的な情報がまとめられている。この「程序」表の番号で339⁽³⁾から502が「招兵願」（招五穀兵）である（56～67ページ）。この時の儀礼は、盤榮富氏宅の中に設けられた祭壇（「祭壇正面」）と戸口の外（向かって左側）に設けられた祭壇（「戸外入口左側祭壇」）、および戸外に立てられた五穀幡の前（「戸外」）その他で併行して行われた。一部の儀礼では、盤氏宅内の祭壇で複数の祭司が同時に別の儀礼を行っている。従って、この「程序」では、併行して行われた儀礼が、時間の経過に従って順次交互に記述される形になっている。次にはこの「程序」から「小儀礼名」⁽⁴⁾を書き出してみたい。ここではC-1からC-30の記号を付す。「小儀礼名」の後に、「程序」表の番号と「場所（小項目）」⁽⁵⁾を記す。

- C-1 拝盞 340・343・355・357 祭壇正面
- C-2 冷拝盞 342・348・349 祭壇正面
- C-3 請師 341・347・350 祭壇正面
- C-4 昇五穀⁽⁶⁾ 356・359～363 祭壇正面・戸口・戸口脇
- C-5 開天門 364・366～375・414・415・432・433・437～439・464⁽⁷⁾～456・479・484 戸外
- C-6 上光接兵 365・377～383・390～404・410～412・418～420・422・423・425～427・429・468 祭壇正面・正面祭壇前
- C-7 祭五穀魂 384～389 戸外入口左側祭壇
- C-8 祭七星 405～409・467 入口右脇祭壇・入口入って右側祭壇
- C-9 分兵分旗 413 戸外入口左側祭壇
- C-10 準備招五穀魂 416 祭壇正面～戸外入口左側祭壇
- C-11 接三清 421・424・428・430・431 祭壇正面
- C-12 開天門／収盞 435・436 戸外
- C-13 開天門／勅水 440～443 戸外
- C-14 開天門／招五穀魂 444～458 戸外・戸外左側祭壇脇・戸口
- C-15 開天門／送五穀魂 459～463⁽⁸⁾ 戸口・家堂右の2階への上がり口・盤榮富宅戸口から3受礼者の家
- C-16 開天門／招兵旗 469 戸外
- C-17 開天門／分兵旗 470～474 戸外左側祭壇・戸口・祭壇正面
- C-18 開天門／収兵 475 戸口

- C-19 上光／楽兵 476 祭壇正面
- C-20 開天門／収兵／分兵 477 戸口
- C-21 開天門／分兵 478 戸口左脇祭壇
- C-22 送五穀魂 480～483 戸口左脇祭壇・戸外
- C-23 帯兵 485 戸外
- C-24 拝天門 486 戸外⁽⁹⁾
- C-25 引帯五穀幡 487 戸外～庁堂
- C-26 賀兵 488 祭壇正面
- C-27 樹五穀幡 489 庁堂⁽¹⁰⁾
- C-28 踢兵回壇 490 祭壇正面
- C-29 領席（賞席） 491 戸口左脇祭壇
- C-30 引帯 492 庁堂⁽¹¹⁾

(4)、細目の対応関係

A・B・Cの資料から抜き出した儀礼の細目は、それぞれの資料の性格が異なるので、一目でその対応関係を読み取ることはできない。そこで、実際に行われた儀礼の詳細な記録であるCとA・Bとの対応関係を確認しておきたい。対応関係は、それぞれの儀礼内容についての説明に基づくが、一部に対応関係を十分に確認できないものがある。そうした点については、今後の調査によって補っていききたい。

C-3 請師	—	A-1 請禾（?）
C-4 昇五穀	—	A-2 昇禾米、B-2 昇五穀
C-5 開天門	—	A-3 差兵招禾、B-3 開天門・祭五穀魂・祭七星姐妹
C-7 祭五穀魂	—	B-3 開天門・祭五穀魂・祭七星姐妹
C-8 祭七星	—	B-3 開天門・祭五穀魂・祭七星姐妹
C-13 開天門／勅水	—	A-4 勅糧、B-3 開天門・祭五穀魂・祭七星姐妹
C-14 開天門／招五穀魂	—	A-4 勅糧、B-3 開天門・祭五穀魂祭七星姐妹
C-15 開天門／送五穀魂	—	A-4 勂糧、B-3 開天門・祭五穀魂・祭七星姐妹
C-16 開天門／招兵旗	—	A-5 勂幡、B-3 開天門・祭五穀魂・祭七星姐妹
C-17 開天門／分兵旗	—	A-5 勂幡、B-3 開天門・祭五穀魂・祭七星姐妹
C-19 上光／楽兵	—	A-6 賀兵（?）、B-4 接五穀（?）
C-22 送五穀魂	—	B-4 接五穀
C-24 拝天門	—	A-8 閉天門（?）
C-25 引帯五穀幡	—	A-5 勂幡、B-5 樹五穀幡 ⁽¹²⁾
C-26 賀兵	—	A-6 賀兵
C-27 樹五穀幡	—	A-5 勂幡、B-5 樹五穀幡
C-28 踢兵回壇	—	A-7 踢兵回壇、B-6 上兵

A・Bにおいて言及されている事柄は、「招五穀兵」の内容をとらえる上で重要なものと思われるので、A・Bと対応する内容が見られたCの各細目を中心に儀礼の流れを略記してみたい。もちろん対応する内容が見られなかった科目も含めて分析していかなければ、「招五穀兵」を正確に理解していくことはできない。これはあくまでも今後の調査の手掛かりとして、暫定的に記すものである。

「C-3 請師」およびその前の科目は、準備・導入の儀礼と考えられる。

「C-4 昇五穀」については、A-2・B-2 がともに「昇禾米呪」を唱えることを記している。これも導入の儀礼になると思われる。

「C-5 開天門」では天門を開いて天兵の派遣を請う。C-5 の 366～371 においては「意者書」を読誦している。A・B に該当する記述がなかったのでここには挙げなかったが、「C-6 上光接兵」、「C-11 接三清」は重要な科目であると思われる。「招五穀魂」儀礼における意味については今後の調査で明らかにしていく必要がある。

「C-8 祭七星」は七星姐妹を祭る科目であるが、五穀魂を招く儀礼でなぜ七星を祭るのかについては、今後調査していきたい。

「C-7 祭五穀魂」以下「C-13」から「C17」までと「C-22」は、五穀兵を招く儀礼である。「C-13 開天門／勅水」「C-14 開天門／招五穀魂」「C-15 開天門／送五穀魂」「C-22 送五穀魂」は、「五穀糧（糧）」（五穀の束）と「五穀幡」（竹に五穀を多数吊した物）を使って五穀魂を招いて迎える内容である。棹秤によって「五穀糧」の重さを量って五穀魂が来たかどうかを確かめ、「五穀糧」を家の倉庫に収める。「C-16 開天門／招兵旗」「C-17 開天門／分兵旗」では、「兵旗」を用いて陰兵を祭った後、「兵旗」を挿した竹筒を祖先壇に置く。

「C-24 拜天門」では、天門を拜して天門を閉じる。

「C-25 引帯五穀幡」「C-26 賀兵」「C-27 樹五穀幡」は、「五穀幡」を戸外から家の中に運び入れて庁堂に立てる儀礼であり、それぞれの受礼者の家で行う。「C-26 賀兵」では祭司が舞う。

「C-28 踢兵回壇」では、祭司が剣を足の甲に乗せて蹴り上げ、祖先壇に入れて、兵の帰還を表す。これもそれぞれの受礼者の家で行う。

二、五穀兵を招く方法

以下では、2013 年 8 月の「湖南省藍山県宗教職能者招聘による補足調査」において、「招五穀魂」に関して行った調査の記録によって述べていく。8 月 5 日（月）～8 日（木）の「招五穀兵」に関する調査の話者と質問者は以下の通りである。

8 月 5 日（月）15:30～17:30 趙金付氏、馮榮軍氏（質問者：廣田律子、蔡文高、浅野春二）

8 月 6 日（火）10:30～11:00、17:20～17:40 趙金付氏、馮榮軍氏（質問者：廣田、蔡、浅野）

8 月 7 日（水）15:05～15:25 趙金付氏、馮榮軍氏（質問者：蔡）

8 月 8 日（木）09:30～10:30 趙金付氏、馮榮軍氏（質問者：廣田、森由利亜、浅野）

この時の調査はビデオカメラで録画している。これによって、質疑応答の中国語の録文を作成した上で内容を検討すべきであるが、今回は準備が間に合わなかったため、遺憾ながら、当日の筆者（浅野）の日本語による記録を主に用いることとする。

「招五穀兵」の儀礼の内容については、趙金付氏がほとんどの質問に答えてくれたので、ここで引用するのは、すべて趙金付氏による説明となる。

(1)、天神・地神による做證

a、地神と做證

「招五穀兵」⁽¹³⁾ の儀礼は「神様を使って五穀の兵を集める」⁽¹⁴⁾ 儀礼であるという。その時の神はどんな神なのかを質問したところ、趙金付氏は、次のようにノートに記した。

五谷大王	搭車大王
車徳大王	粮苗使者
粮扣 ⁽¹⁵⁾ 大王	移種 ⁽¹⁶⁾ 娘娘
禾花姐妹	五谷仙娘
把倉封印	開鎖郎官

挑籬童子 鑿秤二郎
 守耗童子 攤耗二郎
 开山童子 耕種老人
 五谷魄 禾魄⁽¹⁸⁾ 禾公 禾母 禾男 禾女 禾子 禾孫
 東南西北中
 失落石空・木空・泥空・水空・江辺・水辺・八叉路頭・十字路口
 失落山猪・馬驢九肚腸中
 丙年丙月丙日丙時出錯米糧壳錯米糧
 不知何年何月何日何時打發乞丐出錯米糧

以上のうちで、神の名は「五谷大王」から「耕種老人」までのようである。「五谷魄」以下は、儀礼の中で唱える言葉をそのまま書いたらしく、「五谷魄」から「禾孫」までは五穀魂（五穀兵）を挙げ、それらが、石の間や木の隙間などのいろいろな場所でなくなったり、動物に食われてしまったりしたことを述べ、某年某月某日某時に間違っなくなってしまったり、間違っなくなってしまった穀物や、いつだか分からないが乞丐を立ち去らせるためにやってしまった穀物があることを述べている。

この後、紙銭を差し上げる神々について説明した際には、次のように記した。

屋檐（？）童子 把門將軍
 本方地主 本洞廟王
 把界地主 欄路大王
 大位元宵 小位元宵
 山宵 水宵 常郎元宵
 白公元宵
 帮（搬）糧帮（搬）料元宵
 戲糧戲料元宵 添糧添料元宵
 （加上頁十六位神主）

さらに次の神々の名を書いてくれた。

高漢二郎 土地公公 土地婆婆
 求財八宝 衆官
 金剛大將 過往神童
 （再到出祖師名單）

「加上頁十六位神主」とある十六位は、「五谷大王」から「耕種老人」までの神々である。すなわち、五穀兵を集めてくる神々に含まれるのはその範囲なのである。さらに祖師の名簿をこれに加えるのである。

そうした神々がどのような役割を果たすのかについては、やはりこの時に記した別のメモが資料となる。

請天神地聖作証収回五谷魂。

地神：本方地主 土地公公 前頁所录神灵均为地聖

天神：指上界玉皇万岁高官上聖历年万代天门李十五官伟大之人

これによれば「五穀大王」以下「耕種老人」までの神々と後から別に示された神々はすべて「地聖（地神）」であり、こうした神々は「天神」とともに「五穀魂」を集めて帰ることを「作証（做證）」するということになる。

b、開天門と天神による将兵の派遣

「招五穀兵」においても「開天門」（C-5 他）が行われるが、なぜ「開天門」を行うのかを質問したところ、次のような答えが返ってきた⁽¹⁹⁾。

「做證のために天神を招いてくる」

「この神々は来ない。天兵、将兵しか来ない。神様は自ら来ない」

「天神に做證してもらうために開天門を行う。天の神様は来ない。天の将や兵が来る。天門を開くと兵将がやってくる」

「師父がお願いすると、天の神様はその声が聞こえる。聞こえている。そのお願いによって、兵隊を派遣してくれる」

初めは「天神」を招くと説明したが、質問を重ねると、「天神」自身が来るのではなく、「天神」が派遣した「天将・天兵」が来ると述べた。この「天将・天兵」は「天神」の代理である⁽²⁰⁾。「天将・天兵」が来ることで、「天神」の「做證」が得られると考えられている。祭司が行うのは、「天神」にお願いして「天将・天兵」を派遣してもらうことである。

このように、「天神」と「地聖（地神）」の「做證」すなわち保証を受けることで、五穀兵を集めて帰る「招五穀兵」の儀礼が行えるようになるのである。

(2)、五穀兵を集めに行く陰兵

a、差兵架橋

五穀兵を招き返す方法については、次のように説明している⁽²¹⁾。

「差兵する。自分（趙金付氏）の兵を遣わして橋を架けて捕まえてくる」

「差兵架橋。兵を遣わして橋を架ける」

「専用の橋を架けて、五穀兵が落ちている所まで橋を架けて、五穀兵がやってくる道を作る」

「彼らが見えないから、ポエで確かめている。道ができたかどうか確かめている」

「（ポエを投げて）陽卦（2枚とも上が平ら）が出たら、できたということを示している」

橋を架けて陰兵に五穀兵を集めに行かせる時に唱える詞は、次の通りである。

「差兵差将

架橋架路

差我 60 份兵頭 60 兵将

架起収魄（魂）橋樑

収禾橋路陽告（卦）架起

陰告占（貼）⁽²²⁾ 架占（貼）路」

ポエは、まず陽卦を出した後、次には陰卦を出さなければならないが、そのわけについては、次のように説明している。

「陽は『架起来』。橋ができあがって五谷の魂が通っていくという意味。陰は『等一下用』。できた後に、後でもう一回使うという意味」

「後で兵が通っていく。もう一回この路を使う。この路は二回使う。五谷兵が通った後、探しに行った陰兵が通って帰ってくる」

「ポエをもう一度投げて陰を出さないと、路がなくなる」

陰兵たちをまず差し向けて五穀兵のいる場所まで橋を架ける。まず五穀兵がその橋を渡ってくる。その後に、五穀兵を捕まえに行った陰兵が橋を通って帰ってくる。だから、もう一度使うために、ポエを投げて陰卦を出す。陰卦を出さなければその路がなくなって、陰兵たちが帰ってこられなくなってしまう。

b、師父の陰兵と施主の家の陰兵

五穀兵を探しに行く陰兵については、次のように答えている⁽²³⁾。

「(探しに行く兵は)『我的兵』と『他們的兵』である」

「我的兵(私の兵)」というのは、趙金付氏の陰兵(師父の陰兵)であり、「他們的兵(彼らの兵)」というのは、施主の家の兵である。それには、その家の祖先の陰兵も含まれる。

「家先単で、一人一人を呼ぶ。彼らも陰兵を持っている。それが集めて連れてくる。その陰兵が五谷魂を連れてくる。祖先も兵を持っている」

五穀魂を探して連れてくる陰兵については、次のような説明も受けた。

「陰兵は、役割によってそのときそのときに名前がつく⁽²⁴⁾」

「師父が持っている陰兵が五谷兵を連れてくる」

「『他們的兵』は、師父の兵と一緒に集めに行く。戻ると神龕に入る。師父の持っている兵は神龕に入らない」

「陰兵たちは家に帰って、剣を蹴ることで家に入る。これで探しに行った陰兵が戻ってくる。五穀兵を呼び寄せに行った兵が家に帰ってくるのである」

五穀兵を探して連れ帰ってくる際に働く陰兵は、「師父の兵」と「施主の家の兵」であるが、「施主の家の兵」には施主の家の「祖先の兵」も含まれる。祖先を「家先単」で一人一人呼んで、彼らの持っている陰兵も動員するのである。

「踢兵回壇」(C-28)に際して、祭司(師父)は祖先壇(神龕)に剣を蹴り入れて「探しに行った陰兵」を祖先壇に戻すが、「師父の持っている兵は神龕に入らない」のであるから、ここで祖先壇(神龕)に入るのは、それぞれその家の陰兵(祖先の陰兵も含む)ということになる。

(3)、五穀兵

a、五穀と五穀糧・五穀幡

五穀については、次のように説明する⁽²⁵⁾。

「大米・小米・玉米等、五種類なければならない」

米(稲米)・粟・玉蜀黍等で五種類を揃える、つまり、五種類を何にするのかは決まっていないが、五種類なければならないのである⁽²⁶⁾。2011年の「還家願」儀礼では、稲・粟・稗・高粱・玉蜀黍が用いられた。

受礼者の人数分用意された「五穀糧」（五穀の束）と「五穀幡」（竹に多数の五穀を吊り下げた物）については、次のように述べている。

「（五穀幡も五穀糧も五穀魂が）通ってくるのは同じ」

「まず五穀幡に付いて、次に五穀糧に付く」

「五穀糧」も「五穀幡」も五穀兵（五穀魂）を集める際に一時的に付着させるもの、あるいは、五穀兵が集まる場所と考えているようである。まず「五穀幡」に付いて、これが「五穀糧」に移る。「五穀糧」に付いたかどうかを確かめる際には、棹秤で重さを量り、重くなっていることで、五穀兵が到着したことを確認する。「五穀糧」は家の穀物を保存する倉庫に納められ、「五穀幡」は神龕の脇に立てられるが、これによって五穀兵が家の中に入ると考えられる。家の中での五穀兵のいる場所については、次のように説明している。

「五穀糧は倉庫にある。これは人が食べる。五穀魂は家の中にいる」

「五穀魂は神龕の中にいる」

やはり五穀兵（五穀魂）も神龕の中にいるものと考えられている。

b、陰魂と陽魂

ヤオ族の靈魂観について質問した時⁽²⁷⁾に、「五穀魂」にも言及した。話の脈絡が分かるように、ヤオ族の陰魂・陽魂についての考え方を話している部分も併せて示す。

「神も陰の世界、人も亡くなると陰の世界」

「陽の世界は人間の世界のこと」

「たましいに陰のたましいと陽のたましいがある」

「陰の時、陰の魂が神様の世界に行く」

「夜、夢を見るのも陰の魂の働き」

「陰の魂が神様の世界に行って、仕事が終わった後、陽に戻らなければならない。普通の状態に戻らなければならない」

「陽の世界に陽の魂がある。陰の魂が陽の世界に戻って陽の魂と合体しないと、人はおかしくなる」

「陰（の魂）は神様の世界に行く。神様の世界は陰の世界」

「上光の時、陰の魂が陰の世界に行って何かお願いをする」

「病気の時（生病）、陰の魂は陰の世界に捕まえられた。陰の世界に悪いものとかいて、捕まえる」

「その時陽の魂、陽魂は体の中にある。陽魂がいるから息をしている」

「死ぬ時、陰魂も陽魂も抜ける」

「度戒の時、陰魂が下り、陽魂はまだ残っている」

「五穀魂にも陽魂・陰魂がある」

「五穀魂を招く時、陰魂を呼び戻してくる」

「陽界に存在する者には、陽魂がある。陰界と交流できるのは陰魂」

「人が死んだら陽魂はない。全部陰魂になってしまう」

「人間が死んだらもう陽魂はない」

「家先単（の家先）も陰魂」

（五穀も食べられてしまったら陽魂はなくなるのか、という質問に対して）「一粒一粒では考えない。食べきれないから陽魂はある」

漢族の靈魂觀に見られる魂魄説とは異なつた陰陽の魂の考え方をしているようである。人は生きているうちは陰陽の魂が結合した状態であるが、死ぬと陰の魂も陽の魂も抜けてしまい、すべての魂が陰の魂に変わってしまう。また、病気の時には陰の魂が陰の世界に捕まってしまうと考えるようである。「五穀魂」すなわち五穀兵についても、「陽魂・陰魂」が考えられているが、「招五穀兵」で招く五穀兵は、五穀兵の「陰魂」である。人が病気の時と同じく「陰魂」がどこかで捕まっているので、それを取り戻すという発想をしているらしい。そして、五穀兵については、穀物の一粒一粒の靈魂としてではなく、集合的に考えられる面もあるようである。この世に実際にある穀物は、この世の存在であるから「陽魂」がある。穀物についても、人と同じように「陽魂」と「陰魂」が結合して存在しているようであるが、食べられるなどして無くなってしまうと、「陰魂」だけとなるはずである。しかし、五穀の生育や収穫を保証する五穀兵は、穀物の一粒一粒とは別の存在として家に宿するという考え方がなされており、「陽魂」は食べることで無くなるとは考えられていない。しかし、五穀兵の「陰魂」は、「招五穀兵」の儀礼を行って取り戻すことをしなければならないのである。そのままにしていると、量が減る、あるいは力が弱まると考えられているように思われる。

c、五穀兵に対する招魂

五穀兵はどこから来るのかという質問に対しては、次のように答えた⁽²⁸⁾。

「五穀兵は基本的には家にいる。(招兵で) 落ちたものを集めてくる。分散しているものを集める」
また、次のようにも話している。

「五穀兵には、たくさんものがある。たくさんいるが、主体は家にある。どこかに行っているものを呼び戻す。
石のどこかに落ちているもの、動物に食べられたものとか」

普段、五穀兵は、家にいるものと考えられている。そのことによって収穫が得られ、家族の者たちが穀物を食べることができるのである。「招五穀兵」で招くのは、家を離れてどこかに行ってしまった五穀兵であり、これを招いて来ないと、家の収穫が減ってしまうと考えているのであろう。本来家にあるべきものが、様々な機会にどこかに行つて失われてしまうのを、「招五穀兵」で取り戻さなければならない。前引の趙金付氏のメモには次のようであった。

東南西北中

失落石空・木空・泥空・水空・江辺・水辺・八叉路頭・十字路口

失落山猪・馬驢九肚腸中

丙年丙月丙日丙時出錯米糧壳錯米糧

不知何年何月何日何時打發乞丐出錯米糧

ここには、東・南・西・北・中の、石の隙間、木の隙間、泥の中、水の中、川べり、水辺、路がいくつにも分かれているところ、路が交差しているところで失くしたり、猪・馬・驢馬等に食べられたり、間違つて売つたり、乞丐を立ち去らせるのに与えたりして失つたものが挙げられている。家族の者が食べた分は、五穀兵はそのまま家に留まるが、どこかで落としたり、売つたり、動物に食べられたり、乞丐に与えたりした分の五穀兵はどこかに行ってしまう。そうした五穀兵を「招五穀兵」によって取り戻さなければならないのである。家に留まる五穀兵は、すでに述べたように集合的に考えられているのであるが、失われた五穀兵については、穀物の粒一つ一つがイメージされているように思われる。

こうした五穀兵に対して行われる招魂法は、人が病気の時に行う招魂法に類似している。本来体の中に留まっているべき靈魂が、何らかの事情によって体を離れてしまい病気になったと考えられる場合に行われる招魂法で

ある。これは、靈魂を取り戻して体の中に安定させることで病気を治すものである。「招五穀兵」の場合も、本来家の中に留まっているべき五穀兵が、様々な事情で離散してしまったので、それを取り戻すというモチーフであり、基本的には同じ発想である。

五穀兵が穀物倉に入るように唱える詞は、招魂儀礼でよく用いられる詞に類似している。儀礼の手順の説明とともに示す⁽²⁹⁾。「程序」の「開天門／送五穀魂」(C-15、458・459)の儀礼である。

「散米⁽³⁰⁾。東南西北中。どこから集めてきたとって、倉庫に入れという」

「(散米の時) あちこち集めてくるように。家に入るように (と言う)。倉庫に入れて、それでドアを閉める」

「(家に入る時は) 背粮回家。施主に五谷を背負わせる」

「(施主に背負させた五谷の東に向かって趙金付氏が)「解穢」と剣で書く (空中に)」

「(師父が) 手訣によって『关了』。閉めて逃げないようにする」

「卓上でボエ。陽卦。ちゃんと閉まったかどうか確かめる」

「米を撒く時の唱えごと。

差兵差到東方東路去

東方東路収禾回

差兵差到南方南路去

南方南路収禾回

差兵差到西方西路去

西方西路収禾回

差兵差到北方北路去

北方北路収禾回

差兵差到中方中路去

中方中路収禾回

左手接右手回 禾公禾母

禾男禾女禾子禾孫

你付 (扶?) 々上粮倉 上粮倉 上粮倉」

五方に対して陰兵を差し向け、五穀魂を集めて連れ帰ってくる。そして、穀物倉に収める。五穀兵については、「禾公・禾母・禾男・禾女・禾子・禾孫」としている。人と同じように家族をもつものと考えている。

現時点までに得られた資料では、家の中で、穀物倉・五穀幡・神龕が五穀兵の居場所になるが、居場所をどこかに決める必要はないであろう。それぞれに意味があるはずである。それぞれについて、一つの解釈を示せば次のようになる。五穀幡は、浮遊する五穀の魂を集める装置であり、どこかに行きかけた魂はこれを目印に帰ってくることを期待されていると解せる。穀物倉は、穀物が収められており、五穀兵もここに収められている穀物と一体のものと考えられていると思われる。個別具体的な穀物の靈魂としての五穀兵はここに宿るのであろう。神龕には、その家の穀物を実らせ収穫を約束するような、集約的な本体的な五穀兵が宿ると考えられていると解せる。もちろんこうした解釈は暫定的なものである。調査を進めた上でさらに考えていきたい。

おわりに

これまで得られた資料から、「招五穀兵」について述べてきた。五穀兵は、本来家にいるものであるが、様々な機会に失われてしまう。これを取り戻すために行われるのが、「招五穀兵」である。「招五穀兵」の儀礼は、まず天神・地神の「做證」を請い、その上で、祭司(師父)と施主(儀礼の依頼者)の家の陰兵を派遣して、五穀

兵を探し、連れ戻してくるという内容である。その際には、陰兵が五穀兵のいる場所まで橋を架ける。その橋を渡って五穀兵が帰ってくる。五穀兵を招くためには「五穀幡」が立てられ、「五穀糧」が用意される。五穀兵は、まず「五穀幡」に集められ、さらに「五穀糧」に集められる。「五穀糧」は、棹秤で重さを量り、五穀兵の到来が確認される。これが家に運び入れられることで、集められた五穀兵が家に入り、そこに宿ることになる。また、五穀兵を集めに行った陰兵の帰還に際しては、祖先壇に剣を蹴り入れる「踢兵回壇」が行われる。

およそ儀礼の概要はこのようにとらえられるが、詳細はまだ十分に明らかになっていない。儀礼の細目や儀礼で唱えられる詞の内容等について、さらに調査を重ねて把握していきたい。また、「招五穀兵」の儀礼がなぜ「還家願」儀礼の一部として行われるのかについてや、ヤオ族の霊魂についての考え方についても、調べていく必要があると思う。

注

- (1) この「湖南省藍山県宗教職能者招聘による補足調査」では、趙金付氏、馮榮軍氏、盤榮富氏を招いて、神奈川大学横浜キャンパスで、聞き取り調査を実施した。
- (2) この「第三章 還家願」の日本語訳は、神奈川大学歴史調査報告第14集『中国湖南省藍山県ヤオ族儀礼文献に関する報告Ⅱ』神奈川大学大学院歴史民俗資料科学研究科、2012年3月、137～167ページに収録されている。
- (3) 337・338は「招兵愿」の準備である。
- (4) 以下、「大儀礼名」で「招兵愿」とされている部分の「小儀礼名」を対象とする。「大儀礼名」が「招兵愿」とあっても、「小儀礼名」が記されていないものについては、原則的に除外するので、番号が一部欠ける場合がある。
- (5) 「場所（大項目）」は基本的には「盤榮富宅」である。他の場所の場合には注にその旨を記す。
- (6) ここでは351・354の「還催春愿」は、一つ前の「大儀礼」の一部であると思われるので省略することとする。
- (7) 464の「場所（大項目）」は「3受礼者宅」である。
- (8) 463の「場所（大項目）」は「3受礼者宅」である。
- (9) 「程序」には場所の記述がないが、ここでは「戸外」と補う。
- (10) 「程序」には場所の記述がないが、ここでは「庁堂」と補う。
- (11) 492の「場所（大項目）」は「盤継生宅」である。これに続く439～502については「小儀礼名」の記載がないが、内容からすると「盤継生宅」「盤認仔宅」「盤新富宅」（すなわち「3受礼者宅」）でそれぞれ行われた「引帯五穀幡」「樹五穀幡」「踢兵回壇」にあたる。
- (12) C-30引帯は、A-5、B-5に対応するが、内容は、他の受礼者宅における繰り返しになるので、ここでは省略する。
- (13) 「五穀兵」は「五穀魂」とも称される。8月6日の調査の際に念のため確認したところ、趙金付氏は「五穀兵と五穀魂は同じである」と答えた。
- (14) この部分は8月5日の調査の記録による。
- (15) あるいは「靠」の字であるという。
- (16) 初め「信」と書いたが後で「種」に改めた。
- (17) 初め「探」と書いたが、この字ではないとして消した。意味は「赶」と同じということであったが、この時は思い出せないままであった。あるいは「搞」かもしれないと筆者は考えたが、今のところは未詳である。
- (18) 趙金付氏は「五谷魄」「禾魄」と書いたが、後から馮榮軍氏が「魄」を「魂」に改めた。
- (19) この部分は8月6日17:20からの調査の記録による。
- (20) 8月5日の調査の際にも「開天門做證の時、兵将が代理で出てくる」と述べている。
- (21) 以下、8月5日の調査の記録による。
- (22) 「貼」は「修好」の意であると説明した。
- (23) 8月6日10:30からの調査の記録による。
- (24) 8月5日の調査で、趙金付氏は、「陰兵にはいろいろな兵がいる」ということで、「補充兵・加職兵・補領兵・受籙兵・平度兵・填庫兵・騎虎兵」、また「招糧兵・搬糧兵・送糧兵」、「引旗兵」等の名前を挙げた。また、「陰兵は兵旗で呼ぶ」、「いろいろな兵がいるが、みな旗を目印にくる」とも述べている。
- (25) 8月6日10:30からの調査の記録による。
- (26) 三村宜敬氏「還家愿儀礼における対聯と五谷について」、神奈川大学歴史調査報告第14集『中国湖南省藍山県ヤオ族儀礼文献に関する報告Ⅱ』神奈川大学大学院歴史民俗資料科学研究科、2012年3月参照。三村氏は、儀礼で用いられた穀物の種類について「この藍山県における耕作の歴史や風土を表しているのではないだろうか」（170ページ）と述べている。
- (27) この部分については、8月7日の調査の記録による。
- (28) 8月6日10:30からの調査の記録による。
- (29) 8月5日の調査の記録による。散米の時に唱える詞については、8月8日の調査時に再確認している。
- (30) 「程序」の458に記されている散米がこれにあたる。

付記

2013年8月の補足調査の際は、体調がすぐれないにもかかわらず参加された蔡文高先生のお蔭で、充実した情報を得ることができた。蔡先生は、聞き取り調査を始めると、以前と変わらぬ元気なご様子で次々に質問をされていたので、こんなに早くお別れしなければならないとは思っていなかった。残念でならない。補足調査で得られた資料によって小稿をまとめ、蔡先生への感謝の気持ちを表します。

補足

2015年1月4日から6日に、神奈川大学横浜キャンパスにおいて、中国湖南省永州市藍山県より趙金付・馮榮軍・盤榮富の三氏を招いて補足調査を実施した。5日と6日には、還家願儀礼の「招兵願」（招五穀兵）について質問をし、答えていただいた。それによって新たな情報が多く得られたが、それに伴ってこの小稿の内容について訂正をする必要が生じた。本来ならば、全面的に書き改めた上で発表しなければならないところであるが、すでに校正段階まで進んでいるので、遺憾ながら、ここに若干の補足を記すにとどめる。今回得られた情報については改めて報告したい。

以下、いくつかの事項について簡単に要点を記す。

○五穀魂と家先兵

「招兵願」では、家から離れてしまった「五穀魂」だけではなく、「家先兵」も呼び集める。「家先兵」はその家の祖先の持っている兵隊である。「家先兵」も、「五穀魂」と同じく時間の経過とともに少しずつ離れてどこかに行ってしまうと考えられている。（「五穀魂」は「五穀兵」とも称するが、「招兵願」の中では、「魂」として扱われる面が強いように思われる。）

○元宵と五穀魂

「開天門」をして降りてきてもらった天の兵は、儀礼が正しく行われるかどうかを見届ける。師父の兵や家の兵（「家先兵」も含む）は、「五穀魂」をあちこち探して早く帰るように促すが、「五穀魂」を運ぶのは「元宵（魑）」の役目である。「五穀魂」は自分で移動せず、「元宵」に運ばれることによって帰ってくると考えられている。

○兵旗と家先兵

「家先兵」は「兵旗」によって集められる。切り紙によって作られる旗の上部は「三清兵」を表し、下部は「天狗」を現している。

○昇五穀

「昇五穀」という科目名は「昇起千担萬担米糧」、すなわち、食料がこの家でどんどん増えることを意味している。

○祭七星

「七星」は、吃齋（精進）の神である。「祭七星」という科目では、「監齋大王」「天斗星君」「七星姊妹」を祭る。神が立派に精進しているから、人間も精進するという。

○五穀幡

「五穀幡」を家の中に運び入れて立てておくと、この家は食べきれないほど食料があるという意味になる。穀物がいっぱい実っている様を表しており、これから先ずっとそうなることを表している。

○五穀大王以下の神名について

2013年の補足調査において趙金付氏がノートに記したメモの7行目「攤耗二郎」の前に、「赶耗一郎」という神名が、今回書き加えられた。

儀礼実践から見たミエン儀礼神画の使用

神奈川県大学大学院歴史民俗資料学研究科博士後期課程 ヤオ族文化研究所研究協力者
譚 静

本稿では、湖南省永州市藍山県のミエンの祭司はいかなる宗教段階を経て神画の使用資格を得るのか、儀礼に用いられる神画にはどのような意味があるのか、また儀礼において神画はどのような役割を果たしているのかについて、神画を用いる儀礼内容を考察することによって明確にする。

神画とは、信仰の対象となる神々の描かれた平面画像の掛軸（掛物）のことを指す。湖南省永州市藍山県のミエンの行うさまざまな儀礼において、必ずしも神画を使用するものばかりではない。祭司の趙金付氏によると、儀礼程序に「撥兵」⁽¹⁾「請作証」⁽²⁾「開天門」の儀礼科目が入るならば、神画を祭壇に掛けなければならないという。具体的な例を挙げると、通過儀礼の「還家願」「度戒」「葬送」儀礼、また冤を解く「解冤」儀礼は、いずれも撥兵・請作証・開天門の科目があり、神画を必要とされる儀礼である。これらの儀礼に対して、神画を使用しない儀礼も行われている。年中行事として行われる「送船」儀礼、日頃行われる儀礼として、治病のための「架橋」儀礼、安産のための符を授けるなどの儀礼は、撥兵・請作証・開天門の科目を伴わないため、神画は使用しない。

これまでのミエンが伝承している儀礼に関する先行研究では、儀礼において神画がどのように使用されるのかについて触れてはいるものの、神画を中心として研究を進めていない。例えば竹村卓二は、『ヤオ族の歴史と文化』の中で、タイのミエンの通過儀礼の各段階を経て受礼者は異なる陰兵数を獲得するとしているが、陰兵の伝授と神画の使用との意味について触れていない [竹村 1981 : 159-172]。廣田律子は「湖南省永州市藍山県過山系ヤオ族の祭祀儀礼と盤王伝承」の中で、盤家の還家願儀礼を通じて、盤王との契約と履行を重点的に論じているが、還家願儀礼において掛三灯を経てそして神画を使用することまでは言及したものの、神画を使用することの意味について考察していない [廣田 2013b : 1-23]。筆者のミエンの祭司への聞き取り調査によれば、儀礼において、神画の所持および使用の資格を持っていなければ、神画を儀礼の場に持ち込むこと、そして使用することができず、祭司になる者は「掛三灯」儀礼を経れば、初めて「行師」神画を所有する資格を得「度戒」儀礼を経れば「三清兵馬」神画を所有する資格を得る。そのため本稿では、儀礼実践中での神画の使用を考察する前に、まず神画使用者である祭司は、どのような儀礼段階を経て神画の所持および使用の資格を得てきたのかを考察していく。

1. 儀礼神画の所持および使用の資格について

1-1. 「掛三灯」儀礼における授法の状況について

「掛三灯」儀礼は世界に広く分布しているミエンがどこに移住しても必ず伝承している儀礼である。湖南省永州市藍山県において「掛三灯」儀礼は、また「掛家灯」といい、略して「掛灯」とも称する。以下では、藍山県で行われたいくつかの「掛三灯」儀礼を構成する儀礼名を示す。

- 1) 湖南省永州市藍山県紫良瑶族郷高源村石頭地「還家願」儀礼中の「掛家灯」 [張ほか 2002 : 89-130]

(1) ミエンの掛灯儀礼において、受礼者に兵馬を与える「撥兵撥将」儀礼が見られる [廣田 2011 : 324]。また、度戒儀礼の初めにおいて「撥兵赴壇」儀礼も見られる。「撥兵赴壇」儀礼は、主醮師・引度師・書表師は真っ先に自家の祭壇から、上壇兵馬・上壇兵将・三清兵馬・三清兵将を呼び出し、神画を背に負い、手に牛角(角笛)を持ち、急いで祭場に赴くことである [馮榮軍 2010 : 75]。祭司の趙金付氏が言った「撥兵」は、兵馬を与えることでなく、儀礼を担当する祭司は自らの兵馬を呼び出して使役することであると考える。

(2) 請作証とは、神々を証人として祭場に來てもらい、儀礼で行われたことは確かかどうかを確認することであると考える。

化変・勅変米・蔵身 / 変身・昇灯・解厄・取法名・退灯・分兵・退碗・撥法・定陰陽・行罡・許催春願

2) 2006年湖南省永州市藍山県湘蘭村「還家願」儀礼中の「掛家灯」[廣田 2011: 317-385]

上光・封齋・昇老君橈・化変・昇灯 / 取法名・撥兵撥將・接香炉・撥法・定陰陽・祝詞・学揺鈴行罡・脱童

3) 2008年湖南省永州市藍山県匯源瑶族郷湘蘭村「度戒」儀礼中の「補掛三灯」[廣田ほか 2011: 37-45]

請師・勅変水・勅変米・勅変布・勅変錢・勅変橈・打橈・昇橈・穿衣・踏蓮花・取煞・取伏断・蔵身・起寸・
変吾身・昇灯・掛三灯・退灯・撥橋(補橋)・撥路・撥兵・撥法・分兵・吹米・定陰陽・退蓮花・接香炉・
学打鑼・学吹牛角(伝師棍伝卦)・学用鈴(伝牙簡伝銅鈴)・抬轎子・学走罡步(伝七星罡步)・学舞学揺鈴

4) 2011年湖南省永州市藍山県所城鎮幼江村「還家願」儀礼中の「掛三灯」[廣田ほか 2012: 33-116、神奈川大学ヤオ族文化研究所ウェブサイト]

勅変水・勅変米・勅変橈・打橈・昇橈・穿衣・蔵身・踏蓮花・変吾身・起寸・取伏断・昇灯・掛三灯・退灯・
撥橋撥路撥兵撥法・分兵・吹米・退蓮花・接香炉・学打鑼・学吹牛角・定陰陽・学走罡步・学揺鈴・学舞

以上示した「掛三灯」儀礼を構成する儀礼名の中に、筆者は「三灯」を掛ける前に行われる「勅変水」「勅変米」「勅変布」「勅変錢」儀礼と「掛三灯」儀礼の中心部分⁽³⁾となる「掛灯」「撥兵撥將」「分兵」「吹米」「学揺鈴」「学走罡步」などの直接授法とかかわりがある儀礼に注目している。次には、これらの儀礼で具体的にどのようなことが行われ授法されたのかを詳述する。

1-1-1. 「勅変水」「勅変米」「勅変布」「勅変錢」

「勅変水」「勅変米」「勅変布」「勅変錢」儀礼を行う際に、祭司は、下記の儀礼文献を読誦しながら、水・米・白布・錢を変化させる。文献の内容によると、水は「観音楊柳之水(観音の柳の水)」「真武之水(真武大帝の水)」「五雷殿上之水(五雷殿にある水)」「八大金剛之水(八大金剛の水)」「三壇之水(三壇の水)」「雲霧之水(雲と霧の水)」という邪鬼を滅ぼすことができる水になり、米は「千兵万馬(千万の兵馬)」になり、白布は「金橋(金の橋)」になり、錢は「三十六名雄兵(36名の強力な兵)」になると記されている。これらの変化したものは「三灯」を掛ける際に「撥橋」「撥路」「撥兵」「撥將」「撥法」などの儀礼を通じ、受礼者に伝授される。そのため、ここでは授法とかかわる重要な儀礼として紹介した。

「勅変水」「勅変米」「勅変布」「勅変錢」の際に読誦される儀礼文献⁽⁴⁾

変水、二変此水化為観音楊柳之水、三変此水為真武之水、四変此水化為五雷殿上之水、五変此水化為八大金剛之水、六変此水化為三壇之水、連連化為雲霧之水、邪鬼自滅、吾奉太上老君急急如令勅

変米、此米不是非凡之米、米是化為天星養人之米、吾師將來化為千兵万馬、抛散速上壇前、將來抛把師男、速變速化、速速變化、吾奉太上老君急急如令勅

変布、此布不是非凡之布、布是化為三尺六寸、白布化為青竹、蛇化為金橋、吾師將來、抛把師男速變速化、吾奉太上老君急急如令勅

変錢、此錢不是非凡之錢、錢是三十六文銅錢、化為三十六名雄兵、吾師將來、抛把師男、速變速化、吾奉太上老君急急如令勅

1-1-2. 「掛三灯」儀礼の中心部分

この部分では「昇灯」「掛灯」「取法名」「撥橋」「撥路」「撥兵」「撥將」「撥法」「分兵」「吹米」「接香炉」「学打鑼」「学吹牛角」「学用卦」「学揺鈴」「学罡步」などの儀礼が行われている。

1-1-2-1. 「昇灯」「掛灯」

(3) 「掛三灯」儀礼の中心部分に関して、吉野晃は「〈掛燈〉儀礼の中心部分は、〈掛燈〉から〈抬起身〉=〈抬轎子〉へと到る部分である。儀礼の名称となっている〈掛燈〉(燈を掛ける)に始まり、師匠から弟子への伝法が行われるからである」と指摘している[吉野 2011: 35-40]。

(4) 神奈川大学ヤオ族文化研究所収集写真資料である。文献番号:A32-b。写真番号:IMG_6179～IMG_6180。撮影者:廣田律子。

「昇灯」「掛灯」儀礼を行う際に、祭司は、灯明を持って祭壇に掛けられている神画に描かれている神々対して「掛三灯」を証盟するように願う。それから、受礼者の前に立て置かれる灯明立てに三つの灯明を置き「掛灯」をする。

三つの灯明について、廣田律子によると、受礼者本人から見て左の灯明は本命毫光灯、中央は一族を代表する祖宗灯、右は代々の祭司を表わす祖師灯を表わしているという [廣田 2011: 324]。また、松本浩一は『掛三灯』の儀礼の中で、掛三灯儀礼の際に用いられる文献の分析によると、第一番目が祖宗すなわち祖先の灯を表わす。第二番目は本身もしくは本命の灯を表わす。第三番目は師父の灯を表わすという [松本 2010: 9]。また張勁松らは、『藍山県瑶族伝統文化田野調査』の中で「三つの灯明はそれぞれが師道公(祭司)の先師である、李十六・李十二・李十一を表わす [張ほか 2002: 96]」と述べている。代々の祭司を表わす「祖師」と祭司の「先師」である李十六・李十二・李十一の李姓の神々とは、いずれも同じ祭司の代々の師匠を表わす灯明であり、師匠たちの灯明を継ぐことは間違いないと考える。

1-1-2-2. 「取法名」

祭司は、三清(元始天尊・靈寶天尊・道德天尊)神画の前で三清神に対して、受礼者の生年月日を記した紅紙を持ち、受礼者の身分について説明する。そして、紅紙を牙簡に載せ、受礼者の法名を唱えながら、三清神画に近づける。もしも紅紙が自然に神画に貼り付けられれば、その受礼者の法名が三清神の承認を得たことを意味する⁽⁵⁾。そして神画に紅紙をのりで貼り付け、法名が決まる。法名を得ると「師男」と称され、祭司になったことを意味するという [張ほか 2002: 96]。同時に陰兵の加護を受けられ、自ら守る法術を身につけ、他人を救うことができ、死後の官職を獲得できるとされる [李ほか 2010: 25]。家を継承する資格も獲得することになり、法名を代々の祖先が連記される「家先牌」に加えられるのであるという [廣田 2011: 335]。

1-1-2-3. 「撥橋」「撥路」「撥兵」「撥将」「撥法」「分兵」「吹米」

「撥橋」「撥路」「撥兵」「撥将」「撥法」「分兵」「吹米」において、祭司は橋に変化した白布を用いて米を受礼者に渡し、兵が橋を渡って受礼者の元に行くことを表わしている。それから白布で米と36枚の銭を包み、受礼者に授ける。米は千万の兵馬を表わし、銭は36人の強力な兵を表わしているので、米と銭が授けられることは、兵を授けられることを意味している。さらに祭司は、受礼者の口を開かせ、米を牙簡に載せて受礼者の口中に吹き込み、法を伝授する。これらの儀礼を通じ、受礼者は橋と兵と法を伝授されるのである。

1-1-2-4. 「接香炉」

「接香炉」を通じ、祭司は「香炉(線香立て)」を家先壇から下ろし、受礼者の顔に近づけて匂いを嗅がさせる。これで祖先の「香炉」を継承する資格を得たことを意味をするという [廣田 2013: 324]。

1-1-2-5. 「学打鑼」「学吹牛角」「学用卦」「学揺鈴」「学罡歩」

「学打鑼」「学吹牛角」「学用卦」「学揺鈴」「学罡歩」などの儀礼を通じ、受礼者たちは、儀礼を行う際に使用される鑼や鈴の鳴らし方、牛角(角笛)の吹き方、卦(ポエ)の使い方、罡歩のステップの歩み方などを学習することができる。⁽⁶⁾

1-1-3. 「掛三灯」儀礼から見た授法と「行師」神画との関連

以上「掛三灯」儀礼中の授法とかかわりがある儀礼において受礼者はどのように授法されたのかを見てきた。

(5) 同様なことは、李祥紅らが報告している湖南省ミエンの掛灯儀礼中の「昇職」儀礼においても見られる。「昇職は、即ち三清に承認された神職(老君の職位)を獲得することである」とされる [李ほか 2010: 45-46]。

(6) 「掛三灯」での呪術の伝授に関して、廣田律子は『中国民間祭祀芸能の研究』の中で「ヤオ族の男性にとって掛家灯儀礼が必ず経なければならない通過儀礼であり、ヤオ族の祭司李天師の後代に連なると考えられている。この時、祭司として必要な方術の伝授が行われる。『発法』や『学揺鈴行罡』の場面では、祭司が受礼者に対してドラの敲き方や角笛の吹き方や、法具の鈴の鳴らし方やマジカルなステップの踏み方の罡歩そして舞を手取りに教え、祭司としての方術の伝承を行う。ここで祭司の同作を真似るということが行われる。この祭司から受礼者への方術の伝授において行われる真似るという行為、学修して再現するという行為が、まさに芸能的要素の萌芽といえるのではないかと考える。〈中略〉祭司の所作を真似ることは祭司としての能力を獲得することを意味し、神と種々の通信手段を得ることになる。そして、ヤオ族の男性として祖先を祀り、祭司としての正しい路を歩みはじめることにつながる。真似ることから始めるわけだが、真似ること自体祭祀性の強い段階の芸能における重要な表現方法といえる」と述べている [廣田 2011: 355-357]。

各小儀礼を通じて伝授された法や能力などは、下表（表1. 掛三灯儀礼を通じて伝授される法と能力一覧表）で示す。表1. から「掛三灯」儀礼を通じ、受礼者は「三灯」を掛けられ、法名を得、橋と法を伝授され、36名の兵を授けられ、鑼・牛角・鈴などの法具の使用法を伝授され、七星罡歩を伝授されることが分かる。また「掛三灯」儀礼を経て「行師」神画を所持および使用する資格を取得することができる。

なぜ「掛三灯」を経れば「行師」神画を所持および使用する資格を得られるのか。筆者は、二つの理由があると考えられる。

表1. 掛三灯儀礼を通じて伝授される法と能力一覧表

小儀礼名	伝授される法や能力	所持・使用できる神画
掛三灯	三つの灯明を掛ける / 法名を得る	「行師」神画 (4点)
撥橋・撥路・撥法・撥兵・分兵・吹米	橋が授けられ、法を伝授され、36名の兵を授けられる	太尉神画 唐葛周三將軍神画
接香炉	先祖の香炉を継承する資格を得る	海幡張趙二郎神画
学打鑼	ドラの打ち方を伝授される	総壇神画
学吹牛角	角笛の吹き方とト具の使い方を伝授される	
学用鈴	牙簡と鈴の使い方を伝授される	
学走罡歩	七星罡歩を伝授される	

一つ目は、掛三灯で点す灯明の中に「祖師」を表わす灯明を掛けられたからであるからと考える。上記したが「掛三灯」儀礼には、三つの灯明の内に「祖師」を表わす灯明を掛ける。「祖師」の代表として「李十六」「李十二」「李十一」という李姓の神々が見られる。「李十六」という神に関して、請聖書に収められている「李十六呪」⁽⁷⁾ という記述に描写が見られ「部兵猛将力威勇（部兵や猛将たちは威力があり勇敢である）」「五七將軍為大將（五七將軍は大將であり）」「統領三千六万兵（3千と6万の兵士を統率する）」というような勇猛であり、兵将を統率する位が高い武官であることが分かる。また、請聖書に収められた「賞浪兵頭」⁽⁸⁾「退下阜老賞浪」⁽⁹⁾「接祖師」⁽¹⁰⁾の三つの記述とも「太尉南朝李十六（太尉である南朝の李十六）」という字句が見られるので「太尉」と「李十六」は同一の神であると考えられる。「太尉」は、中国古代官職の中で位が最も高い武官のことを指すため「李十六」の武将とする官階を表わすものだと考えられる。「掛三灯」儀礼には、受礼者は代々の祭司を表わす「祖師」の灯明を掛けられた時から、李姓の神々を代表する「李十六」との関係を結ぶようになり、同時に「李十六」を使役する能力も伝授されたと考えられる。そのため「行師」神画中の「太尉」神画を所持および使用することが可能になると考えられる。

二つ目は「下壇兵馬」を授けられたためであると考えられる。祭司の趙金付氏によれば「掛三灯」儀礼で授けられる兵は「下壇兵馬」であるという。請聖書には「請下壇兵将」という記述が見られる。そこから「下壇兵馬」の将兵の名称が挙げられている。記述の内容は次のように示す。

「請下壇兵将」⁽¹¹⁾

請下壇兵馬下壇将、下壇梅山白虎天門、李十五官、驢山法主九郎、梅山七郎、上元唐將軍、下元周將軍、中元葛將、雲頭仙女、明日龍鳳三娘、変現五通、両辺排馬郎君、金牙三十六尉、六遇初旬黄衣使者、白衣判官、走馬通天李十一官、感應上帝部兵、李十二官、三位旗頭官、左殿先鋒、右殿殺刀、同名八官、壇上五傷、壇下五傷、拿鬼捉鬼傷、犀牛皆上兵、猛虎毒蛇兵、旗麟獅子兵、春季春雷兵、下季下季兵、秋季秋雷兵、冬季冬雷兵、一年四季、五雷頭兵、五雷兵将、住宅土地、福神

<後略>

(7) 神奈川大学ヤオ族文化研究所収集写真資料である。文献番号：A-32a。写真番号：IMG_4405～IMG_4406。撮影者：廣田律子。
 (8) 神奈川大学ヤオ族文化研究所収集写真資料である。文献番号：A-11。写真番号：IMG_1188～IMG_1189。撮影者：廣田律子。
 (9) 神奈川大学ヤオ族文化研究所収集写真資料である。文献番号：A-19。写真番号：IMG_2372。撮影者：廣田律子。
 (10) 神奈川大学ヤオ族文化研究所収集写真資料である。文献番号：A-11。写真番号：IMG_2323～IMG_2324。撮影者：廣田律子。
 (11) 神奈川大学ヤオ族文化研究所収集写真資料である。文献番号：A-32a。写真番号：IMG_4405～IMG_4406。撮影者：廣田律子。

注目したいのは、記述の中に見られる「上元唐將軍」「下元周將軍」「中元葛將」「犀牛皆上兵」「猛虎毒蛇兵」「旗麟獅子兵」「住宅土地」という神々および將兵の名称である。この中の「上元唐將軍」「下元周將軍」「中元葛將」の三神がまとめて描かれた「唐葛周三將軍」という神画があり「行師」神画中の1点である。「犀牛皆上兵」「猛虎毒蛇兵」「旗麟獅子兵」「住宅土地」は「総壇」という神画の最下部から、それぞれに刀を持って麒麟、獅子、虎、犀、象に乗る5人の男子として描かれた「犀牛皆上兵」「猛虎毒蛇兵」「旗麟獅子兵」と⁽¹²⁾、杖を持っている老者として描かれている「住宅土地」が見られる。「総壇」神画も「行師」神画中の1点である。ここから「下壇兵馬」に属する「上元唐將軍」「下元周將軍」「中元葛將」「猛虎毒蛇兵」「旗麟獅子兵」「住宅土地」などの神將は「行師」神画中の「唐葛周三將軍」「総壇」神画に描かれた神將と対応していることがはっきりと分かる。「行師」神画は「下壇兵馬」を絵で表現されたものだといえよう。

以上述べたように「掛三灯」儀礼を通じ、受礼者は「三灯」を掛けられ「下壇兵馬」を授けられたので「行師」神画を所持および使用資格を得たと判明できる。「行師」神画を所有することは「掛三灯」儀礼が済んだ証し「下壇兵馬」を授けられたことを意味している⁽¹³⁾。

1-2. 「度戒」儀礼における授法の状況について

廣田律子は「構成要素から見るヤオ族の儀礼知識—湖南省藍山県過山系ヤオ族の度戒儀礼・還家願儀礼を事例として—」の中で「ヤオ族の男性は必ず宗教職能者となるイニシエーションを経なければならないとされ、宗教職能者としての法名を得て初めて家を継承する資格つまり先祖の祭祀を行い死後祭祀を受ける資格を獲得することになり、法名は代々の先祖の法名が連記される家先単に加えられる（掛灯儀礼）。その上でさらに宗教職能者としての段階の最高位を獲得するために行われるのが度戒儀礼である。度戒儀礼以前に掛三灯の掛灯儀礼を経なければならないが、まだ実施していない場合は、度戒儀礼の中で補掛三灯儀礼が行われる。さらに十二灯を点す掛十二盞大羅明月灯儀礼が行われ最高の呪法の開天門が伝授され、いくつかの試練を受け、戒を授けられ、最終的に最高位を獲得する」と述べている [廣田 2013a : 1-25]。以下、湖南省永州市藍山県匯源瑶族郷で行われる「度戒」儀礼を構成する儀礼名を示す。

- 1) 湖南省永州市藍山県匯源瑶族郷「度戒」儀礼 [張ほか 2002 : 131-254、ヤオ族文化研究所 2009 : 29-80]

立堂 / 落兵 / 封小齋 / 一次撥兵 / 封大齋 / 二次撥兵 / 串壇迎聖 / 請初夜聖 / 落禁壇 / 発功曹 / 上光・奏表 / 請中夜聖 / 昇刀 / 攀刀山 / 磨刀 / 上光 / 還四府願 / 上光 / 合星拜斗 / 補掛三灯 / 掛十二灯 / 開天門 / 上光・奏表 / 請末夜聖 / 回四府功曹 / 度水槽 / 上刀梯 / 拋老君印 / 度棘床 / 捧火石 / 奏迎兵表 / 游兵游將 / 籤名押字 / 昇老君職位 / 上光・賀詞 / 奏青詞 / 上光 / 招兵 / 分兵 / 開齋 / 合婚合火 / 吃合歛飯 / 宣布戒律 / 上光 / 奏謝聖黃表 / 奏謝罪黃表 / 上光 / 酬謝陰陽師父 / 点破宮門 / 撤壇送聖 / 開禁壇 / 拜師拜散 / 帶兵帰壇 / 送船

- 2) 2008年湖南省永州市藍山県匯源瑶族郷湘蘭村「度戒」儀礼 [廣田ほか 2011 : 3-35、神奈川大学ヤオ族文化研究所ウェブサイト]

安壇 / 封小齋 / 落兵 / 喝落脚酒 / 封大齋 / 認三清 / 出排盞 / 上掛吊 / 上天橋 / 上陰橋 / 喝落脚酒 / 求師 / 勅鑼太鼓 / 拜五方昇鑼鼓 / 拜黃幡拜白幡 / 跑堂 / 請初夜聖 / 円満跑堂 / 上光 (出排盞・求師) / 開壇 / 初夜黃表開天門 / 補掛三灯 / 出排盞 / 請中夜聖 / 中夜道場黃表開天門 / 準備封刀山 / 謝師父 / 求師 / 昇刀 / 翻刀山 (撥刀山) / dou 刀山 / dou 刀山舞 / 謝師父 / 謝功曹 / 試刀梯 / 勅變刀梯 / 接刀 / 出排盞 / 上光 / 還四府願 / 上光賀星拜斗 / 出排盞 / 請末夜聖 / 掛十二盞大羅明月灯 / 開天門 / 度水槽 (撥水槽) / 供青詞 / 勅變符 / 出排盞 / 求師 / 勅變白鶴 / 求師 / 上刀山 (撥刀梯) / 出排盞 / 度勒床 (撥勒床) / 扶罡扶訣・捧火磚 / 遊郷 (昇職位) / 大戒文 / 老君飯 / 奏迎兵表開天門 / 回兵 / 招兵 / 謝師 / 添名押字 / 奏青詞 / 分兵 / 開齋 / 点破宮門 / 送孤神 / 拆榜

(12) ここの武器を持つ虎・牛・象などの動物に乗る5人の武將に関して、廣田律子は「五猖」であるとされる [廣田 2011 : 350]。

(13) 丸山宏氏から、ミエンの祭司が持っている神画は彼らが持っている兵を象徴しているのご指摘を頂いた。

文 / 謝師 / 勸破宮門 / 開禁壇 / 送香炉 / 送庫 / 求師 / 削斎表開天門 / 謝師 / 拆兵拆將 / 降香 / 取聖 / 合婚 / 合伙 / 拜師 / 帯新兵回家 / おのおのの会首の家でやる儀礼 (謝新度兵開天門・招五穀神開天門・安置兵) / 送船上記の「度戒」儀礼を構成する儀礼名の中で、筆者が注目したいのは「補掛三灯」「掛十二灯」「掛十二盞大羅明月灯」「開天門」「攀刀山 (翻刀山)」「度水槽」「度棘床 (度勒床)」「上刀梯 (上刀山)」「捧火石 (捧火磚)」「昇職位」「宣布戒律 (大戒文)」「分兵」という祭司となる掛灯を行う儀礼と、祭司としての階位を高めるため試練を受け、戒を受け、授法される儀礼である。次には、これらの儀礼で具体的にどのようなことが行われ授法されたのかを詳述する。

1-2-1. 「補掛三灯」

度戒儀礼に参加する会首⁽¹⁴⁾の中に「掛三灯」を経過したことがない者がいれば、彼らのために「掛三灯」を補って行わなければならない「補掛三灯」という。「補掛三灯」と前述した「掛三灯」の程序は同様であり、ここでは再述しない。

1-2-2. 「掛十二盞大羅明月灯」

会首たちは「老君櫓」というこしかけに座り、彼らの前に立てた竹で作られた灯台に12個の灯明が置かれ「掛十二盞大羅明月灯」と称する⁽¹⁵⁾。

1-2-3. 「開天門」

「掛十二盞大羅明月灯」後「開天門」儀礼が行われる。張勁松らの報告によれば、この儀礼はいつもの「開天門」儀礼と異なり、実は会首たちに呪術的な技法の「開天門」を伝授する儀礼であるという。会首たちは儀礼を行う正装を着、法具を手に持ち「文台」という板の上に立ち、授法の祭司がどのように天門を開くのかを見る。この儀礼を通じ、会首は最高レベルの呪法である開天門を授法され、天上界の高位神と初めて顔を合わせることができるといふ [張ほか 2002: 185-187]。この「開天門」儀礼は祭司をまねて、学修し再現する方法で呪法が伝授される儀礼であるとされる [廣田 2011: 358]。

1-2-4. 「攀刀山 (翻刀山)」「度水槽」「度棘床 (度勒床)」

張勁松らによれば、度戒儀礼の中では「三戒」があり、それは「攀刀山」「度水槽」「度棘床」を指すという。この「三戒」において、祭司は会首たちを連れて「刀山」を越え「水槽」を渡り「棘床」を渡り、呪法を試させる。これらの儀礼において、祭司は呪法を用いて会首に気を失わせ、冥界に赴かせる。その後、四府功曹神画を掛けられた功曹祭壇の前に出、功曹を使役して会首たちを冥界からこの世に呼び戻す。気を失った会首を座らせ、水を飲ませ、覚醒させる。これは会首を冥界からこの世に帰らせたことを意味しているという。「攀刀山」儀礼を経た後、会首は「刀山法」という呪法を伝授されるという [張ほか 2002: 177-194]。

これらの儀礼に関して、廣田律子はこれは祭司としての階位を高めるための試練であるとしているが⁽¹⁶⁾、筆者は試練だけではなく、またその試練に応じる能力を得ることも示していると考え。なぜならば、前に示した「度戒」儀礼を構成する儀礼名から見ると「翻刀山」「度水槽」「上刀梯」「度勒床」など試練の最後に、必ず「撥刀山」「撥水槽」「撥刀梯」「撥勒床」が行われる。ここの「撥○○」という儀礼は「撥法」の儀礼であり、儀礼を通じて会首は「刀山」「水槽」「勒床」を渡す能力「刀梯」を登る能力を伝授されると考える。

1-2-5. 「上刀梯」「上刀山」

「上刀梯」は、また「上刀山」ともいう。この儀礼は、主祭場の前にある少々離れた広場に建てられた「雲台」

(14) 度戒儀礼に参加する受礼者のこと。

(15) 2010年10月3日に、神奈川大学ヤオ族文化研究所データベース—08年度戒儀礼程序 554-577番を参照した。

(16) 廣田律子は「度戒儀礼においては、掛灯儀礼の他に、受礼者が経なければならぬとされる試練においても、祭司が手本を見せた上、同様のことを受礼者が真似て行う。この試練は陰界に下ってまたこの世に戻って来るとされ、死と再生を象徴して行われる翻刀山・過水槽・過勒床と実体験として剣の梯子に登ったり熱した石や鉄製の犁先を持ち運ぼうとする上刀山・捧火磚からなる。試練を行うにあたり、まず祭司が挑戦し、受礼者はそれに続いて行う。祭司は自ら実践することで指導を行い、受礼者はそれを模倣して行うことで、祭司としての能力を獲得する為に必要とされる経験を経ることになり、結果的に行為の祭司に加わることになる。祭司の継承において、同じ経験をすることは不可欠であり、先達の真似をすることから始まるといえる」と述べている [廣田 2011: 358-359]。

という祭場で行う。「雲台」には12本の刀を交差して作られた「刀梯」を設置し、左右の柱に、総壇神画（1点）と、刀梯を登る場面が描かれた大海幡神画（1点）を掛ける⁽¹⁷⁾。祭司は先に「刀梯」に登り、会首たちは次々と梯を登る。全員に登り終わった後、師棍と鈴を持ち、雲台の上で角笛を吹き「御名意者」などの法事用語を述べるという[張ほか2002:192]。

「刀梯」を降りた会首たちは「雲台」の下で待機する。その後「雲台」の上に立っている祭司は、会首の夫人に印を投げる。夫人は前掛けで印を受け取る⁽¹⁸⁾。また、張勁松らの報告によれば「祭司はまず『太上老君』の印を会首に投げ、後で『太上王姥』の印を会首の夫人に投げる。いずれも跪いて前掛けで受け取る」という[張ほか2002:195]。

「上刀梯」儀礼を通じ、会首たちは「刀梯」を登る試練を受け「刀梯」を登る能力を伝授され、印を授けられる。

1-2-6. 「捧火石（捧火磚）」

祭司は「雪山水」に変じた塩水で手を浸し、熱く熱した犁先と石を手に持ち「花楼」と呼ばれる祭壇の周りを時計と逆に3周する。会首たちは祭司のやったようにまねし「雪山水」で手を浸し、犁先と石を受け取って手の上で転がしささげる。「攀刀山」「度水槽」「度棘床」「上刀梯」儀礼と同様で「捧火磚」儀礼も試練の一つであろう。⁽¹⁹⁾

1-2-7. 「昇職位」

「昇職位」は、また「昇老君職位」ともいう。この儀礼において、祭司は、三清神画（元始天尊・靈寶天尊・道德天尊）の前で、鈴を持ち、会首の法名および職位を記された「職位火牌」と呼ばれる黄紙を玉簡（法具）に載せ神画に近づく。もし三清神の承認を得れば「職位火牌」は自然に神画の上にくっつき、職位が成立する。会首



写真1. 職位火牌⁽²¹⁾



写真2. 職位を三清神に承認してもらう⁽²²⁾

たちはこの儀礼を通じ、正式に三清神の承認した神職を得る。⁽²⁰⁾

1-2-8. 「宣布戒律（大戒文）」

(17) 2014年10月3日に神奈川大学ヤオ族文化研究所データベース—08年度戒儀礼程序619-659番を参照した。また「雲台」に掛けられる神画に関して、張勁松らの報告によれば「刀梯」の右側には、虎に乗った梅山祖師の神画を掛け、左側には刀梯祖師である海幡張趙二郎神画を掛けるという[張ほか2002:191]。

(18) 2014年10月3日に神奈川大学ヤオ族文化研究所データベース—08年度戒儀礼程序647番を参照した。

(19) 2014年10月3日に神奈川大学ヤオ族文化研究所データベース—08年度戒儀礼程序688-696番を参照した。

(20) 2014年10月3日に神奈川大学ヤオ族文化研究所データベース—08年度戒儀礼程序709-710番を参照した。

(21) 職位火牌には「太上奉行金闕玉皇門下奉勅弟子 事臣 馮法有職位陞在浙江省杭州府為號」と記されている。この職位火牌によると、玉皇大帝にかしづく侍臣である馮法有という者は、浙江省杭州府に官職に任じられることが分かる。https://yaoken.sakura.ne.jp/data-room/memonly/image/limage/IMG_5238s 撮影者：廣田律子。

(22) https://yaoken.sakura.ne.jp/data-room/memonly/image/limage/IMG_5292s 撮影者：廣田律子。

祭司は「戒文」を読誦し、会首たちに戒律を伝授するとする [張ほか 2002 : 199]。

1-2-9. 「分兵」

「分兵」儀礼では、会首たちは「分兵旗」を受けられ、領兵・帯兵・引兵の機能も可能となる。またヤオ族文化研究所データベースの度戒儀礼程序から、儀礼において、祭司は下記の「招五穀転兵用」を読誦しつつ、会首に米を投げ、兵を分与すると見られる。「招五穀転兵用」の内容によれば、東西南北と中央の兵は招かれ、合わせて 2,353,000 の兵が授けられていることが分かる。⁽²³⁾

「招五穀転兵用」⁽²⁴⁾

東方一夷兵	九九八十一万一千兵	(東方の一夷兵は、811,000 ある。)
南方八蛮兵	八八六十四万四千兵	(南方の八蛮兵は、644,000 ある。)
西方六榮兵	六六三十六万六千兵	(西方の六榮兵は、366,000 ある。)
北方五元兵	五五二十五万五千兵	(北方の五元兵は、255,000 ある。)
中央三十兵	三九二十七万七千兵	(中央の三十兵は、277,000 ある。)

1-2-10. 「度戒」儀礼から見た授法と「三清兵馬」神画との関連

以上、各儀礼で紹介した受礼者に伝授され法と能力や授けられた兵などをまとめ、下表(表 2. 度戒儀礼で伝授される法と能力の一覧表)に示す。表 2. を見ると「度戒」儀礼に参加する会首は「十二灯」を掛けられ「攀刀山」「度水槽」「度勒床」などの試練を受けて「刀山」を越え「水槽」「勒床」を渡る能力を伝授され「刀梯」を登る試練を受けて老君印を授けられる。さらに三清神に承認された神職を得、2,353,000 の兵を授けられ、最高レベルの呪法である「開天門」を授法されることが分かる。「掛三灯」儀礼で伝授された初級祭司としての習い事と比べ「度戒」儀礼での伝授された呪法や能力のレベルは相当高くなってきたばかりでなく、授けられた兵の数も極めて多くなったということが明らかである。

表 2. 度戒儀礼で伝授される法と能力の一覧表

小儀礼名	伝授される法と能力	所持・使用できる神画
補掛三灯	本稿 1-1. 「掛三灯」の項参照	「三清兵馬」神画
掛十二盞大羅明月灯	12 個の灯明を掛ける	元始天尊神画
開天門	天門を開く呪術的な技法を伝授され、天上界の神々と初対面	靈寶天尊神画 道德天尊神画
攀刀山・翻刀山	刀山を越える能力を伝授され、刀山法を伝授される	玉皇神画
度水槽	水槽を渡る能力を伝授される	聖主神画
度棘床・度勒床	棘床を渡る能力を伝授される	天府神画
上刀梯・上刀山	刀梯を登る能力を伝授され、太上老君と太上王姥の印を授けられる	地府神画 張天師神画
捧火磚	試練の一種	李天師神画
昇職位	三清神の承認した神職を得る	趙元帥神画
宣布戒律・大戒文	戒を伝授される	王靈官神画 大海旛神画
分兵	分兵旗(兵を統率でき使役できる) 兵(2,353,000)を授けられる	十殿神画 など

度々述べているが「度戒」儀礼を経れば「三清兵馬」神画を所有する資格を得るといふ。「三清兵馬」とは「三清」である元始天尊・靈寶天尊・道德天尊が総帥として統率する兵馬だと理解する。「三清兵馬」神画は「三清兵馬」を表わす神画であると考え。祭司の趙金付氏によると「度戒」儀礼で授けられる兵は「上壇兵馬」であるといふ。「上壇兵馬」に関して、請聖書の中に「請上壇兵」という題目の記述があり、記述から「三清」である元

(23) 神奈川大学ヤオ族文化研究所データベース—08 年度戒儀礼程序 709-710 番を参照した。

(24) 神奈川大学ヤオ族文化研究所蔵儀礼文献写真資料である。分類番号 A-16a。写真番号 : DSCN3555。

始天尊・靈寶天尊・道德天尊の三神が先頭に置かれていることが見られる。そこから「三清」は「上壇兵」において最高位の神であると分かる。よって最も高位の神として「三清」は「上壇兵」を統率する力を持っていると考える。換言すれば「三清」が統率する「三清兵馬」という兵はすなわち「上壇兵馬」であり、「三清兵馬」神画は「度戒」儀礼で授けられた「上壇兵馬」を意味している。

「請上壇兵」⁽²⁵⁾

善領善領善領、灵々轉寶第一明香官請、第一香煙請上請上壇兵馬、上清仙境元始天尊、玉清聖境靈寶天尊、太清聖境道德天尊、昊天金闕玉皇大帝、上元一殿天官托帶、中元二殿刀王托帶、下元三殿、甲鴨四官托帶、左殿玄香托帶、右殿蓮花托帶、玉封鳳凰托帶、東旗青山托帶、南旗青花托帶、西旗玄天托帶、北旗紫微托帶、南北二到星君、師聖真人張天大法李天師官、財祿二庫判官、天蓬都元帥、天遊副將軍、海幡張召二郎、聖主打瘟召后三郎、上元五官、押兵都頭七官、中壇穢氣、金剛南天龍樹、北方真武、玄天上帝、觀音菩薩、掌旗封印、金童玉女、四元猛將、下降道場

そして、上記の「請上壇兵」には「三清」のほかには「昊天金闕玉皇大帝」「師聖真人張天大法李天師官」という神名も見られる。これらの神々が描かれた元始天尊神画・靈寶天尊神画・道德天尊神画・玉皇神画・張天師神画・李天師神画はすべて「三清兵馬」神画の中にある神画であるため、「上壇兵」に属する神将と「三清兵馬」神画を構成する最高位の神々の神画とが一定程度の対応関係を持っていると分かる。

また「三清兵馬」神画を構成する神画と「度戒」儀礼で行われる儀礼内容とが関連を有すると考えられる。なぜならば「三清兵馬」神画の中には「大海幡」という神画がある。「大海幡」神画には、必ず「度戒」儀礼で行われた「刀梯」を登る場面が描かれている。さらに神画によっては「大海幡」神は赤色の三角形の物を口にくわえる様子で描かれている。この赤色の三角形の物は「捧火磚」試練の際に、会首たちの手の上で転がしささげた熱く熱された鉄製の三角形の犁先だと考える。「大海幡」神画に「度戒」儀礼で実際に行われるこの二つの試練が描かれていることと「大海幡」神画を所有することの意味は、所有者が「度戒」儀礼を経て「刀梯」を登り「火磚」をささげた試練を乗り越えた証しであろう。また神画所有者である祭司が「刀梯」を登れる能力を有していることも示されていると考えられる。「刀梯」を登り「火磚」をささげる試練のほかには「翻刀山」「度水槽」「度勒床」もあるが、残念ながら、神画に描かれていない。しかし「度戒」儀礼で試練を受け能力を得たことは「大海幡」神画にはっきりと表わされているといえる。

また「開天門」儀礼と「玉皇」神画とが関連を有すると考えられる。「度戒」儀礼で会首たちは「天門」を開く最高レベルの呪法を授法され、天上界の神々と初めて顔を合わせるという。実際の儀礼の中で行われる「開天門」儀礼の際に作成された書類の封筒を見ると、宛先は「金闕玉皇星慈陛下」あるいは「昊天金闕玉皇大帝」と書かれている。よって玉皇は天上界の「金闕」⁽²⁶⁾というところにいる神だと考える。「度戒」儀礼で「天門」を開く呪法の伝授を通じ、会首は呪法を身につけるばかりだけでなく、玉皇と顔見知りになることができると考えられる。つまり、会首が天上界の金闕にいる玉皇との関係を結ぶようになり、今後自ら「開天門」儀礼を行うことができ、玉皇との連絡が取れるようになったものと解釈できる。よって「玉皇」神画を所有することは「度戒」儀礼で最高レベルの「開天門」儀礼を伝授されたということの証しであるばかりでなく、また「天門」を開く能力を持ち、玉皇と連絡する能力を持っていることを示しているといえる。

以上述べているように「度戒」儀礼を通じ、会首は「上壇兵馬」を授けられたので「三清兵馬」神画を所持および使用の資格を得たということを判明できる。「三清兵馬」神画を所有することは「上壇兵馬」を授けられた証しであり、また会首は「度戒」儀礼で試練を受けて祭司としての能力を身につけ、最高レベルの呪法「開天門」を伝授され、玉皇と連絡できる能力を持つことを示している。

(25) 神奈川大学ヤオ族文化研究所収集写真資料。文献番号：A-32a。写真番号：IMG_4405～IMG_4406。撮影者：廣田律子。

(26) 天上界にある仙人或いは天帝たちの住む場所である。

1-3. 儀礼神画の所持および使用の資格

前述したことを踏まえ「掛三灯」儀礼を経れば「三灯」を掛け、祭司となる法名を得「下壇兵馬」と称する兵(36名)を授けられ、「行師」神画(太尉・唐葛周三將軍・海幡張趙二郎・総壇)を所有する資格を得ることができる。「度戒」儀礼を通過すれば「十二盞大羅明月灯」を掛け、最高レベルの呪法を伝授され、いくつかの試練を受けて相応する能力を伝授され、「上壇兵馬」と称する兵(「招五穀転兵用」の内容による2,353,000の兵)を授けられ、祭司としての最高位を得「三清兵馬」神画(元始天尊・靈寶天尊・道德天尊・玉皇・聖主・天府・地府・張天師・李天師・趙元帥・王靈官・大海幡・十殿など)を所有する資格を得ることができる。ここから「掛三灯」から「度戒」儀礼まで、法名を得ることから始めて祭司として最高位まで上がり、身につける呪法と能力が高くなり、授けられた兵の数が増え、兵の等級も高くなったことがはっきりと分かる。これに応じて、神画の所有資格の等級も4点の「行師」神画から十数点の「三清兵馬」神画まで上がる。すなわち神画の所有枚数は、祭司の能力、到達し得た地位の高低に対応し、授けられた兵、そしてその兵の数の多少、兵の等級も意味している。従って、ミエンにおける儀礼神画とは、祭司がどの程度のレベルで、どういった儀礼を行うことができるのかという能力の証しを示す重要な法具として所有され、儀礼に用いられる。従って、このような神画を所持および使用の資格を有するために「掛三灯」「度戒」儀礼を経なければならないのである。

2. 儀礼実践から見た神画の使用

廣田律子は、神画が掛けられた祭壇が設けられ実施されるミエンの行う大規模、中規模、小規模といった三分類の儀礼の構成要素について比較分析し、儀礼の規模の大小にかかわらず、儀礼を構成する重要な骨子となる儀礼は共通しているとされる[廣田2013a:1-25]。その儀礼を構成する重要な骨子となる儀礼は「落兵落将」「落脚酒」「掛聖」「請聖」「上光」「小運銭/大運銭」「収聖」「開齋」「拝師」「散袱酒」「拆兵」となる。中で、本論において注目したいのは、落兵落将、掛聖、収聖、拆兵という神画に直接かかわる儀礼である。この4つの儀礼は、神画を使用する最も基本となる儀礼であるので、本項では、神画を使用する方法の一環として考察する。

また、祭司の趙金付氏によれば、神画を儀礼で用いる際、自ら所有している神画をすべて使用するわけではなく、儀礼において複数の祭司が担当する場合は、その分担する役割に合わせて、適切な神画を祭壇に掛けなければならないという。例えば、開天門儀礼を行う役割の祭司は必ず三清兵馬神画を使用するが、撥兵と請作証儀礼を行う役割の祭司は必ず行師神画を使用するという。このような神画を使用する実態を把握するためには、本項では、数多くの神画を用いる大規模の度戒儀礼と中規模の還家願儀礼を取り上げ、儀礼の実践の中に見られる直接神画とかがわりがあるすべての事柄を詳しく説明し、神画の使用を見ていきたい。

2-1. 「還家願」儀礼から見た神画の使用

張勁松らによれば「還家願儀礼は藍山県の過山系ヤオ族に古くから伝承されている独特な家の儀礼であり、一代毎に必ず掛灯儀礼を1回と、さらに1回の還家願儀礼を行わなければならない。もし三代続けて掛灯と還家願を行わなければ、始祖の盤王はその子孫として認めなくなるという。また分家する場合は、必ず掛灯儀礼を通して認可され、香炉を分け家々の香火を受け継ぐのである」という[張ほか2002:89]。

2011年11月16日から21日まで(旧暦10月21日から26日)に、湖南省永州市藍山県所城郷幼江村の盤家において還家願儀礼が実施された。儀礼の前半は、受礼者たちが祭司となる法名を得、家を継承し先祖の祭祀を行い、自分も家先単に加えられ祀られる資格を得るために行われる掛三灯儀礼が中心となる。さらに以前行われた願掛けが成就したことに対して願ほどきの儀礼も行った。後半はミエンの始祖とされる盤王を祀る儀礼が中心となった。

還家願儀礼の内容に合わせて祭司は招兵師・還願師・掛灯師・賞兵師の役割を分担する。それぞれに趙金付氏・盤保古氏・盤喜古氏が担当し、盤喜古氏は掛灯師と賞兵師の2職を担当した。

表3. 還家願儀礼における祭司の役職・分担された儀礼内容・使用された神画と数

役職	分担された儀礼内容			使用された神画と数
招兵師 (趙金付)	開天門	撥兵	請作証	三清兵馬神画 (14 点)
還願師 (盤保古)		撥兵	請作証	行師神画 (4 点)
掛灯師 (盤喜古)	掛灯	撥兵	請作証	行師神画 (4 点)
賞兵師 (盤喜古)	賞兵			

趙金付氏と盤保古氏は、二人とも度戒儀礼を経て、行師神画と三清兵馬神画を所持しており、開天門儀礼を行う資格を有する祭司である。盤喜古氏は、掛三灯儀礼しか経ていないため、開天門儀礼を行うことができず、行師神画を所持していた。この還家願儀礼では、彼らはそれぞれの所持する神画が用いられた。趙金付氏は、儀礼において最高レベルの呪法の開天門儀礼を行うため、三清兵馬神画が14点用いた⁽²⁷⁾。盤保古氏と盤喜古氏は、撥兵と請作証にかかわる儀礼を行うため、行師神画が4点ずつ用いた。合計22点の神画が祭壇に掛けられた。神画の配置は〈図1〉還家願儀礼神画配置図で示したように、祭壇の中央に元始天尊神画が掛けられ、その左側に靈寶天尊・玉皇・総壇・張天師・三將軍・天府・監齋大王神画が掛けられ、その右側に道德天尊・聖主・太歳・十殿・李天師・地府・大海番・海番張趙二郎・把壇師神画が掛けられていた。

以下では、還家願儀礼の程序の儀礼名を並び紹介する。太字は神画の使用とかかわりがある儀礼である。この中の「落脚酒」儀礼において、神画を使用しないが、儀礼を行う祭司は自身の祭司としての資格について説明を行う儀礼であるため、神画を用いる儀礼と共に太字で示す。また「取法名」に関して「1-1-2-2. 取法名」で詳述しているので、ここでは再述しない。

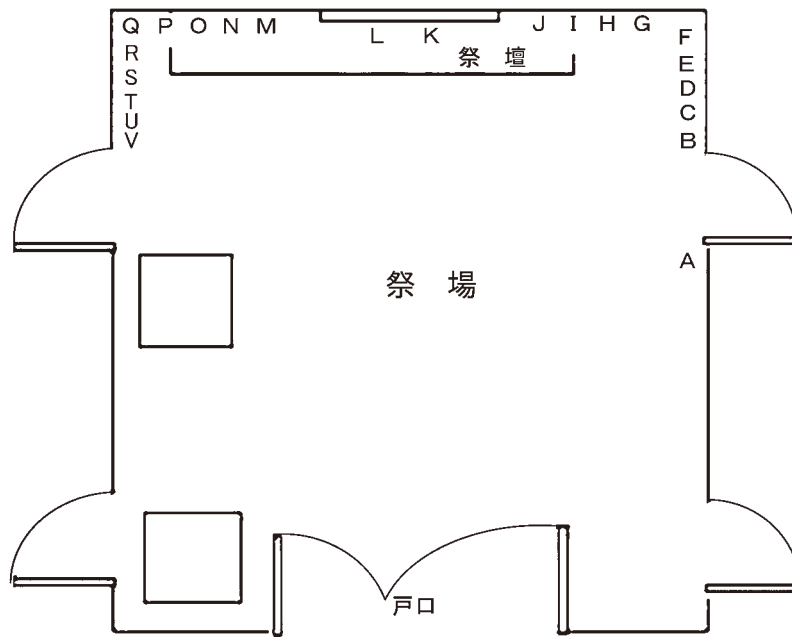


図1. 還家願儀礼神画配置図 [廣田ほか 2012 : 31]

- A : 監齋大王
- B : 天府
- C : 三將軍(盤喜古所持)
- D : 三將軍(盤保古所持)
- E : 張天師
- F : 張天師
- G : 総壇(盤保古所持)
- H : 総壇(盤喜古所持)
- I : 玉皇
- J : 靈寶天尊
- K : 元始天尊
- L : 道德天尊
- M : 聖主
- N : 太歳(盤保古所持)
- O : 太歳(盤喜古所持)
- P : 十殿
- Q : 李天師
- R : 地府
- S : 大海番
- T : 海番張趙二郎(盤保古所持)
- U : 海番張趙二郎(盤喜古所持)
- V : 把壇師

(27) 趙金付氏によれば、還家願儀礼には「上兵」儀礼が行われるので「大道橋梁」神画を使うべきだが、現在この神画が少なくなってきたり破損したら描くことができる人がいないので、儀礼において使うべきなのにほとんど使わないという。

還家願儀礼名⁽²⁸⁾

安家先 / 点兵 / 送書 / **落兵落将** / 脱鞋酒 / 做紙馬 / 石鑿錢酒 / 写願簿 / 做紙馬酒 / 做紙馬 / 紙馬進堂 / **落脚酒** / **掛聖** / 冷排盞 / 点香 / 鑼鼓開始 / 恭賀主家 / 昇香 / 請聖 / 安祖先 (安家先) / 接外祖 / 写家先对聯 / 添香 / 準備五穀幡 / 入席 / 請聖 / 封齋 / 掛家灯 (**取法名**) / 入席 / 開壇還願 / 招兵願 / 大運錢 / 送孤神 / 鑿牲 / 謝師 / 鑿香 / **取聖** / 盤王願 / 拜師 / 散袱酒 / 散袱拜師 / 唱賀歌 / 分紅 / **拆兵** / 唱拆兵歌 / 上馬酒

以上の還家願儀礼名によると、神画の使用にかかわる落兵落将と掛聖は、儀礼の開始段階において行われ、取聖と拆兵は儀礼の終了段階において行われることが分かる。以下この4つの儀礼について紹介する。

2-1-1. 「落兵落将」

落兵落将とは、祭司が使役できる陰界の陰兵を祭壇に降ろすことであるとする [廣田 2013a : 11]。儀礼を行う祭司は、祭場に到着後、すぐ神画を包んだ布包みを持ち、施主の家先壇の前で、拝礼し、念誦しながら落兵落将儀礼を行う。

2-1-2. 「掛聖」

掛聖とは、神画を祭壇周囲の壁に掛けることである。還家願儀礼において、前半と後半を分けて装堂⁽²⁹⁾は2回行われる。前半の儀礼において神画を掛けるが、後半の儀礼が始まる前に、祭壇から神画を降ろし、祭壇をすべてあらためて供物も新たに供えなければならない。このことから、ミエンの始祖である盤王を対象として行われる儀礼の場合は、道教系の神々が中心として描かれた神画を用いないということが分かる。

2-1-3. 「取聖」

取聖儀礼は、掛聖儀礼に対して行われる儀礼である。神画を祭壇から下ろし、巻いてひとまとめにして置くことである。拆兵儀礼が行われる前に、ひとまとめにした神画は師棍に縛られ、祭壇の脇に立てに置かれる。

2-1-4. 「拆兵」

拆兵とは、祭壇を片付け神々を送ることであるという [廣田 2013a : 11]。この儀礼は、落兵落将儀礼に対して行われる儀礼であるため、神々を送ることのほかには、施主の家先壇に降ろした自ら持っている兵を呼び出すことも行われると考える。

拆兵儀礼を行う際に、祭司は、家先壇に向かい、師棍に縛られた神画の包みを持って念誦する。神々に感謝するために、紙銭を焼いて送る。神々がおのおのの居場所に帰ったかどうかを確認するために、卦を見る。また、師棍に縛られた神画の包みを祭壇の戸口の脇に立ち、戸口で神々が送らせたかどうかを卦を見て確認する。儀礼に用いられるすべての神画を祭壇から戸口まで一遍出すことができない。1回に一人の祭司が所有する分の神画しかできない。

ヤオ族文化研究所データベース—11年還家願儀礼程序によると、拆兵儀礼において「唱拆兵歌」という儀礼が行われ、歌娘と呼ばれる女性はテキストを見ながら歌うという。その歌の内容は次のようである。

「拆兵分将起馬登途歌」⁽³⁰⁾

師主化錢神取領	師主は紙銭を焼いて、神はそれを受け取る。
主壇取領送客錢	祭壇で客を送る錢を受け取る。
石灰発散分兵去	石灰のように発散し分兵して去る。
主神送客各帰■	おのおの帰らせるように神を送る。
行司官将取領錢	行司官将は錢を受け取る。

(28) ここの還家願儀礼名は、神奈川大学歴史調査報告第14集『中国湖南省永州市藍山県ヤオ族儀礼文献に関する報告Ⅱ』に報告された「還家願儀礼程序」により作成したものである [廣田ほか 2012 : 33-116]。

(29) 祭壇を作ったり、供物を供えたりすることである。

(30) 神奈川大学ヤオ族文化研究所収集写真資料。文献番号 : Z-29。写真番号 : khi20111120IMG_1200 ~ khi20111120IMG_1202。撮影者 : 廣田律子。2014年8月30日にヤオ族文化研究所データベース—11年還家願儀礼程序 1160-1173番を参考した。

取領拆兵拆将錢	拆兵拆将の錢を受け取る。
取領良錢各轉位	良錢を受け取って、おのおの帰る。
管兵婦去保人丁	兵を引き連れて帰って、家の人々を保護する。
大当 ⁽³¹⁾ 三清取領錢	大道三清は錢を受け取る。
衆神容納拆兵錢	もろもろの神は拆兵の錢を受け入れる。
取領良錢各轉位	良錢を受け取れば、おのおの戻る。
管兵婦去照人丁	兵を引き連れて帰って、家の人々を見守る。
掛灯師爺行司将	掛灯の師爺と行司の将兵
行司官将取領錢	行司官将兵は錢を受け取る。
拆兵良錢取領去	拆兵の良錢が受け取られれば、
管兵婦去轉■	兵を引き連れて帰る。
緊管衆師兵馬去	急いでもろもろの師と兵馬を引き連れて行く。
下壇兵馬轉連々	下壇兵馬はしきりに帰る。
各師兵馬各路去	おのおのの師と兵馬は、おのおのの路で行く。
管兵婦去万千年	兵を引き連れ帰って万千年になる。
一忿 ⁽³²⁾ 復在師人屋	一部は、師人の家に戻る。
轉壇座位照人丁	壇に帰って家の人々を見守る。
一忿随師自■去	一部は、師に従って行く。
随師婦去照師人	師に従って帰って、師人を見守る。
装 馬 去	馬に荷物を積んで行く。
師人拿管伏大堂	師人は管 ⁽³³⁾ を持って、大堂に向かう。
装 馬 去	馬に荷物を積んで行く。
大■装馬出官■	馬に荷物を積んで出て官職につく。
装起馬頭拜三拜	馬頭を飾り付けたら、3回礼拝する。
■■眼淚落淋々	涙で顔がぐしょぐしょになる。
装 馬 去	馬に荷物を積んで行く。
<後略>	

この歌は、もろもろの神を送る様子を描写している。歌には注目する点が三つある。第一は、歌の「師主化錢神取領（師主は紙錢を焼いて、神はそれを受け取る）」「主壇取領送客錢（祭壇で送客錢を受け取る）」「主神送客各婦■（祭壇で客を送る錢を受け取る）」という字句で、師主は祭壇で紙錢を焼き、神々はその錢を受け取って帰宅するのを示していることである。字句中の師主は、拆兵儀礼を行う祭司のことを指していると考えられる。歌のこの部分は、実際の拆兵儀礼で行われた紙錢を焼くことを表わしていると考えられる。

第二には、拆兵儀礼において、具体的にどの神に錢を差し上げるのかを示していることである。歌の内容から、二つの神のグループが見受けられる、一つは「行司官将」であり、もう一つは「大道三清」である。「行司官将取領錢（行司官将は錢を受け取る）」「取領拆兵拆将錢（拆兵拆将の錢を受け取る）」「取領良錢各轉位（良錢を受け取って、おのおの帰る）」「管兵婦去保人丁（兵を引き連れて帰って、人口を保護する）」「大道三清取領錢（大道三清は錢を受け取る）」「衆神容納拆兵錢（もろもろの神は拆兵の錢を受け入れる）」「取領良錢各轉位（良錢を受け取れば、おのおの戻る）」「管兵婦去照人丁（兵を引き連れて帰って、人口を見守る）」という字句から「行司官

(31) 「大当」は「大道」の同音異字だと考える。大道は位の高い神であろう。

(32) 「忿」は「分」の同音異字だと考える。兵馬の一部を現している。

(33) ポエのようなト具である。

将」と「大道三清」の二つのグループの神々は、拆兵の銭を受け取ってからおのおのの居場所に帰ることが読み取れる。そして、神々が帰ったら、よく兵を率いて人口を見守るようにという願いもかけられた。実際の拆兵儀礼の中で、祭司は念誦であれ、占いであれ、いずれも手にひとまとめにした「行師」あるいは「三清兵馬」神画を持っていることを見られる。従って、拆兵歌に記されている「行司官将」と「大道三清」は、実際の拆兵儀礼を行う祭司の手に持っている「行師」と「三清兵馬」神画を指しているのではないかと考える。

第三に、歌は、おのおのの神や兵馬などの帰るべき場所を示していることである。「行司官将」と「大道三清」などの神々はおのおのの居場所に帰るが、祭司の持つ兵に関しては「一分復在師人屋（一部は、師人の家に戻る）」というように自ら祭司の自宅に帰る兵と「一忿随師自去（一部は、師に従って行く）」のように祭司と一緒に帰宅する兵が見られる。実際の儀礼の中で、拆兵儀礼を行う祭司は、それぞれが提供し儀礼に用いられた3セットの神画を、1セットずつ祭場から戸口の外まで送り出す儀礼を行う。儀礼が終了後、神画を提供してくれた祭司たちは各自の神画を持って帰宅する。儀礼から見た神画の取り扱い方から、祭司によって持って帰宅する神画は、拆兵歌中の祭司と一緒に帰る兵だと考えられる。

歌の最後には、神々と別れ、手を切ることができず、涙で顔が破顔した様子を描写している。

上記のように、拆兵儀礼において、歌娘によって歌われる拆兵歌の内容は、祭司が行う送聖、紙銭を焼くなどの儀礼内容と一致することが見られる。特に歌に記される「行師」と「三清兵馬」神画の取り扱い方も儀礼実態と対応していると考えられる。

2-2. 「度戒」儀礼から見た神画の使用

神画の使用を考察する事例では大規模な儀礼として、2008年11月26日から12月10日（旧暦11月2日から16日）に湖南省永州市藍山県匯源瑤族郷湘蘭村で実施された度戒儀礼を取り上げる⁽³⁴⁾。

表 4. 度戒儀礼における祭司の役職・分担された儀礼内容・使用された神画と数

役職	分担された儀礼内容				使用された神画と数
主醮師	上兵	開天門	撥兵	請作証	三清兵馬神画 (14点)、大道橋梁 (1点)
引度師	発功曹	開天門	撥兵	請作証	三清兵馬神画 (14点)、四府功曹 (1対2点)
証盟師	証盟	開天門	撥兵	請作証	三清兵馬神画 (14点)
保拳師	保拳	開天門	撥兵	請作証	三清兵馬神画 (14点)
書表師	撥疏表兵				三清兵馬神画 (14点)
総壇師			撥兵	請作証	行師神画 (4点)
座壇師			撥兵	請作証	行師神画 (4点)
紙縁師					使用不可
					合計：81点

この度戒儀礼の内容に合わせて祭司は、主醮師・引度師・証盟師・保拳師・書表師・座壇師・紙縁師の役割を分担する。この中では、紙縁師を除き他の祭司はそれぞれに開天門、あるいは撥兵と請作証儀礼を分担し、開天門儀礼を行う者は三清兵馬神画を使用し、撥兵と請作証儀礼を行う者は行師神画を用いた。行師と三清兵馬神画のほかには、度戒儀礼では「大道橋梁」と「四府功曹」神画を用いられたことも見られる。主醮師は、開天門のほか「上兵」⁽³⁵⁾ 儀礼を行うので、さまざまな将兵が行列して祭壇に向かってやってくるという内容が描かれた大道橋梁神画を使用した。引度師は、発功曹儀礼を行うので、天府功曹・地府功曹・水府功曹・陽間功曹が描かれた「四府功曹」神画を使用し儀礼を行う必要がある書類を作成する書表師は、開天門・撥兵・請作証などの儀礼を行わないが、撥兵の際に疏表兵を使役して派遣し、天上界と連絡する文書を作成するため、三清兵馬神画を使用しなければならない⁽³⁶⁾。また、紙縁師は主に儀礼に用いられる紙銭の準備と制作を担当するため、神画を使用する必要がない。しかし、開天門儀礼に用いられる紙銭の準備と制作をしなければならないので、紙縁師とい

(34) 2010年9月30日に神奈川大学ヤオ族文化研究所データベース—08年度戒儀礼程序を参照した。

(35) 「上兵」は、祭司はヒ首状の法具を足の甲に置いて家先壇に蹴り入れることである。また「踢兵帰壇」とも称する。

(36) 2008年湘蘭村で行われた度戒儀礼の書表師を担当した馮榮軍氏は、神画を所有していない。儀礼に使ったのは、荊竹坪村寒鷄沖組に住んでいる盤保古氏から借用したものである。

う職を担当する者は、度戒を経過した者でなければいけない。

以上紹介したように度戒儀礼を行うには、計算上は約 81 点の神画が必要になる。しかし、2008 年の度戒儀礼の際に神画が何枚掛けられたのかについて確認されていなかったため、この数字はあくまで理論上のものであるが、実際の儀礼において多少ずれる可能性もあると考える。

度戒儀礼には、神画の使用とかかわりがある儀礼は「落兵落将」「掛聖」「認三清」「上刀梯」「昇職位」「拆兵」などがある。「落兵落将」「拆兵」儀礼に関して、本稿の「2-1. 還家願儀礼から見た神画の使用」の中で詳細に紹介しているが「度戒」儀礼中の同様である儀礼と比べ大きな違いがないので、ここでは詳述しない。「上刀梯」と「昇職位」儀礼に関して「1-2. 度戒儀礼における授法の状況について」の中で詳述しているため、上記と同じ扱いをする。以下、度戒儀礼中の「掛聖」と「認三清」儀礼で行われる内容について詳細に紹介する。

2-2-1. 「掛聖」⁽³⁷⁾

度戒儀礼での「掛聖」において、神画の掛け位置は主祭場では 4 箇所があると見られる。〈図 2〉度戒儀礼主祭場配置図に示したように、主祭場正面にある祭壇 A の左側・正面・右側の壁に「行師」と「三清兵馬」神画が掛けられる。さらに、主祭場の戸口を入ってすぐの左側に設置された B の「天地水陽四府功曹使者聖前之位」祭壇の壁に「四府功曹」神画が掛けられる。「陰橋」には「大道橋梁」神画が置かれ、主祭場の天井近くに設置される⁽³⁹⁾。C の「祖霊旗」の場所に「監斎大王」神画が掛けられる。また儀礼進行中において「上刀梯」儀礼の際に、祭司が主祭場の正面祭壇から「総壇」と「大海番」の 2 点の神画を降ろし、主祭場から離れた「雲台」という祭場まで移動し「雲台」の左右の柱に掛けることも見られるので「度戒」儀礼において合わせて 5 箇所神画を掛けることが見られる。⁽⁴⁰⁾

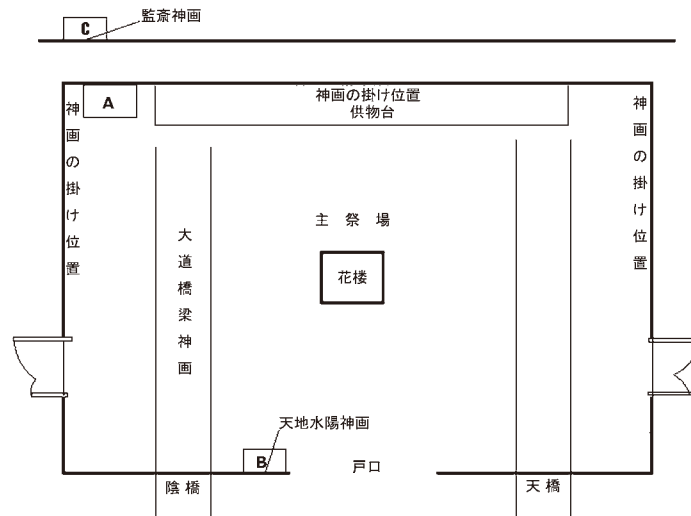


図2. 度戒儀礼主祭場配置図⁽³⁸⁾

A：家奉壇内衆位香火祖宗聖前之位 B：天地水陽四府功曹使者聖前之位 C：祖霊旗

(37) 「掛功德」と呼ばれる場合もある。「功德はまた神軸と呼ばれ、即ち各々の神の画像である。掛功德は即ちこれらの画像を祭壇の上方及び左右の両側に掛けることである。掛ける際に祭司は清水で手を洗い、淫らな話をしてはいけない」とされる[李ほか 2010：13]。

(38) この図は、『瑶族文化研究所通説』第 1 号に掲載された「主祭場平面図」を参考にして作成したものである[ヤオ族文化研究所 2009：3]。

(39) 張勁松らは、『藍山県瑶族伝統文化田野調査』の中で「天橋は、1 丈 4 尺の白布を用いて敷き架けられ、衆堂から祭壇の正面まで至り、正面の外に置かれた「黄幡」に結ばれて、白布の上は 72 名の神が描かれた神軸が置かれている。「天橋」と「陰橋」はそれぞれに天の神々と地の神々がそこで馬車を止めたり馬から降りたりして祭壇に入るための通路である」と述べている[張ほか 2002：143]。張勁松らの報告によって「大道橋梁」神画は「天橋」を現す白布に置かれることが分かる。しかし、2008 年 12 月に藍山県で行われる度戒儀礼の際に「大道橋梁」神画は「天橋」に置かれてなく「陰橋」に置かれたと見られる。

(40) 2014 年 9 月 30 日に神奈川大学ヤオ族文化研究所データベース—08 年度度戒儀礼程序 41-46 番を参照した。



写真 3. 陰橋の上に大道橋梁神画を置く⁽⁴¹⁾



写真 4. 陰橋を主祭場の中へ入れる⁽⁴²⁾



写真 5. 主祭場の中から見た陰橋の様子⁽⁴³⁾



写真 6. 四府功曹神画を掛ける⁽⁴⁴⁾



写真 7. 祖霊旗の位に掛けられた監斎大王神画⁽⁴⁵⁾

2-2-2. 「認三清」

「認三清」儀礼において、祭司たちは神画を出して主祭場の正面および左右の壁に裏返して掛ける。そして主祭場の床の敷物の上に布団を敷く。神画が掛けられた正面の壁の裏には、酒甕が置かれ、会首の夫人たちは酒甕の前に並んで立つ。祭司は会首たちと共に靴を脱ぎ、布団に入る。電気を消して真っ暗にし、会首たちはいびきかき寝ている様子にする。笛で鶏の鳴きまねを 11 回する。また 3 回鳴らしてから、シンバルで鶏が羽根を鳴る音を鳴らす。また鶏の鳴きまねを 4 回すると、会首たち

は布団から起き出して靴を履く。壁の裏に立つ夫人に、白布の端を壁越しに渡す。夫人は渡された白布を受け取り布の端を酒甕の上に畳んでおく。⁽⁴⁶⁾

同様な儀礼は、張勁松らの『藍山県瑶族伝統文化田野調査』および、李祥紅らの『湖南瑶族抖篩田野調査』の中に報告されている⁽⁴⁷⁾。『藍山県瑶族伝統文化田野調査』の方により詳細に報告されているので、以下のように紹介する [張ほか 2002: 158]⁽⁴⁸⁾。

(41) https://yaoken.sakura.ne.jp/data-room/memonly/image/limage/IMG_1813s- 撮影者：廣田律子。

(42) https://yaoken.sakura.ne.jp/data-room/memonly/image/limage/IMG_1850s- 撮影者：廣田律子。

(43) https://yaoken.sakura.ne.jp/data-room/memonly/image/limage/IMG_1864s- 撮影者：廣田律子。

(44) https://yaoken.sakura.ne.jp/data-room/memonly/image/limage/IMG_2072s- 撮影者：廣田律子。

(45) https://yaoken.sakura.ne.jp/data-room/memonly/image/limage/IMG_2127s- 撮影者：廣田律子。

(46) 2014 年 9 月 30 日に神奈川大学ヤオ族文化研究所データベース—08 年度戒儀礼程序 61-71 番を参照した。

(47) 『湖南瑶族抖篩田野調査』の中に「認三清」「寄魂」儀礼と同じの「蓋酒缸」という儀礼が報告されている。酒甕の上に白布を畳むことの意味について、李祥紅らは「これは全ての禁忌を酒甕の中で封じると意味している。入睡(布団に入って寝ること)起床(起きること)は、新たな生活の開始を表わし、師男全員は素人の態度を以て学び始めると表わす」という。[李ほか 2014: 101]

(48) 引用の日本語訳は「張勁松著『藍山県瑶族伝統文化田野調査』第四章 度戒 岳麓書社出版 pp.131 ~ 254 翻訳』『瑶族文化研究所通訊』第 1 号を参考にしたものである [ヤオ族文化研究所 2009: 46-47]。



写真 8. 神画を裏返して掛ける⁽⁴⁹⁾



写真 9. 壁の裏に並んで立つ夫人たち⁽⁵⁰⁾



写真 10. 布団中で熟睡しているふりをする会首たち⁽⁵¹⁾



写真 11. 会首から渡された白布を引く夫人たち⁽⁵²⁾



写真 12. 酒甕の上に畳んだ白布⁽⁵³⁾



写真 13. 主祭場側に残した白布の一端⁽⁵⁴⁾

「封大斎」儀礼の際に「寄魂」と称する儀礼が行われ、藍山県では「封酒瓮」とも称する。儀礼の程序は次となる。新たに「度戒」儀礼を受ける受礼者たちが各々の1枚の蓆と1幅の神画を持ち、上着を脱いで短パンになり、三清神画の前に立つ。その次に蓆を敷き、神画を枕に、その上に熟睡しているふりをする。その妻たちは、三清神画を掛ける壁の後ろに、一つの酒甕を準備しておく。祭司たちは長さ1丈2尺の白布を用い、一方の端を会首の頭の下にあて、もう一方の端を三清神画の上方から壁の後ろにいる会首の妻に向かって放る。「白布金橋」が架けられたと意味する。全て用意が整い開始となり、灯火を消され、しんとした物音ひとつなく、ちょうど夜が更けて人が寝静まるようで、一面が蕭然とする。しばらくすると会首たちは躰をかき熟睡しているふりをする。吹笛師はチャルメラで鶏の鳴きまねをし、3回を吹くことで真夜中の三更の刻を表

(49) https://yaoken.sakura.ne.jp/data-room/memonly/image/limage/IMG_1541s 撮影者：廣田律子。

(50) https://yaoken.sakura.ne.jp/data-room/memonly/image/limage/IMG_1550s 撮影者：廣田律子。

(51) https://yaoken.sakura.ne.jp/data-room/memonly/image/limage/IMG_1556s 撮影者：廣田律子。

(52) https://yaoken.sakura.ne.jp/data-room/memonly/image/limage/IMG_1562s 撮影者：廣田律子。

(53) https://yaoken.sakura.ne.jp/data-room/memonly/image/limage/IMG_1571s 撮影者：廣田律子。

(54) https://yaoken.sakura.ne.jp/data-room/memonly/image/limage/IMG_1573s 撮影者：廣田律子。

わす。ここで会首たちが起き、白布の一方の端を持ち、彼らの妻たちは三清神画を掛けた壁の後ろで力を入れて白布を引く。白布を全部引いてしまうと酒甕の口に被せられてきつく封じられることになる。これは会首夫婦の三魂七魄を三清殿の下の空の雲中に宿らせることで、邪魔悪鬼の急襲を免れ、体は人間界に留まり度戒を受けるという意味である。

以上、紹介した儀礼の内容から見ると、儀礼を行われる場所は、三清神画を掛けた壁の主祭場側と裏側で行われることが分かる。儀礼において、裏返して掛けられた三清神画は、三清殿の向きを表わしていると考えられる。三清神画を掛けた壁と壁の裏に置かれた酒甕は、それぞれに三清殿と三清殿の下の空の雲を象徴している。主祭場側にいる会首は、白布を壁の裏に立つ夫人に渡して「金橋」を架けることによって、三魂七魄は三清殿の下の空の雲に運ばれる。また夫人は会首から渡された白布の端を酒甕の上で畳み、これで張勁松が解釈した「夫婦の三魂七魄を三清殿の下の空の雲中に宿らせることができた」と考えられる。封じられた酒甕は「開齋」儀礼の際に開けられ、これによって会首夫婦の三魂七魄がもとの体へ戻されることが意味されている。この儀礼において、三清神画の使用によって、三清殿を象徴する儀礼空間が表現されていることが判明した。つまり、神画の使用は儀礼空間を構築する機能を果たしているといえる。

2-2-3. 儀礼内容から見た神画の使用

以上「還家願」儀礼と「度戒」儀礼の事例を取り上げ、儀礼の実践において見られる神画を使用する最も基本となる「落兵落将」「掛聖」「収聖」「拆兵」儀礼について考察した。その他には「還家願」儀礼と「度戒」儀礼において、おのおのの祭司がどのように自らの分担する役割に合わせて適切な神画を祭壇に掛けるのかについて詳述し、神画の使用を見てきた。「落兵落将」「掛聖」「収聖」「拆兵」儀礼を除き、神画の使用とかわりがある儀礼は「還家願」儀礼には「掛三灯」中の「取法名」などの儀礼が見られ「度戒」儀礼には「認三清」・「補掛三灯」の「取法名」・「上刀梯」・「昇職位」などの儀礼が見られる。特に「認三清」・「上刀梯」・「昇職位」は「還家願」および他の儀礼の中で行わない儀礼であるため、「度戒」儀礼において神画の使用とかわる特有な儀礼だと考えられる。

以下では「還家願」儀礼と「度戒」儀礼から見た神画の使用をまとめる。

儀礼神画は、必ず1セット単位として用いられる。儀礼を行う祭司の能力と分担する役割み合わせて「行師」神画あるいは「三清兵馬」神画を使用する。儀礼において複数の祭司が担当する場合は、その能力と分担する役割に合わせて、適切な神画を祭壇に掛けなければならない。開天門儀礼を行う役割の祭司は必ず「三清兵馬」神画を使用し、撥兵と請作証儀礼を行う役割の祭司は必ず「行師神画」を使用する。上兵儀礼を行う役割の祭司は「三清兵馬」神画に「大道橋梁」神画を1点追加して使用する。「発功曹」儀礼を行う役割の祭司は、同じように「三清兵馬」神画に「四府功曹」神画（1対2点）を追加して使用しなければならない。

儀礼神画は、すべて儀礼を行う祭司の私有物である。儀礼を行う際に、祭司が神画を持っていない場合は、他人から借りてでも用意しなければならない。

祭場における神画の掛け位置は、神画の等級および神画に描かれた神の位の高低によって決める。「三清兵馬」神画と「行師」神画の掛け位置は、主祭場の正面およびその左右の壁となる。「三清兵馬」神画は「行師」神画より等級が高いため「三清兵馬」神画中の位が比較的に高い神々が描かれる神画は大体主祭場の正面に掛け、最も位が高い三清神（元始天尊・靈寶天尊・道德天尊）の神画は必ず中心位置に掛ける。

祭壇における神画の掛け位置は、神画に描かれた内容によって決める。「四府功曹」神画には、鶴に乗る天府功曹・虎に乗る地府功曹・龍に乗る水府功曹・馬に乗る陽間功曹が描かれており、4人の功曹とも手に文書を持って高く上げて進呈するような姿勢となる。これらの功曹は祭司に使役され祭壇から天府・地府・水府・陽間までの間で往来し情報をしらせる役目をする。よって「天地水陽四府功曹使者聖前之位」という専用の祭壇に掛けられる。「大道橋梁」神画は、祭壇に向かって列が並んでやってくる神々の様子が描かれているため、天橋に置かれ、天橋と共に主祭場の天井近くに設置され、天の神々が祭壇に入る通路として用いられる。「大海番」神画に

は、刀の梯子を登る場面を描かれているため、「上刀梯」儀礼を行う「雲台」という祭場に掛けられる。

以上見てきた神画の使用にかかわる儀礼の中で、最も興味深いのは三清神画を用いる諸儀礼である。これらの儀礼は「掛三灯」（「補掛三灯」）儀礼の中で行われる「取法名」儀礼、「度戒」儀礼で行われる「昇職位」儀礼と「認三清」儀礼である。

「認三清」儀礼を除き、他の二つの儀礼の所作は非常に相似している。「取法名」儀礼は受礼者の法名を三清の承認を得るために、祭司は受礼者の生年月日を記した紙を牙簡に載せ、三清神画に貼り付けるという所作が見られる。「昇職位」儀礼は受礼者の職位を三清の承認を得るために、祭司は受礼者の法名と職位を記した「職位火牌」という黄色の紙を牙簡に載せ、三清神画に貼り付けるという所作が見られる。これらの紙が自然に神画に吸い付くと、三清神の内の1柱の神の承認を得、三清神との縁を結んだことを意味をする。この二つの儀礼によって、ミエンの人々にとって、祭司となるために法名を獲得すること、死後の陰職（冥界での官職）を成立させることという人生の重要な段階において、必ず三清神と縁を結んで三清神の保護と承認をもらわなければならないということが分かる。また「認三清」儀礼を通じて夫婦二人の三魂七魄を三清殿の下の空の雲中に宿らせ、「度戒」儀礼に参加する最中に邪魔悪鬼の急襲を免れるということも、三清神の保護を受けていると見られる。以上の儀礼における三清神画の使用によって、ミエンの人々にとって、三清神は最も位の高い神であることは明らかである。

2-2-4. 儀礼における神画の役割

以上、湖南省永州市藍山県で行われた度戒儀礼と還家願儀礼を取り上げ、儀礼実践の中で神画はどのように用いられたのかを考察してきた。儀礼実践中での神画の使用から、神画は以下の役割を果たしていると考えられる。

2-2-4-1. 儀礼の規模の大小を示す役割を果たす

神画を用いるミエン儀礼は大中小規模のものがある。異なる規模の儀礼において、用いられる神画の数が異なる。小規模の葬送儀礼では4点の「行師」神画を用いる。中規模の還家願儀礼では「三清兵馬」神画と「行師」神画を合わせて約20点余を用いる。大規模の度戒儀礼では主に「三清兵馬」神画を用いるが、約80点以上の神画を使用することが見られる。よって、儀礼において祭壇にどれほどの数の神画を掛けられているのかを見ると、その儀礼の規模の大小がすぐ分かるものである。

2-2-4-2. 儀礼担い手である祭司の等級および能力の高低を示す役割を果たす

神画の所持および使用は宗教的な段階を経なければならない。「掛三灯」儀礼を経れば、下壇兵馬を授けられ、4点の「行師」神画を使用する資格を得る。「度戒」儀礼を経れば、上壇兵馬を授けられ、十数点の「三清兵馬」神画を使用する資格を得る。「掛三灯」儀礼から「度戒」儀礼まで、受礼者は祭司としての最高位を獲得し、授けられる兵の数および兵の等級も増え、儀礼を執行する能力も高くなっていく。それに対応し、使用できる神画の枚数および等級も4点の「行師」神画から十数点の「三清兵馬」神画まで上昇する。これの意味するところは、祭司の能力の高低、使役できる兵の数および等級は儀礼に用いられる神画の枚数および等級に比例しているのである。よって、儀礼に用いられる神画の種類を見れば、その神画の持ち主である祭司は「掛三灯」を経たか否かだけでなく、「度戒」儀礼を経たことを判断できるばかりでなく、祭司は儀礼を執行できる能力の高低、儀礼を行うためどれほどの数の兵、どの等級の兵を祭場に連れて使役するのかを判明できる。

2-2-4-3. 聖なる儀礼空間を現出させる役割を果たしている

神画は儀礼に用いられる際に、主に祭場の正面とその左右の壁に掛ける。小規模の葬送儀礼が行われる際に、4点の「行師」神画を掛け⁽⁵⁵⁾、正面の壁の中央しか使わない。大規模の度戒儀礼および中規模の還家願儀礼を行う場合は、数多くの神画を掛けるので、祭場の真正面とその左右の壁が完全に利用される。神画に囲まれる場所は、儀礼を行う主な場所となる。このように祭壇に掛けられる神画は、儀礼空間を現出させる役割を果たしている。

(55) 廣田律子の聞き書きによれば、死者は生前に度戒儀礼を経た場合は、葬送儀礼の際に、祭壇に十数枚の神画を掛けなければならないとする。十数枚の神画というのは、死者が持っている「上壇兵」と「下壇兵」に対応する「三清兵馬」神画と「行師」神画だと考える。

ると考える。

2-2-4-4. 法術を伝授する役割を果たす

ミエンが伝承している儀礼神画の中に必ず大海幡が描かれた神画がある。大海幡神画にはミエンが伝承している度戒儀礼の際に行われる刀の梯子を登る「上刀梯」儀礼の場面が描かれている。これは、絵画でミエンの伝承している儀礼内容を再現する手法であると考えられる。大海幡神画は「上刀梯」儀礼の実践において、刀梯の横に掛けられる。刀梯を登る受礼者たちは、まず大海幡神画に描かれる刀梯を登る様子を見て心で悟り、次いでに儀礼を行う祭司がどのように刀梯を登るのかを確認し、同様のことをまねして刀梯を登る試練を自ら試みる。ここから、刀梯を登ることが描かれた大海幡神画は、絵画でミエンが伝承している法術を記録して伝授しようとした教科書であるといえる。よって、儀礼における大海幡神画の使用は法術を伝授する役割を果たしているといえる。

2-2-4-5. ミエンのパンテオンを表わす役割を果たす

ミエンの伝承している儀礼神画には、元始天尊、靈寶天尊、道德天尊、玉皇、聖主、天府、地府、張天師、李天師、鄧元帥、馬元帥、大海幡、十殿、太尉などの神々が描かれている。神画を用いる儀礼において、高位神である元始天尊、靈寶天尊、道德天尊、玉皇、聖主が描かれた神画は祭場の正面の壁に掛けられ、その左右に順次に天府、地府、張天師、李天師などの神が描かれた神画が掛けられる。元帥神が描かれた神画は通常左右の壁の外側に掛けられ、神画に囲まれて作られた祭場の両側から、祭場および正面壁に掛けられる高位神が描かれた神画をガードするように配置される。儀礼を行う際に、祭司は神画に囲まれる祭場で、正面壁に掛けられる高位神が描かれた神画の前で、請聖書に収められる神々に関する記述を誦読し、もろもろの神を祭場に降臨するように招請する「請聖」儀礼を行う。祭場に掛けられるさまざまな神が描かれた神画の位置は、祭場に降臨したその神の居場所を示していると考えられる。そこに掛かっている神画に描かれた内容を見ると、その神の姿がすぐ分かる。さらに、祭司によって誦読された神々に関する記述を聞くと、神画に描かれた神々の生年月日・誕生時刻・格好・姿勢などに関して一層し知るようになる。こうした儀礼における神画と儀礼文献を組み合わせることで使用することから、見ることで聞くことからミエンのパンテオンを表わしているといえる。よって、儀礼における神画の使用は、ミエンのパンテオンを視覚的に表わす役割を果たしているといえる。

3. ミエン儀礼神画の持つ意味

本稿では、ミエンの祭司はどのような宗教段階を経て儀礼神画を所持および使用する資格を獲得するのか、儀礼実践において神画はどのように用いられるのかについて、湖南省永州市藍山県で実際に行われた儀礼を事例として取り上げて考察した。考察を通じ、ミエンの祭司と神画との関係、儀礼神画の持つ意味を明確にした。

藍山県では、祭司になる者は「掛三灯」儀礼を通じ、三つの灯を掛けられ、祭司となる法名を得、36の兵を授けられ、下壇兵馬を使役できるようになり、鈴とドラの鳴らし方・角笛の吹き方・ト具の使い方・舞の舞い方・罡歩の歩み方などを授法される。「掛三灯」が済んだ者は、三戒法師の中戒にあたる地位まで至ることができる⁽⁵⁶⁾。同時に「行師」神画を所有および使用する資格を得ることができる。また「度戒」儀礼を通じ、十二の灯を掛けられ、いくつかの試練を受けて相応する能力を授法されると、最高レベルの天門を開く呪術まで授けられ、あの世での官職や老君印を獲得し、2,353,000の兵や分兵旗を授けられ、上壇兵馬を使役できるようになる。「度戒」儀礼を経ると、祭司としての最高位を得、三戒法師の上戒にあたる地位まで至ることができる。そして同時に「三清兵馬」神画を所持および使用する資格を得ることができる。

こうしたことから「掛三灯」を経て「度戒」儀礼を経ると、祭司となり法名を得、祭司としての最高位まで上がり、高い呪法と能力を身につけ、授けられた兵の数が増え、兵の等級も高くなったことがはっきりと分かる。これに応じて、神画を所有できる枚数や内容などの資格の等級も「行師」神画から「三清兵馬」神画まで上がる。

(56) 三戒法師の三戒には、上、中、下がある。中戒は掛三灯の際に法師が弟子に与えるものである。上戒は度戒において掛十二灯を済ませることである[丸山 2010: 24]。

こうした儀礼神画の枚数および等級は、祭司自身の到達した地位の高低、授けられた兵の数の多少、兵の等級の高低、祭司の兵を使役する能力の高低、身につけた法術の難易などを意味している。祭司の儀礼を執行できる能力を与えられるためには、兵の伝授は不可欠である。従って、ミエンにおける儀礼神画とは、使役できる兵を獲得したということの証し、また祭司がどのレベルの、どういう儀礼を実施することができるのかという祭司自身の能力を証明する重要な法具として所有され、儀礼に用いられるのである。

ミエンが伝承している神画を用いる儀礼において、祭司たちは、それぞれに分担する儀礼内容に合わせて異なる神画を使用しなければならない。最高レベルの呪法である開天門儀礼を行う祭司は、必ず「三清兵馬」神画を使用する。「撥兵」「請作証」儀礼を行う祭司は「行師」神画を使用するのである。ここから神画の使用は祭司が施せる呪法の内容と直接かかわっていると判明できる。

また、儀礼に用いられる神画の数から見ると、小規模な葬送儀礼では4点の「行師」神画を使い、還家願儀礼のような中規模な儀礼において約二十数点を使い、大規模の度戒儀礼では80点以上の神画を使用している。これは、儀礼の規模の大小、祭司の執行する儀礼の難易度の高低、そして祭司が儀礼を執行できる能力の高低などはすべて儀礼に用いられる神画の枚数および等級に比例しているということの意味している。その前提には「掛三灯」と「度戒」儀礼を経ることで祭司が使役し得る兵の数・兵の等級が変化という考えが存在する。

参考文献

竹村卓二

1981 『ヤオ族の歴史と文化』弘文堂

張勁松 趙群 馮栄軍

2002 『藍山瑶族传统文化田野調査』岳麓書社出版

馮栄軍

2010 「中国湖南省藍山県過山瑶族度戒儀式過程中書表師的職責和書表執行」『瑶族文化研究所通訊』第2号 ヤオ族文化研究所 pp.75-79

廣田律子

2011 『中国民間祭祀芸能の研究』風響社

2013a 「構成要素から見るヤオ族の儀礼知識—湖南省藍山県過山系ヤオ族の度戒儀礼・還家願儀礼を事例として—」『國學院中國學會報』第58輯 國學院大學中國學會 pp.1-25

2013b 「湖南省藍山県過山系ヤオ族の祭祀儀礼と盤王伝承」『東方宗教』第121号 日本道教学会 pp.1-23

廣田律子 三村宜敬 佐川潤子 李利 内藤久義 譚静 財津直美 大木都志男

2011 『神奈川大学歴史調査報告第12集・中国湖南省藍山県ヤオ族儀礼文献に関する報告Ⅰ』神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科

廣田律子 三村宜敬 譚静 財津直美 大木都志男 岡田浩司ほか

2012 『神奈川大学歴史調査報告第14集・中国湖南省藍山県ヤオ族儀礼文献に関する報告Ⅱ』神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科

松本浩二

2010 「『掛三燈』の儀礼」『瑶族文化研究所通訊』第2号 ヤオ族文化研究所 pp.6-16

丸山宏

2010 「湖南省藍山県ヤオ族传统文化の諸相—馮栄軍氏からの聞き取り内容—」『瑶族文化研究所通訊』第2号 ヤオ族文化研究所 pp.19-25

ヤオ族文化研究所

2009 『瑶族文化研究所通訊』第1号

2010 『瑶族文化研究所通訊』第2号

2011 『瑶族文化研究所通訊』第3号

吉野晃

2010 「ユーミエンの儀礼の研究における課題：儀礼の意味と伝承、不易と変差」『瑶族文化研究所通訊』第2号 ヤオ族文化研究所 pp.17-18

2011 「〈掛三台燈〉の構造と変差：タイ、ラオス、中国湖南省永州市藍山県のユーミエンにおける〈掛燈〉の比較研究」『瑶族文化研究所通訊』第3号 ヤオ族文化研究所 pp.35-40

李祥紅 鄭艶瓊

2010 『湖南瑶族奏鑼田野調査』岳麓書社

2014 『湖南瑶族抖篩田野調査』岳麓書社

瑶族文化研究所 通訊 第五号

2015年 3月 23日 発行

編集・デザイン
ヤオ族文化研究所
岡本 浩一

表紙写真撮影
廣田 律子

裏表紙写真撮影
廣田 律子

発行
ヤオ族文化研究所

印刷
株式会社ポートサイド印刷

※本書の内容について文書による許可なく、無断転載・複製することを禁じます。

又具衣祿黃表文
太上奉行比極聖邪院川通閭梅初戒
誠隍誠恐稽首頓首俯伏百拜上奏

大泰國暹羅道



入念敖半河邊龍為寨

立宅居住奉

真祈福求衣祿保安家主鄧法金
鄧法度鄧氏者鄧法定鄧氏者鄧法春
鄧法亮鄧氏者鄧法安趙氏者

瑶族文化研究所通訊 第五号

発行日 2015年3月23日 編集・発行 ヤオ族文化研究所

〒259-1293 神奈川県平塚市土屋 2946 神奈川大学 湘南ひらつかキャンパス 1号館 238 室

廣田研究室内 ヤオ族文化研究所

Tel.: 0463-59-4111 E-mail: hirotr01@kanagawa-u.ac.jp URL: http://www.yaoken.org/